

# 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

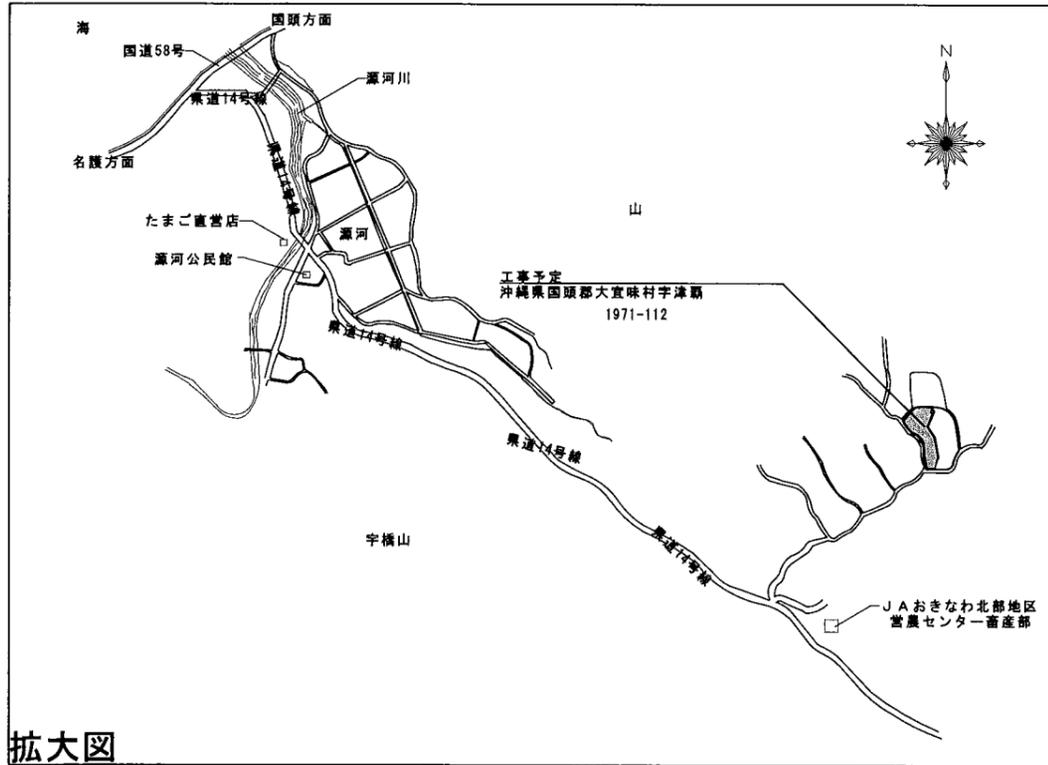
## 図面目録

番号	図面名称	番号	図面名称	番号	図面名称	番号	図面名称
A-1	特記仕様書 1	A-25	鶏舎 機械設備 (給餌・搬送設備平面配線図)	S-1	鶏舎 構造特記仕様書	T-1	堆肥舎 配置図・敷地求積図
A-2	特記仕様書 2	A-26	鶏舎 機械設備 (機械設備矩計図)	S-2	鶏舎 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	T-2	堆肥舎 平面図・屋根伏図・立面図
A-3	特記仕様書 3	A-27	鶏舎 機械設備 (給水詳細平面図)	S-3	鶏舎 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	T-3	堆肥舎 断面詳細図・部分詳細図
A-4	見取図・配置図	A-28	鶏舎 機械設備 (給水詳細図 1)	S-4	鶏舎 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)	TS-1	堆肥舎 ボーリング位置図・土質柱状図
A-5	全体配置図	A-29	鶏舎 機械設備 (給水詳細図 2)	S-5	鶏舎 鉄骨標準図 (1)	TS-2	堆肥舎 伏図・柱芯線図
A-6	鶏舎 敷地求積図・面積表	A-30	鶏舎 機械設備 (低圧単線結線図)	S-6	鶏舎 鉄骨標準図 (2)	TS-3	堆肥舎 軸組図
A-7	鶏舎 平面図・屋根伏図・仕上表	A-31	鶏舎 機械設備 (制御盤平面配線図)	S-7	鶏舎 ハイベースNEO設計施工標準図-1	TS-4	堆肥舎 RC・鉄骨部材リスト
A-8	鶏舎 立面図	A-32	鶏舎 機械設備 (電灯平面配線図)	S-8	鶏舎 ハイベースNEO設計施工標準図-2	TS-5	堆肥舎 鉄骨詳細図
A-9	鶏舎 断面図	A-33	鶏舎 機械設備 (照明器具姿図)	S-9	鶏舎 梁貫通補強基準図		
A-10	鶏舎 平面詳細図 1	A-34	鶏舎 機械設備 (立面配置図面)	S-10	鶏舎 ボーリング位置図・土質柱状図		
A-11	鶏舎 平面詳細図 2			S-11	鶏舎 伏図		
A-12	鶏舎 小屋伏図・天井伏図			S-12	鶏舎 軸組		
A-13	鶏舎 矩計図 1			S-13	鶏舎 鉄骨部材・基礎・基礎梁リスト・雑配筋詳細図		
A-14	鶏舎 矩計図 2			S-14	鶏舎 鉄骨詳細図		
A-15	鶏舎 外部胴縁図 1						
A-16	鶏舎 外部胴縁図 2						
A-17	鶏舎 内部胴縁図 1			E-1	鶏舎 特記仕様書・全体配置図		
A-18	鶏舎 内部胴縁図 2			E-2	鶏舎 キュービクル単線結線図		
A-19	鶏舎 A展開図			E-3	鶏舎 幹線系統図		
A-20	鶏舎 B展開図			E-4	鶏舎 構内幹線配線図		
A-21	建具表			E-5	鶏舎 構内警報設備配線図		
A-22	鶏舎 外構図			M-1	鶏舎 特記仕様書・案内図		
A-23	法規チェックリスト			M-2	鶏舎 給水配管全体配置図		
A-24	鶏舎 機械設備 (換気設備配線平面図・機械設備機器表)			M-3	鶏舎 構内給水配管図		

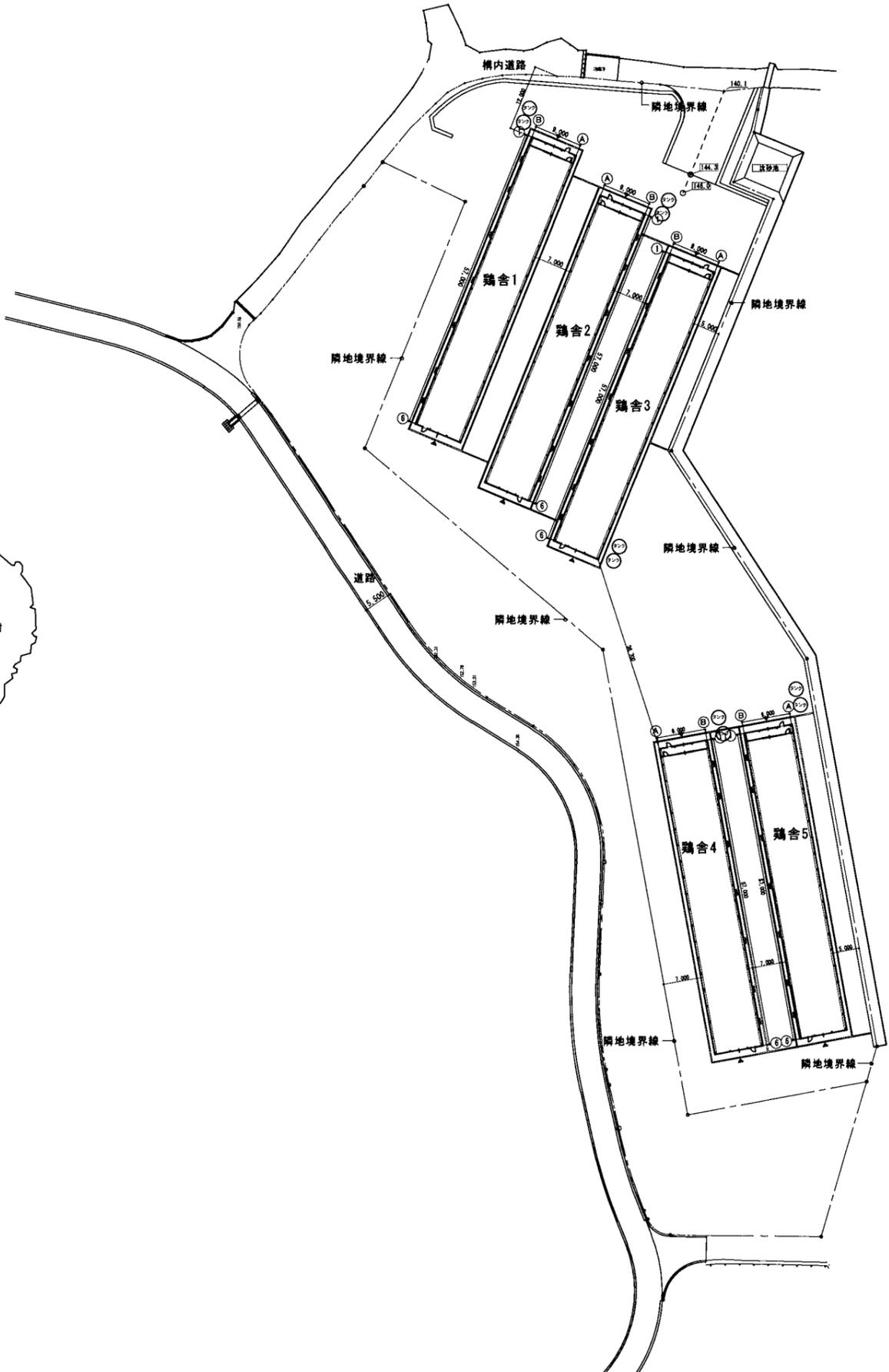
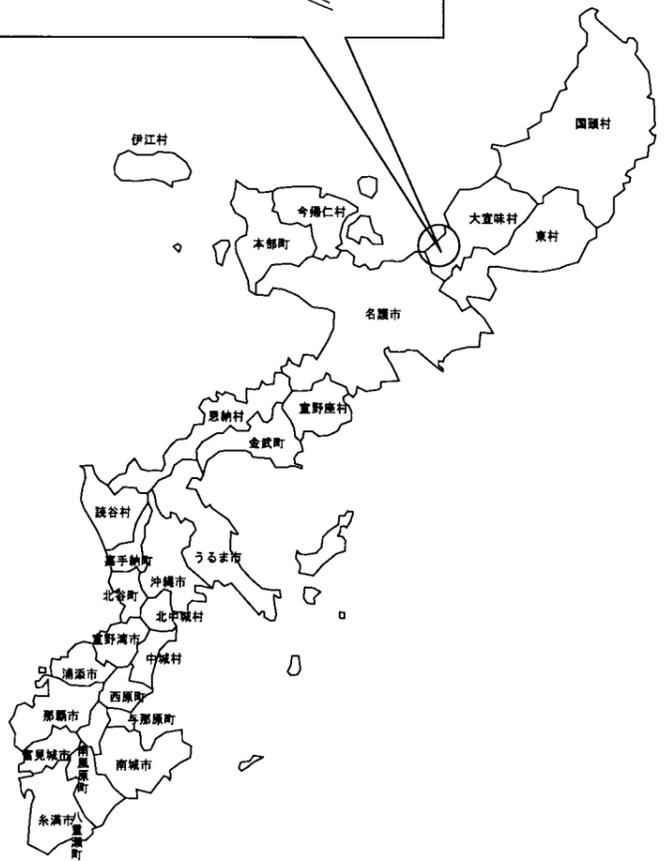


章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項
4 地業工事	(3) 鉄の品質等 (4.3.3) ~ (4.3.7) (4.4.3) ~ (4.4.6) 設計支持力 規定支持力の算定方法 水平方向のずれ許容 掘削方法 坑底の処理 (4) 支持地盤 (4.3.3) ~ (4.3.5) (4.4.3) (4.4.4) (4.5.4) (4.5.5) 支持地盤の位置 支持地盤の種類 支持地盤への掘削深さ 支持地盤への掘削深さ 表示による 表示による - - (5) 掘削打ちコンクリートにおける材料等 (4.5.3) ア 鉄筋 種類 規格 鉄筋の長さかぶり厚さ 備考 【 ・ (参-2.2) ・ 〇表示 】 イ セメントの種類 【 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 〇表示 】 ウ コンクリート 設計基準強度 種類 備考 表示による 表示による 〇 適用の範囲は、表示による。 (4.6.5) (1) 地盤改良の種類と工法 改良地盤の種類 工法	7 鉄骨工事 1 鋼材 2 高力ボルト 3 普通ボルト 4 アンカーボルト 5 デッキプレート 6 レール 7 柱間均しモルタル 8 材料試験等 9 仮組 10 溶接 11 塗料の種類 12 耐火被覆の種類及び性能 (7.9.2) 13 その他 (7.11.2) (7.12.4)	10 石工事 1 石材 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2) 2 覆の石張り工法 3 床及び階段の石張り 4 特殊部位の石張り 11 タイル工事 1 タイル (11.2.2) (11.3.2) (11.4.2) 2 あと張り工法 3 型枠先付け工法 12 木工事 1 木材 (12.2.1)	(1) 天然石 施工場所 種類 表面仕上げの種類 巻脚・汚濁石 御影石 木膚石 三方巻・巻合 御影石 木膚石 (2) テラゾ 施工場所 種類 表面仕上げの種類 (1) 工法・加工等 (10.3.1) (10.3.2) (10.4.1) (10.4.2) (10.5.1) (10.5.2) 工法 厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (2) 乾式工法の方式：【 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 】 (10.2.2) (3) あと施工アンカーの材質及び寸法 (4) 外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質： (10.2.3) 厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 20mm 〇表示 汚濁石・御影石 施工場所 工法 石材の厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (10.6.2) (10.6.3) 施工場所 工法 石材の厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (10.7.1) (10.7.2) (10.7.3) (1) タイルの種類 施工場所 形状・寸法 うわぐすり 吸水率 収縮 色 耐凍り性 外部・床・壁 〇表示 内部・床・壁 (2) タイルの試験強り：【 ・ 行う ・ 行わない 】 (3) タイルの見本置き：【 ・ 行う ・ 行わない 】 壁タイル張りの工法等 (11.2.7) (11.3.7) タイルの種類 大きさ 工法 裏付け材の種類・厚さ等 〇表示による 【 ・ MCR工法 ・ 目張り工法 】 (表11.2.3) (表11.3.2) モルタル塗りを行うコンクリート地盤の処理： 種類 適用タイル タイル型枠先付けのせき板 (11.4.3) (表11.4.1) (1) 見え難い面の表仕上げの種類 (12.1.4) 施工場所 種類 備考 構造材 〇A種 ・ B種 ・ C種 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (2) 木材(下地材)の含水率：※A種 ・ B種 (12.2.1) 木材(造作材)の含水率：※A種 ・ B種 (3) 製材 【 ○ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外 】 【 ○ 下地用製材製材 ・ 造作用製材製材 ・ 広葉樹製材 ・ 】 施工場所 種類 寸法 等級又は品質 含水率 防虫処理 構造材 杉 〇表示 〇 15%以下 K3 (表12.2.2) (表12.2.3) ・ 代用製材の使用の禁止 (4) 造作用製材 【 ○ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外 】 【 ○ 造作用製材 ・ 化粧ばり造作用製材 ・ 化粧ばり造作用製材 ・ 】 施工場所 種類 寸法 等級又は品質 含水率 化粧板の厚さ (5) 造作用製材 【 ・ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外による 】 【 製材の日本農林規格による 】 施工場所 厚さ 表面の品質 含水率 防虫処理 (6) 化粧板 【 ・ 〇 化粧板 ・ 構造用化粧板 】 施工場所 種類 厚さ品質・等級等 接合の程度 防虫・強度等 (7) パーティクルボード 施工場所 厚さ 表面の状態 曲げ強さ 接着剤 耐水性 (8) 構造用パネル 施工場所 厚さ 等級 (12.2.1)	12 木工事 1 長尺金属板 2 折板 3 鋼皮瓦葺 4 とい 14 金属工事 1 あと施工アンカー 2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 3 鉄筋の束ねめっき 4 重量鉄骨天井下地 (14.4.3) 5 金属成形板張り 6 アルミニウム製壁木 7 手すり及びタラップ 8 その他	土壌処理 (防蟻) 〇 位置 高さ 埋設間隔1mを含む (1) 施工場所：「防蟻施工標準仕様書」(社団法人日本しりあり対蟻協会発行) I 新築建築物しりあり防蟻標準仕様書 4 処理の箇所 に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (2) 処理薬剤：社団法人日本しりあり対蟻協会の認定品とする。 (3) 処理方法：「防蟻施工標準仕様書」I 新築建築物しりあり防蟻標準仕様書 3 処理の方法 に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。 木材処理 (防蟻・防虫) (1) 施工場所：合板、集成材等を除く全ての木材 (2) 処理方法：工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布する。 (3) 性能区分：性能区分は次のようにする。ただし、監督員の指示を受けた部分については、その指示に従うものとする。 ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1+保存処理K3とする。 イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。 (1) 社団法人日本しりあり対蟻協会の認定した「しりあり防蟻施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承認を受けた場合はこの限りではない。 (2) 元請業者と施工業者の連帯による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。 施工場所 埋設形状 板及びコイルの種類 薬剤の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号 厚さ等 下地材料：【 ・ 7377667(1)940 ・ 改良7377667(1)940 】 (13.2.2) 施工場所 形状の区分 山高・山低・山 耐力による区分 材料による区分 厚さ (1) 野先面処理の適用：【 ・ 有り ・ なし 】 (2) 沖積層土質判定制度に基づく地盤改良工事技術評価試験の互換作業及び埋設り作業に合格した業者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 【 ・ 1名以上配置 ・ 施工面積 ㎡につき、 職技能評価試験に合格した者を1名配置 】 材料 規格名称 材質 備考 (13.6.2) (表13.5.1) あと施工アンカーの引抜き試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】 (14.1.3) 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの被覆面積の種類 【 ○ A1 ・ A2 】(JIS H 8602) (14.2.2) (14.7.2) (14.8.2) (14.8.3) (表14.2.1) 施工場所 種類 表面処理方法 外壁・壁面(鋼材) A種 防蟻塗料めっき 2種HD265 (14.2.3) (表14.2.2) 屋外の軽重量鉄骨天井下地 野線架、吊りボルト及びインサートの間隔 野線の間隔 備考 ・ 補強方法等 (〇表示による) (14.4.4) (1) 金属成形板の種類及び表面処理： (14.6.2) (2) 長尺の場合における伸縮調整継手： (14.6.3) (1) 構造材による種類： (2) アルミニウム製壁木本体の材料の種類及び被覆面積の種類は次による。 種類：【 ・ A-1 ・ B-1 】 種類をB-1とした場合の被覆面積の種類：【 ・ A1 ・ A2 】 (JIS H 8602) (3) 固定金具の間隔及び固定方法： (1) 手すり ア 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの被覆面積の種類 【 ・ A1 ・ A2 】(JIS H 8602) イ 取付け金具等は、全てステンレス (SUS 304) とする。 (2) タラップ ア 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの被覆面積の種類 【 ・ A1 ・ A2 】(JIS H 8602) イ 取付け金具等は、全てステンレス (SUS 304) とする。 ウ 足掛り部は、スリッパ止め加工とする。 ・ 〇表示	
5 鉄筋工事	1 鉄筋 (5.2.1) 2 溶接金具 (5.2.2) 3 継手及び定着 (5.3.4) 4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) 5 各部配筋 (5.3.7) 6 機械式継手	8 コンクリートブロック・ALCパネル・ECP工事 1 防水の種類 2 シーリング 3 集塵	10 石工事 1 石材 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2) 2 覆の石張り工法 3 床及び階段の石張り 4 特殊部位の石張り 11 タイル工事 1 タイル (11.2.2) (11.3.2) (11.4.2) 2 あと張り工法 3 型枠先付け工法 12 木工事 1 木材 (12.2.1)	(1) 鉄筋の種類 種類 呼び名 備考 構造用鉄筋 構造用鉄筋 構造用鉄筋 (2) 鉄筋の配筋 呼び名 間隔 備考 (3) 鉄筋の定着長さ 【 ※ 〇表示による。 】 (1) 縦筋コンクリートの場合の最小かぶり厚さ： (2) 横筋を受けるおそれのある部分等の位置及び最小かぶり厚さ： (3) 特殊な鉄筋継手の場合のあき寸法： 施工場所 配筋の方法 その他特記すべき事項 基礎 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 柱 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 梁 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 スラブ 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 階段 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 その他 【 ・ (参-) による。 ・ 〇表示 】 機械式継手の種類：〇表示 (1) コンクリートの強度 (2) コンクリートの材料 (3) コンクリートの強度試験 (4) コンクリート打設し仕上げ (5) コンクリートの品質管理 (6) 打撃 (7) 型枠 (8) 軽量コンクリート (9) 中コンクリート (10) 品質確保 気乾単位容積質量による種類 間隔等 設計基準強度(Fo) 施工部位 普通コンクリート・軽量コンクリート ※I種・II種 構造用鉄筋 構造用鉄筋 普通コンクリート・軽量コンクリート ※I種・II種 構造用鉄筋 構造用鉄筋 (6.2.1) (6.2.2) (6.2.3) (6.10.1) (6.13.1) (6.14.1) (6.15.1) (1) セメントの種類：【 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 7377667(1)940 ・ 】 (2) 7377667(1)940の適用箇所：【 ・ 〇表示 ・ 】 (3) 骨材のアルカリシリカ反応性による区分：※A ・ B (6.3.1) 材料28日圧縮強度の推定に用いる供試体は現場における「水中養生」とする。 仕上げの種類 打撃し厚さ 施工部位 備考 B種・C種 〇表示 〇表示 (6.2.5) (6.8.2) 工事に使用するコンクリートは事前に試験を行い、その品質等が設計図書の規定に適合していることを確認し、監督員に報告する。 打撃し厚さの寸法は、表示による。 (6.6.3) (1) 外部に面する打撃し仕上げの打撃し厚さ 【 ○ 20mm ・ ( ) mm 】 (2) ひび割れ発生目的の位置、形状及び寸法は、表示による。 (6.8.2) (3) MCR工法の適用：【 ・ 有り 【 使用箇所： ・ 〇表示 ・ 】 (6.8.3) 施工部位 種類 気乾単位容積質量 ・ 1種 ・ 2種 ・ 1種 ・ 2種 水又は土に接する軽量コンクリートの使用： ・ 有り 【 使用箇所： ・ 〇表示 ・ 】 中コンクリートの適用は【 標準時 】の日平均気温の年間値が25℃を超える【 6月2日 】から【 10月17日 】までとする。 レディーミクストコンクリートの品質確保については、「レディーミクストコンクリートの品質確保について」(平成15年11月10日付け国策策第35号)及び「レディーミクストコンクリートの品質確保について」の適用について」(平成15年11月10日付け国策策第71号)を適用する。 (注) 適用する場合は、気象庁より日平均気温の年間値を確認し、【 】を記載すること。	10 石工事 1 石材 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2) 2 覆の石張り工法 3 床及び階段の石張り 4 特殊部位の石張り 11 タイル工事 1 タイル (11.2.2) (11.3.2) (11.4.2) 2 あと張り工法 3 型枠先付け工法 12 木工事 1 木材 (12.2.1)	10 石工事 1 石材 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2) 2 覆の石張り工法 3 床及び階段の石張り 4 特殊部位の石張り 11 タイル工事 1 タイル (11.2.2) (11.3.2) (11.4.2) 2 あと張り工法 3 型枠先付け工法 12 木工事 1 木材 (12.2.1)	(1) 天然石 施工場所 種類 表面仕上げの種類 巻脚・汚濁石 御影石 木膚石 三方巻・巻合 御影石 木膚石 (2) テラゾ 施工場所 種類 表面仕上げの種類 (1) 工法・加工等 (10.3.1) (10.3.2) (10.4.1) (10.4.2) (10.5.1) (10.5.2) 工法 厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (2) 乾式工法の方式：【 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 】 (10.2.2) (3) あと施工アンカーの材質及び寸法 (4) 外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質： (10.2.3) 厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 20mm 〇表示 汚濁石・御影石 施工場所 工法 石材の厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (10.6.2) (10.6.3) 施工場所 工法 石材の厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 (10.7.1) (10.7.2) (10.7.3) (1) タイルの種類 施工場所 形状・寸法 うわぐすり 吸水率 収縮 色 耐凍り性 外部・床・壁 〇表示 内部・床・壁 (2) タイルの試験強り：【 ・ 行う ・ 行わない 】 (3) タイルの見本置き：【 ・ 行う ・ 行わない 】 壁タイル張りの工法等 (11.2.7) (11.3.7) タイルの種類 大きさ 工法 裏付け材の種類・厚さ等 〇表示による 【 ・ MCR工法 ・ 目張り工法 】 (表11.2.3) (表11.3.2) モルタル塗りを行うコンクリート地盤の処理： 種類 適用タイル タイル型枠先付けのせき板 (11.4.3) (表11.4.1) (1) 見え難い面の表仕上げの種類 (12.1.4) 施工場所 種類 備考 構造材 〇A種 ・ B種 ・ C種 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (2) 木材(下地材)の含水率：※A種 ・ B種 (12.2.1) 木材(造作材)の含水率：※A種 ・ B種 (3) 製材 【 ○ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外 】 【 ○ 下地用製材製材 ・ 造作用製材製材 ・ 広葉樹製材 ・ 】 施工場所 種類 寸法 等級又は品質 含水率 防虫処理 構造材 杉 〇表示 〇 15%以下 K3 (表12.2.2) (表12.2.3) ・ 代用製材の使用の禁止 (4) 造作用製材 【 ○ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外 】 【 ○ 造作用製材 ・ 化粧ばり造作用製材 ・ 化粧ばり造作用製材 ・ 】 施工場所 種類 寸法 等級又は品質 含水率 化粧板の厚さ (5) 造作用製材 【 ・ 製材の日本農林規格による ・ 製材の日本農林規格以外による 】 【 製材の日本農林規格による 】 施工場所 厚さ 表面の品質 含水率 防虫処理 (6) 化粧板 【 ・ 〇 化粧板 ・ 構造用化粧板 】 施工場所 種類 厚さ品質・等級等 接合の程度 防虫・強度等 (7) パーティクルボード 施工場所 厚さ 表面の状態 曲げ強さ 接着剤 耐水性 (8) 構造用パネル 施工場所 厚さ 等級 (12.2.1)

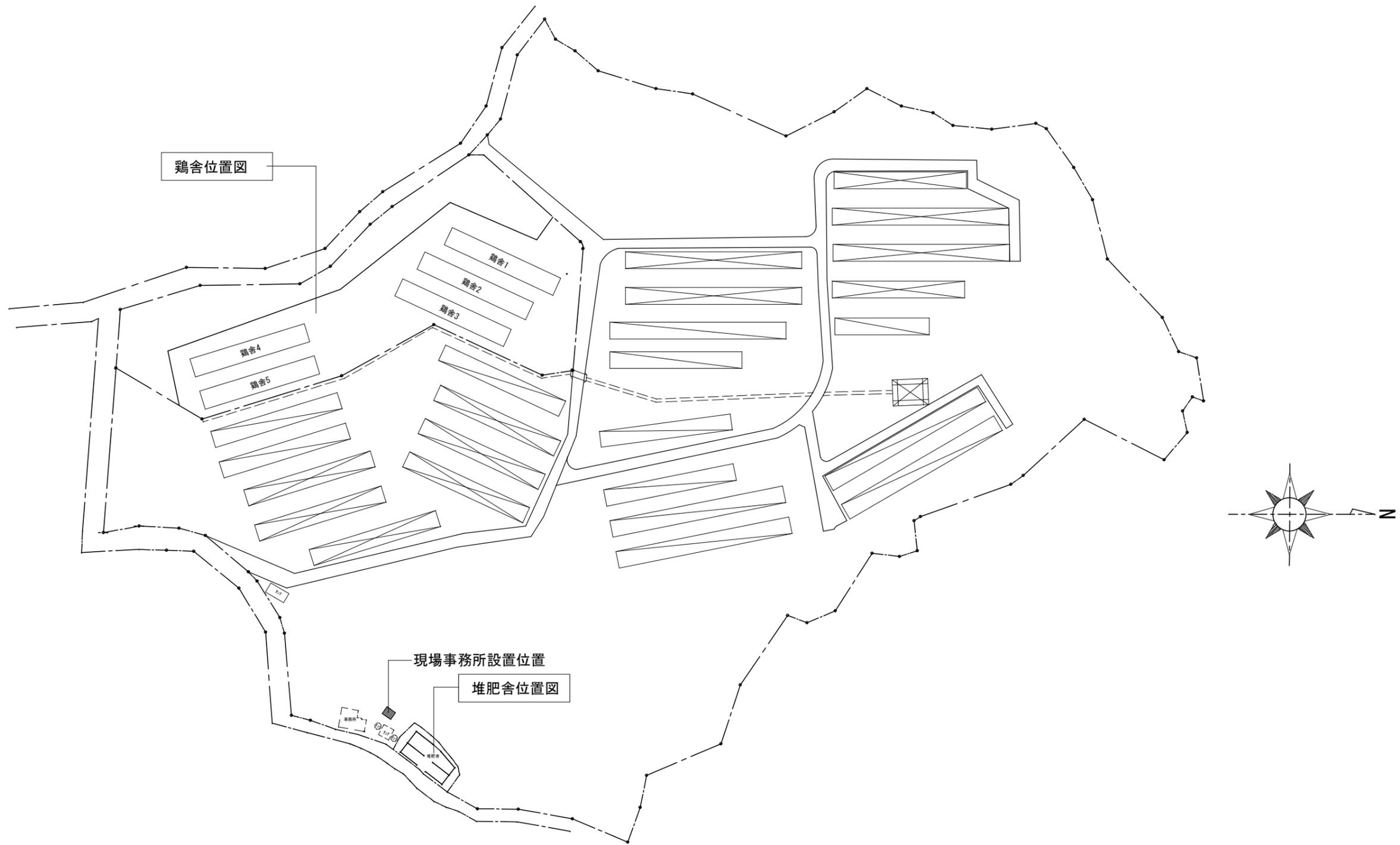
章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項
15 左官工事	1 モルタル塗り	(1) 既設目地の適用及び形状： (15.2.2) (2) 床の目地の設置及び工法： (15.2.5) (3) 外装タイル張り下地の下地モルタルの接着試験： 【 ・実施する ・実施しない 】 セルフプレバリング材の種類：【 ・セッコウ系 ・セメント系 】 (15.4.2) (表15.4.1)	14 ガラス (16.14.2) (16.14.4) (16.14.5)	(1) ガラスの種類及び厚さ等 ガラスの種類 厚さ等 備考 表示による 表示による	20 ユニット及びその他工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 寸法 高さ 耐震性能 所定重量 帯電防止性能 漏えい漏洩 n/32教室 500×500 50mm 3000N
	2 セルフプレバリング材塗り	種類 呼び名 仕上げの形状等	(2) ガラス製材材 器具の種類 材質 器具全般 PU-2	2 可動間切切 (20.2.3)		施工箇所 構造形式 構成材料 適合性 表面仕上げ 建築寸法等 金属製1.2 スタッド式 スチール 500HZ/42.3dB カラー鋼板 表示による	
	3 仕上げ材仕上げ (16.5.2)	※接着剤材E：(上塗：アクリルシリコン樹脂塗料)	(3) 鉛線反射ガラスの映像調整： (4) ガラスブロックの材料及び工法 表面形状 呼び寸法 厚さ 壁用金属材料 補強材 色 金属製化粧カバー	3 移動間切切 (20.2.4)		施工箇所 種類 表面材 操作方法 適合性 備考	
	4 マスチック塗料塗り	工種 種類 塗料その他	(5) ガラスブロック積み用いる化粧目地モルタルの色：【 】	4 トイレブース (20.2.5)		あと施工アンカーの使用： 【 ・有り ・無し 】 材質、寸法等は表示による。	
	5 ロックウール吹付け (表15.6.1)	仕上げ厚さ： (16.7.3)		5 階段滑り止め (20.2.6)		表面材の種類 階部の形状及び寸法 ドアエッジの形状及び材質 高圧ポリアミン化樹脂 フライタビ付木目材専用 丸型アルミニウム	
16 建具工事	1 防火戸等	(1) 防火戸の指定及び仕様等は、表示による。 (16.1.3) (2) 防火戸用部品の適用は、表示による。 (16.1.6)	17 カーテンウォール (17.2.2) (17.2.3) (17.2.6) (17.3.2) (17.3.3) (17.3.6)	(1) カーテンウォールの種類：【 ・メタル ・PC 】 (2) 性能 耐風圧性能 耐震性 水密性 気密性 耐火性 耐温度性 遮音性 断熱性	23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認	(1) 植栽地の土壌試験：【 】 (23.1.3) (2) 晴きよ、開きよ及び排水層等の設置は、表示による。 (22.2.2) (3) 土壌改良材：【 】 (4) 植栽用土：【 】
	2 見本の製作等 (16.1.4)	(1) 見本見本の製作：【 ・行う ・行わない 】 (2) 特殊な建具の取組：【 ・実施する ・実施しない 】	18 塗装工事	(3) 材料の種類 金属材料 シーリング材 耐火目地材 断熱材 構造ガケット		2 植栽	(1) 植栽の種類 樹木の種類 樹高(m) 有効土層の厚さ(m) 支柱の形 備考 ※新植樹木の移植期間：【 ※1年・( )年 】 (2) 移植樹木の移植時期を行う期間：【 ※1年・( )年 】
	3 アルミニウム建具 (16.2.2) (16.2.4) (16.2.5) (表14.2.1) (表16.2.1)	(1) 建具の性能等 種類 耐風圧性能 気密性 水密性 特見込み寸法 施工箇所 ドア S-7 A-4 B-5 70 外装面	2 保証	(4) 先付け材料：【 ・器具材 ・ゴンドラ用ガイドレール ・ 】 仕様等については、表示による。 (5) メタルカーテンウォール製品の見える部分の仕上げ： (6) PCカーテンウォールの仕上げ： (7) 構造ガケットを用いるガラスの取付け：		3 遮り等 (23.4.2)	(1) 芝の種類： (2) 種子の種類及び量： (3) 植栽 樹種 厚さ 容積率 コンテナ径 単位面積当たりのコンテナ数
4 樹屋建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.3.5) (表16.3.1) (表16.3.2) (表16.3.3)	(2) 特殊なドアセット等の適用及び等量 ドアセットの種類 施工箇所 等級 備考 ・防音ドアセット ・断熱ドアセット ・耐震ドアセット	19 内装工事	(5) 防火材料の指定【 ・有 ・無 】 (1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。 (2) 保証期間は、工事完成後【 19年間とする。】	4 カーテン (20.2.14)	(2) 遮り等の種類及び質量区分： 【 ・ 】	4 屋上緑化	土壌層の厚さ 排水層の厚さ 樹木の種類、寸法、数量 支柱の形式 かん水装置 ※見切り材、舗装材、排水孔、マルチング等は、表示による。 ※樹木の固定方法については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。 (23.5.2) (23.5.3) (23.5.4)
5 鋼製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.3.5) (表16.3.1) (表16.3.2) (表16.3.3)	(3) 表面色： (4) 水切り及びびん板等の加工及び組立は、表示による。 (5) ガラス：※複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス (16.4.2) (表16.2.1) (表16.4.1) (16.3.3)	20 床	(1) ビニル床シートの材料及び工法 施工箇所 種類の記号 色柄 厚さ 継ぎ接合の適用 一般 KT マーブ 2.0mm 〇有り・無し ・有り・無し	5 鋼製建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(1) 鋼製建具の性能等 種類 耐風圧性能 気密性 水密性 耐震性能 備考(材料等) 表示による	1 排水管 (21.2.1)	材質 管の種類 呼び径 備考 硬質PVC強化ビニル VP 表示による
6 鋼製建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(2) 特殊なドアセット等の適用及び等量 ドアセットの種類 施工箇所 等級 備考 ・防音ドアセット ・断熱ドアセット ・耐震ドアセット	21 排水工事	(2) ビニル床タイル、ゴム床タイル 施工箇所 種類(・形状) 厚さ等	6 鋼製建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(1) 鋼製建具の性能等 (16.5.2) (表16.2.1) (表16.4.1)	2 雨樋、排水管等 (21.2.2) (21.2.3)	(1) 製造 形状 寸法 備考
7 ステンレス建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(3) 鋼板の種類：【 ・SUS 0 3302 ・JIS 0 3317 】	22 舗装工事	(3) 特殊断熱材の適用：【 ・帯電防止床シート又は床タイル ・視覚障害者用床タイル ・耐動揺性能床シート ・防凍性能床シート又は床タイル 】 施工箇所 種類(・形状) 厚さ等 n/32教室 FGA 石目 5.0mm はく離工法	8 鋼製建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(1) 鋼製建具の性能等 (16.5.2) (表16.2.1) (表16.4.1)	3 高床 (21.3.1)	(2) 排水等、ふた 種類 適用質量 備考 コンクリート製
8 木製建具 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない 】	1 床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5) (表22.2.2)	施工箇所 工法 高名 備考(樹種、種類等)	9 鋼製建具 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(2) 特殊なドアセット等の適用及び等量 (16.5.2)	4 雨きよ、掃きよ、掃きよ用機 (21.3.1)	(3) グレーチング 材質 用途 適用質量 メインバーピッチ 備考 鋼製鋼板付 鋼製フタ J-2、J-25 表示による
9 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(1) 鋼製用金物の材質、形状及び寸法 形状 金物の種類 見え回り部の材質 備考 表示による 表示による	2 廊下 (22.3.2) (22.3.5)	体育館、武道場等の床の強度、弾力性を特に要求される広床は、日本体育床工業会編「体育館床工事標準施工要領書」による。	10 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(3) 鋼板の種類 鋼板の種類 鋼板の種類 鋼板の種類 表示による ※鋼板(A-)による。	5 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(4) 地盤の材料：【 クラッシュラン、保砕砂 】 高床の厚さ及び種類：表示による
10 鋼 (16.8.4)	(2) マスターキー：【 ・動作する ・動作しない 】 (1) 鋼工事がある場合は、受注者間で協議し1つの規格にまとめて納品する。	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 鋼の種類【 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(種類) D型】 (2) 鋼板に使用する材料は沖鋼鋼板とする。 (19.6.2)	11 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない 】	6 コンクリート舗装 (22.6.2)	コンクリート舗装及び雨流 名称 規格名称 形状 寸法等 備考 表示による
11 自動ドア開閉装置	(1) 戸の開閉方法：【 ・引戸 ・開き戸 ・折戸 】 (2) センサーの種類： (16.9.3) (表16.9.3)	4 フローリング (19.5.2) (19.5.3) (19.5.6)	(1) 鋼の種類【 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(種類) D型】 (2) 鋼板に使用する材料は沖鋼鋼板とする。 (19.6.2)	12 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない 】	7 ブロック系舗装 (22.8.1)	(1) 舗装の種類等 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5) (表22.2.2)
12 シャッター (16.11.2) (16.12.2) (16.12.4)	(1) シャッターの種類：【 ・重量( ) ・軽量( ) 】 (2) 耐風圧強度： (3) 開閉機能：【 ・手動式 ・電動式 】 (4) 重量シャッターの場合のシャッターケース：【 ・取付可 ・取付不可 】 (5) スラットの形式： 【 ・インターロック型 ・水〇パーラッピング型 】	5 フローリング (19.5.2) (19.5.3) (19.5.6)	(1) 鋼の種類【 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(種類) D型】 (2) 鋼板に使用する材料は沖鋼鋼板とする。 (19.6.2)	13 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない 】	8 ブロック系舗装 (22.8.1)	(2) ジョウキスタイルの適用及び品質：【 】 (1) 軍道層の厚さ：【 表示による 】 (22.3.2) (2) 締固め度試験：【 表示による 】 (22.3.5)
13 オーバーヘッドドア	(1) 耐風圧性能の区分： (16.13.2) (2) 開閉機能：【 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 】 (3) 収納形式による区分：	6 フローリング (19.5.2) (19.5.3) (19.5.6)	(1) 鋼の種類【 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(種類) D型】 (2) 鋼板に使用する材料は沖鋼鋼板とする。 (19.6.2)	14 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない 】	9 鋼製用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(3) ジョウキスタイルの適用及び品質：【 】



拡大図

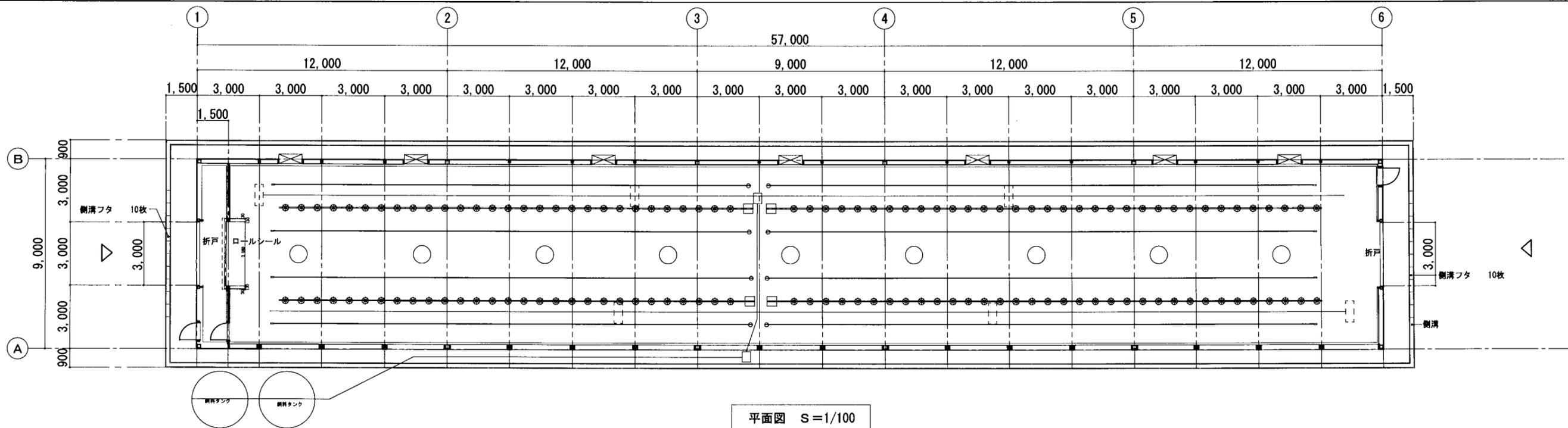


MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成	図面内容 見取図・配置図 A1 : S = 1/500 (A3 : S = 1/1,000)	図面番号 A-4
			工事場所 大宜味村宇津嶽 1971-112	年月日		

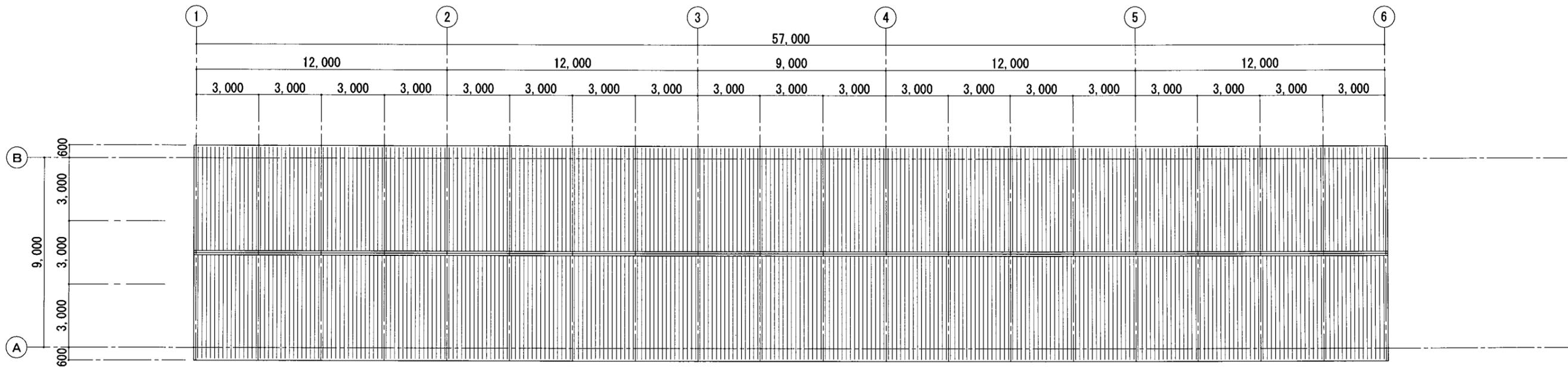


MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 全体配置図 A1 : S = 1/1,000 (A3 : S = 1/2,000)	図面番号 A-5
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			





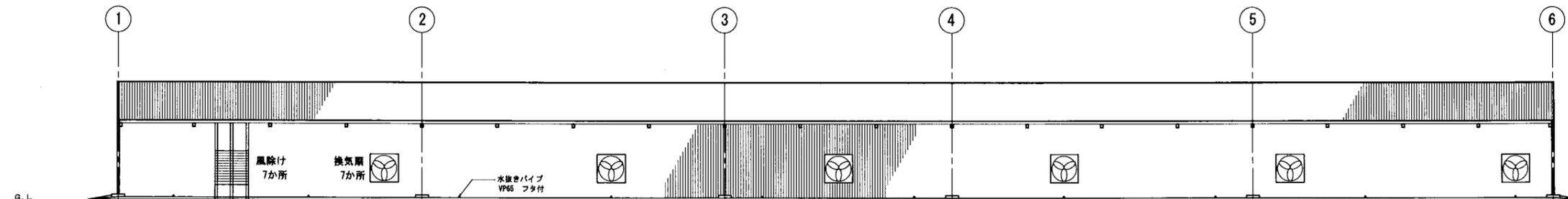
平面図 S=1/100



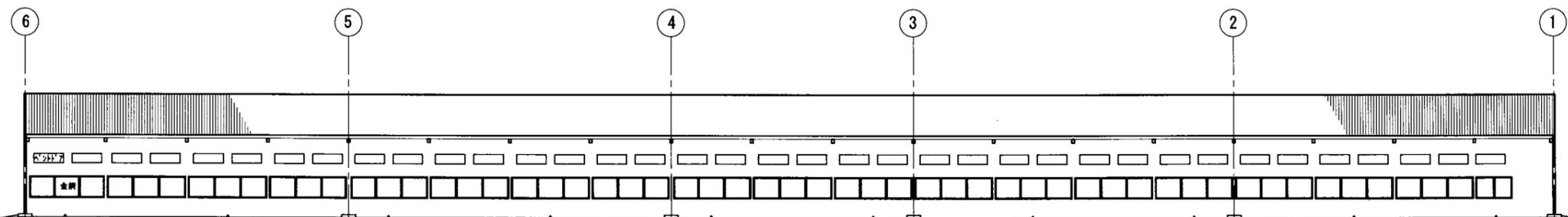
屋根伏図 S=1/100

室名	床仕上	腰壁仕上	腰上壁仕上	天井仕上	備考
鶏舎	コンクリート金ゴテ仕上げ	コンクリート打ち放し (FL+300まで)	外壁側：木下地、7)3.0mmADボード (同等品以上) 貼り 操作室側：軽鉄下地、7)3.0mmADボード (同等品以上) 貼り	木下地、天井シート (同等品以上) 貼り	
操作室	コンクリート金ゴテ仕上げ	コンクリート打ち放し (FL+300まで)	外壁仕上げむき出し	屋根仕上げむき出し	

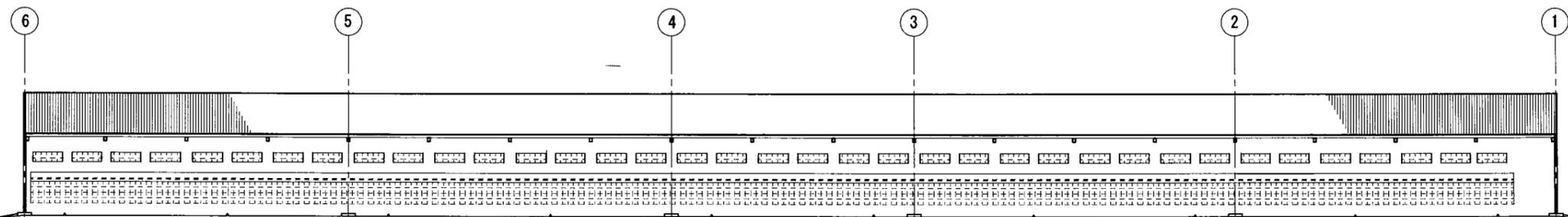
外部仕上	
外壁腰壁	コンクリート打ち放し (GL+600まで)の上 7) 30mm7折ストリ角波 (ガルバリウム鋼板) 貼り 同等品以上
外壁腰上壁	木脚柱下地、7)30mm7折ストリ角波 (ガルバリウム鋼板) 貼り 同等品以上
屋根	母屋木材下地、7)30mm7折ストリ丸波 (ガルバリウム鋼板) 貼り 同等品以上
※外部の鋼材は溶融亜鉛メッキとする (ドブ付)。	
出入口・犬走り 床	コンクリート木ゴテ仕上げ



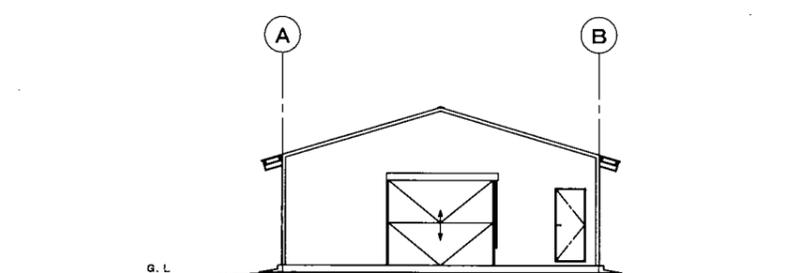
1立面図 S=1/100



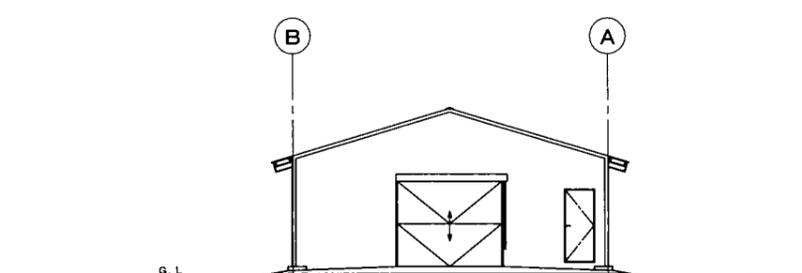
2-1立面図 S=1/100



2-2立面図 S=1/100



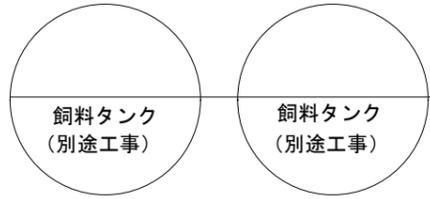
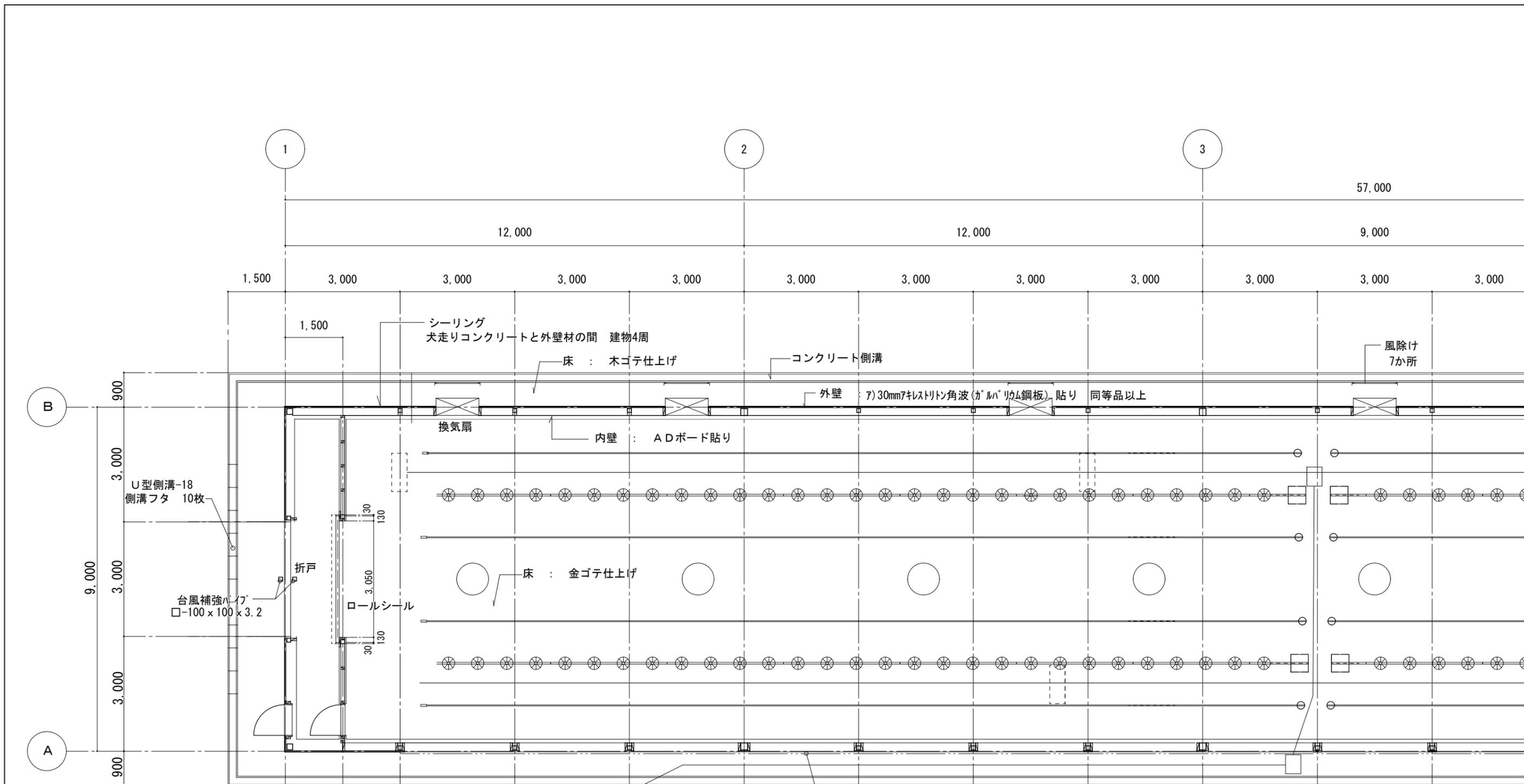
3立面図 S=1/100



4立面図 S=1/100

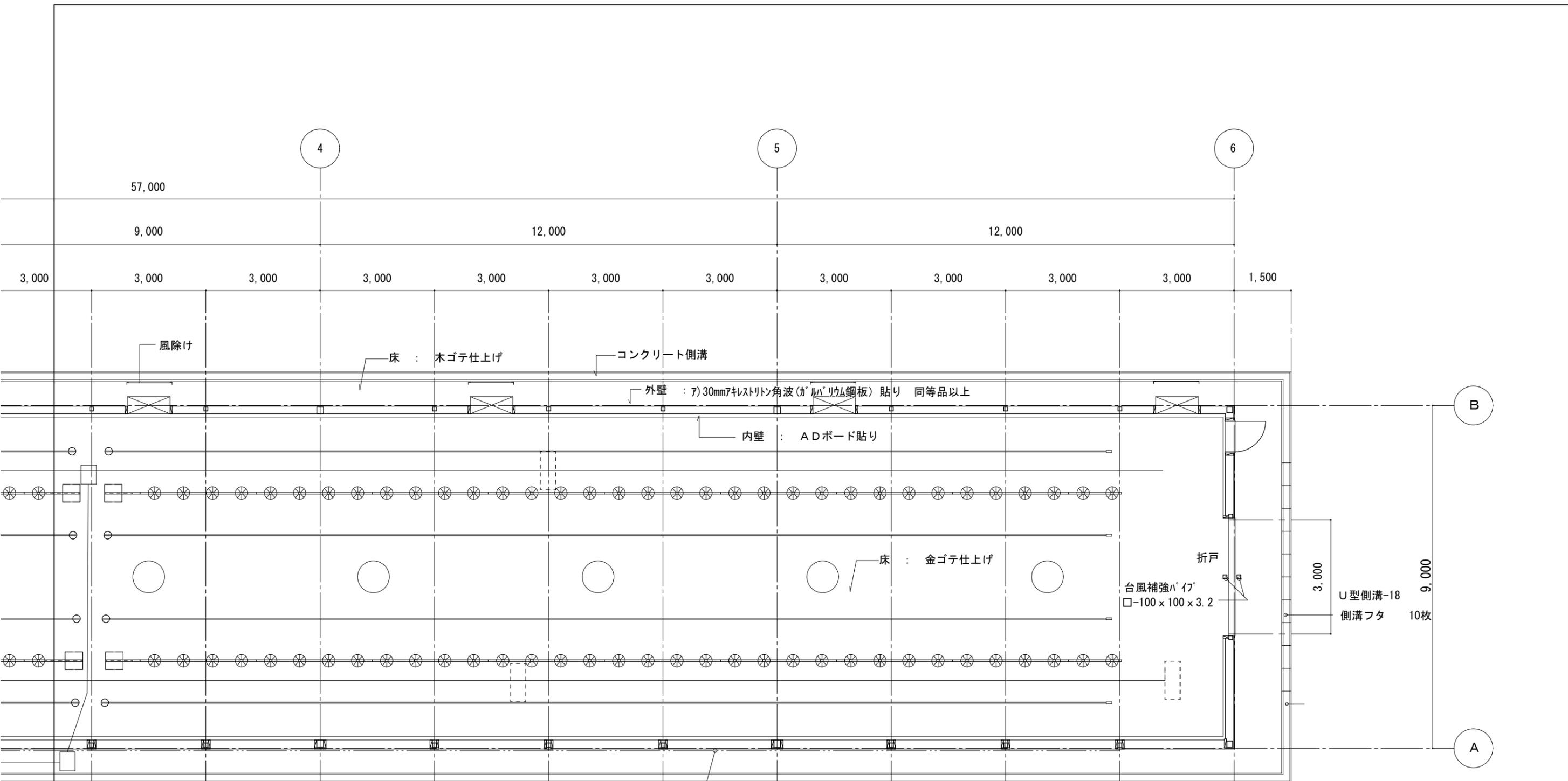
MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 立面図 A1 : S = 1/100 (A3 : S = 1/200)	図面番号 A-8
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			





平面詳細図1 S=1/50

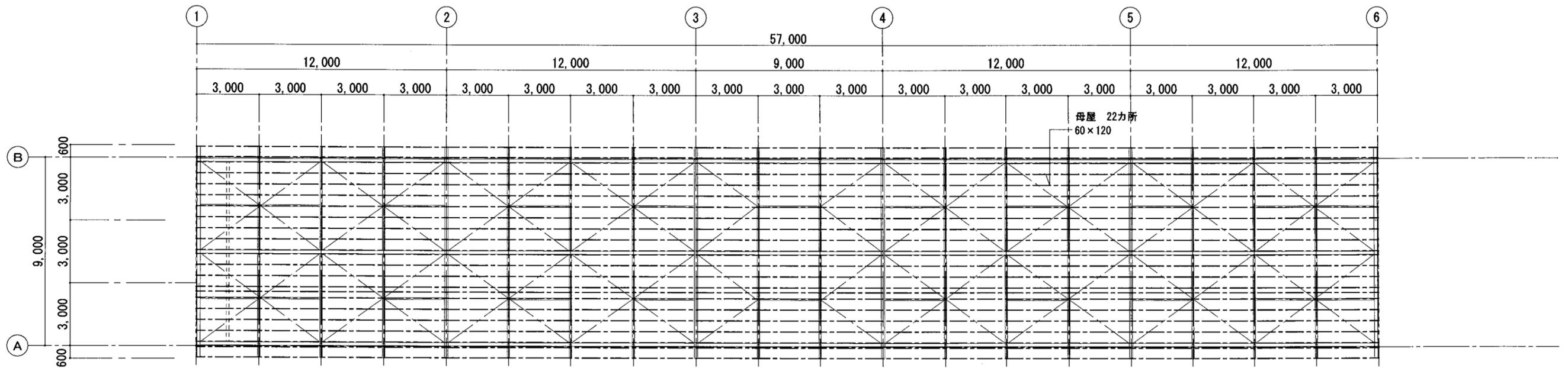
MEMO	株式会社 翁長設計 一級建築士事務所 事務所登録 162-192 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 平面詳細図 1	図面番号 A-10
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			



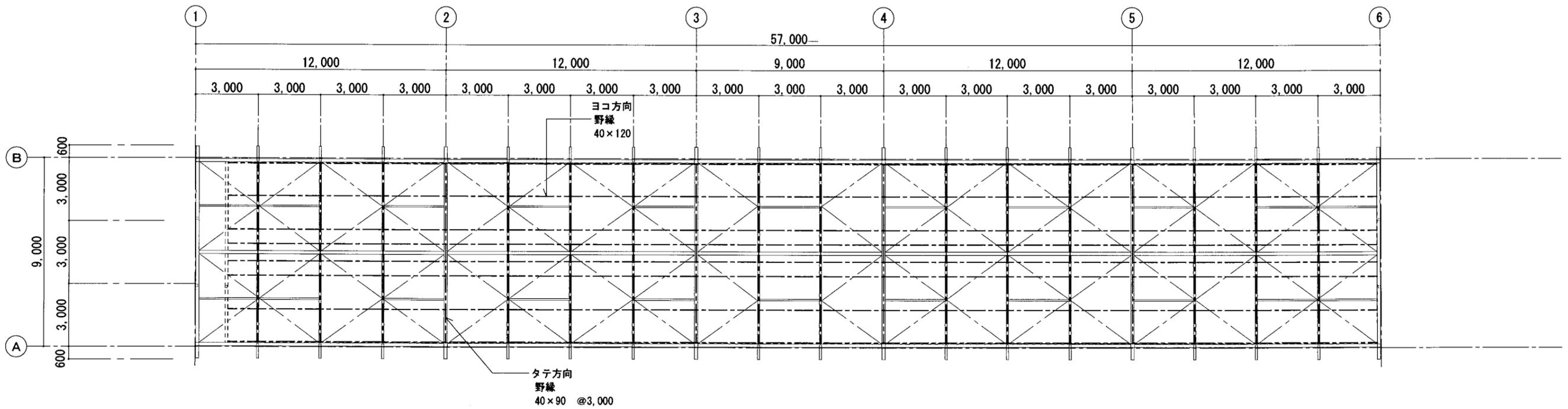
断熱カーテン(鶏舎 機械設備工事)

平面詳細図2 S=1/50

MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 平面詳細図 2	図面番号 A-11
						A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	

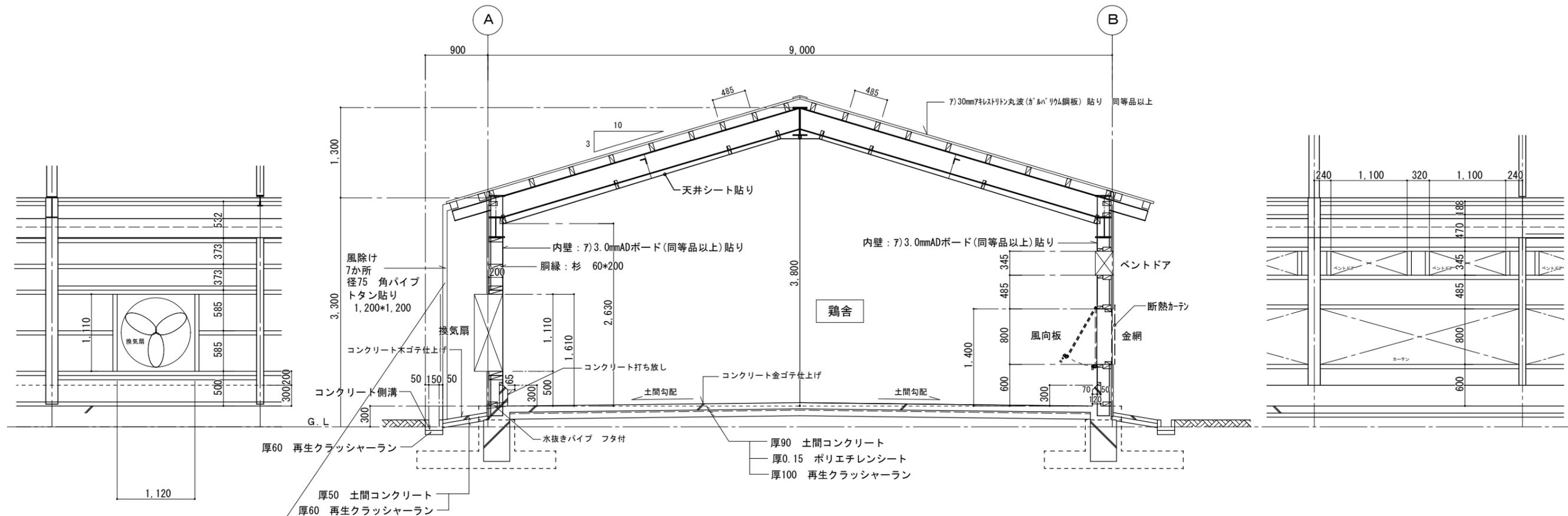


小屋伏図 S=1/100

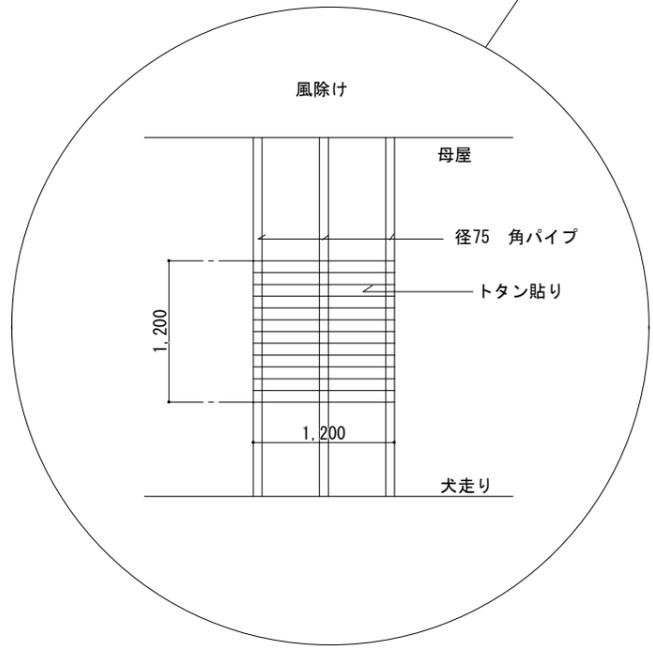


天井伏図 S=1/100

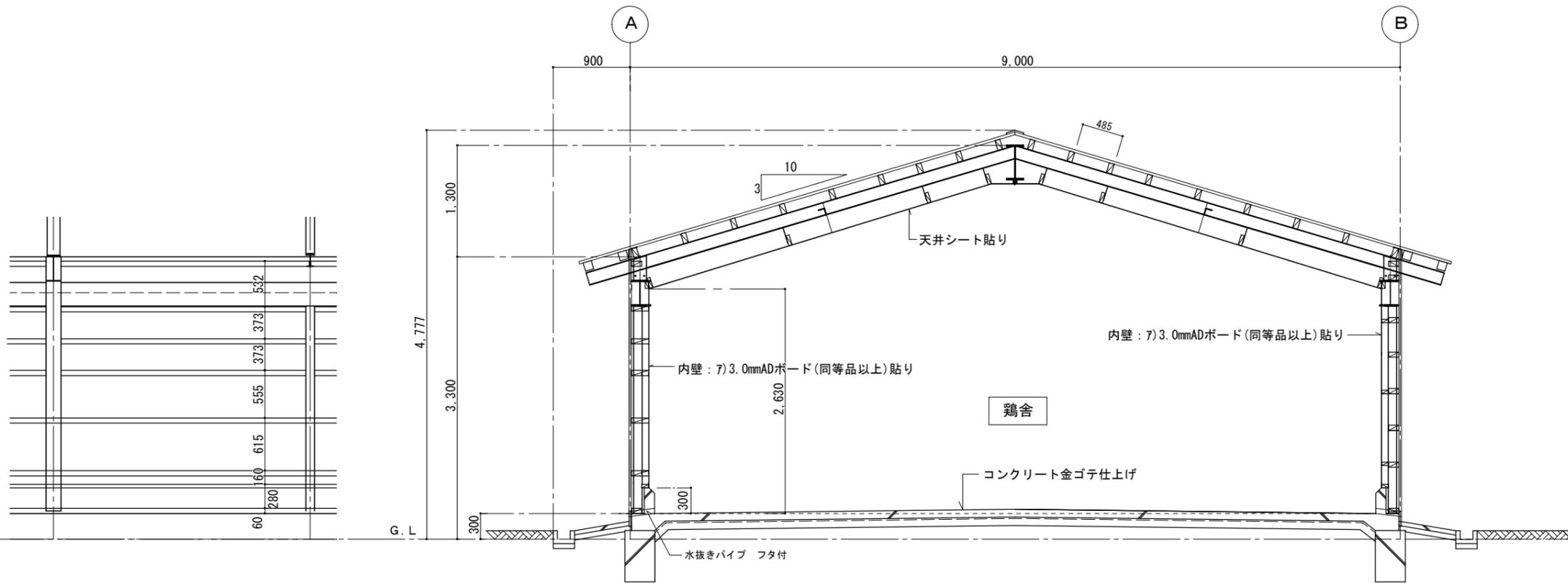
MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 小屋伏図・天井伏図 A1 : S = 1/100 (A3 : S = 1/200)	図面番号 A-12
		TEL 877-5609 FAX 878-9429					



矩計図1 S=1/30



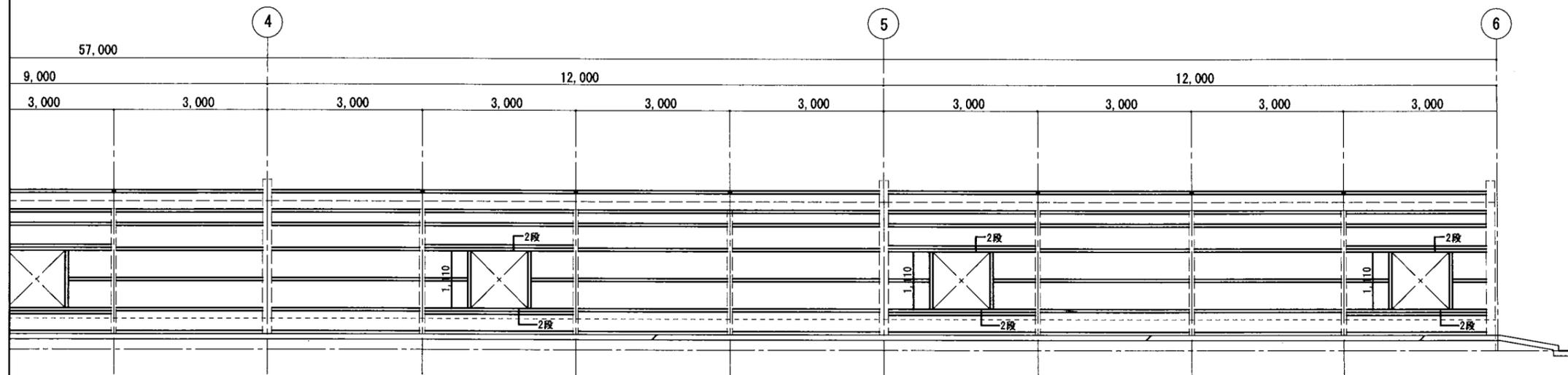
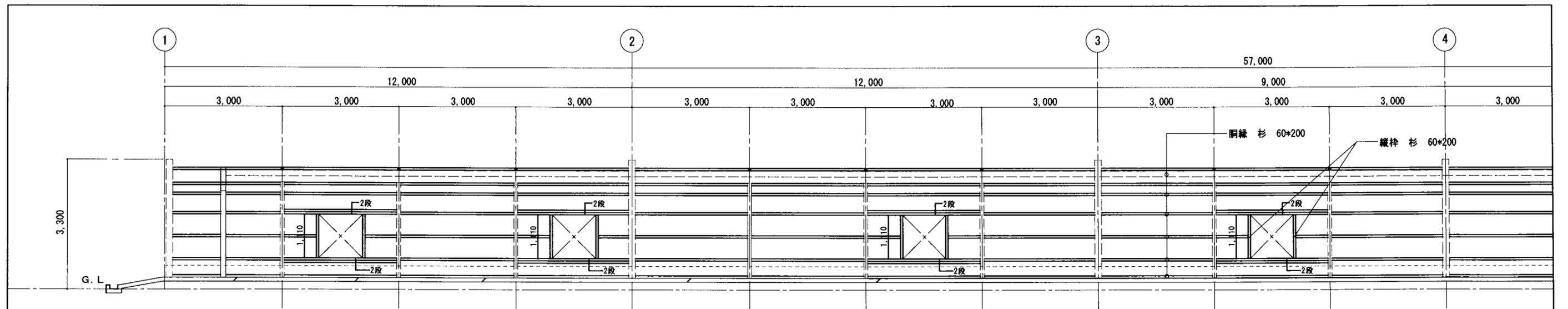
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
				農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			
				工事場所		A1: S = 1/30 (A3: S = 1/60)	
				大宜見村字津覇 1971-112			



矩計図 2 S=1/30

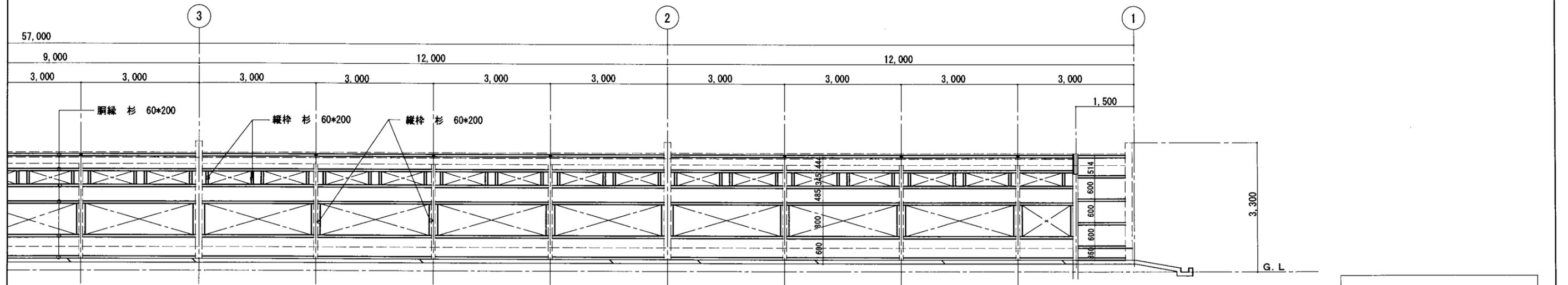
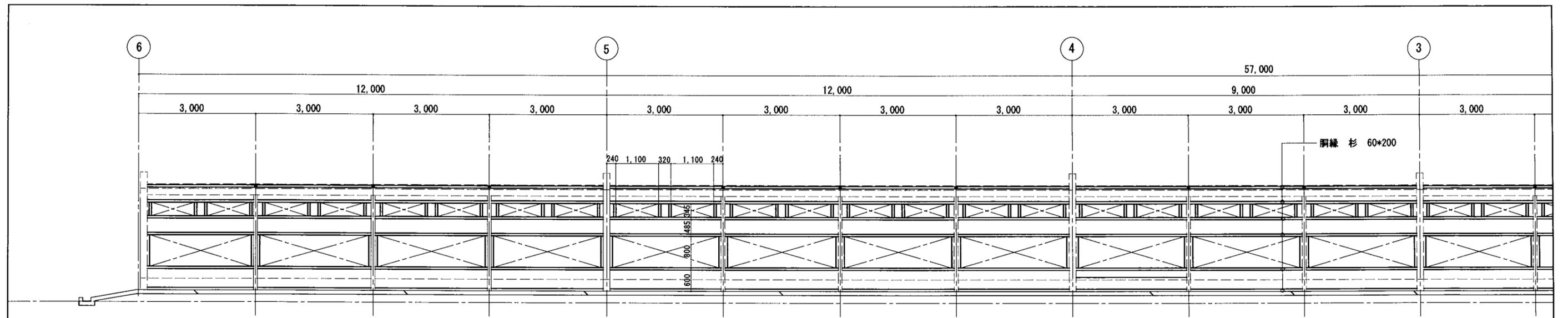
MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 矩計図2	図面番号 A-14
		一級建築士 266066 松田健治			農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			
		TEL 877-5609 FAX 878-9429			工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			

A1 : S = 1/30 (A3 : S = 1/60)

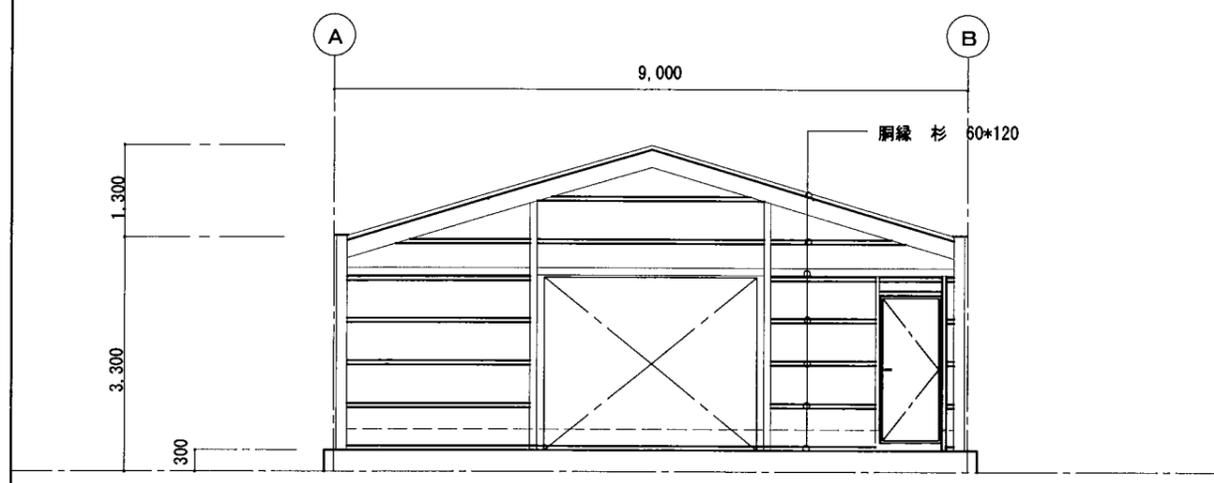


A通り外部面胴縁図 S=1/50

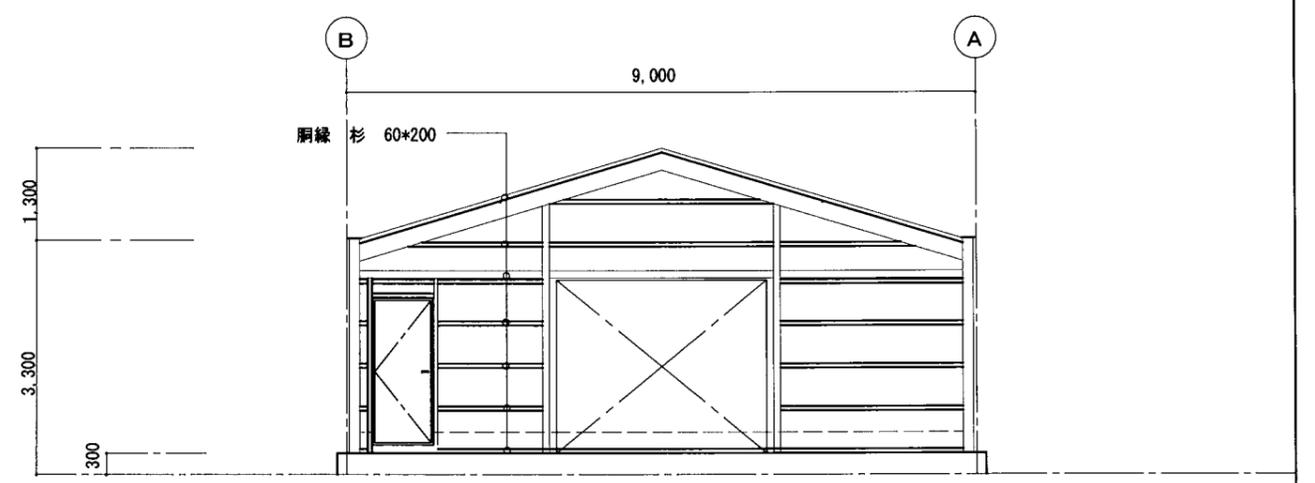
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号 A-15
		一級建築士 266066 松田健治			農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	平成 年 月 日	鶏舎 外部胴縁図1	
		TEL 877-5609 FAX 878-9429			工事場所 大宜見村字津覇 1971-112		A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	



B通り外部面胴縁図 S=1/50

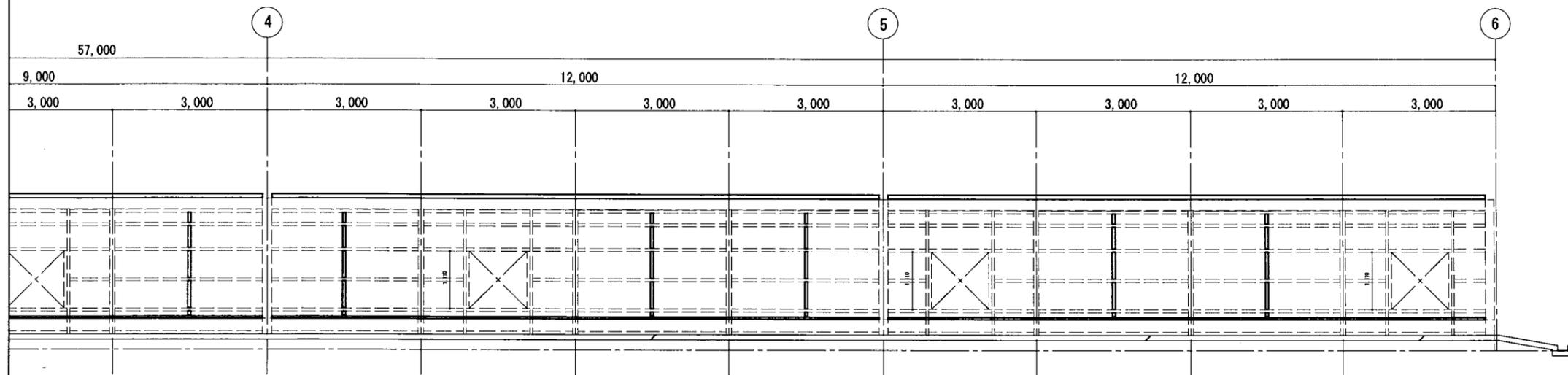
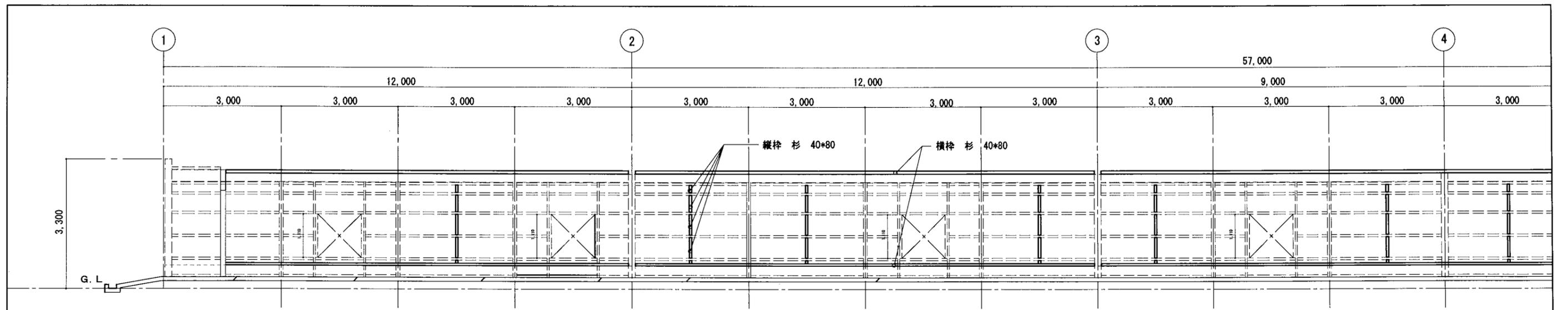


1通り外部軸組図 S=1/100

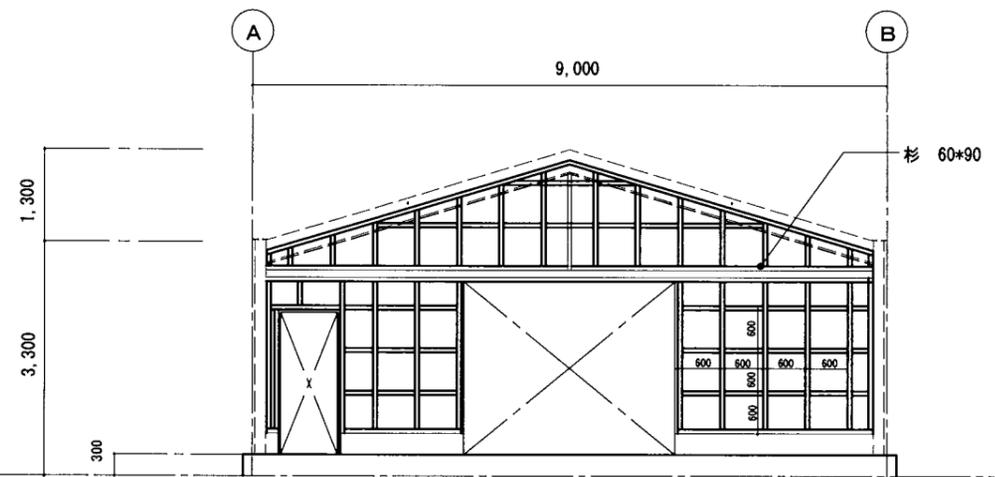


6通り外部軸組図 S=1/100

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
				農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	平成		
				工事場所	年月日	A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	
				大宜見村字津覇 1971-112			

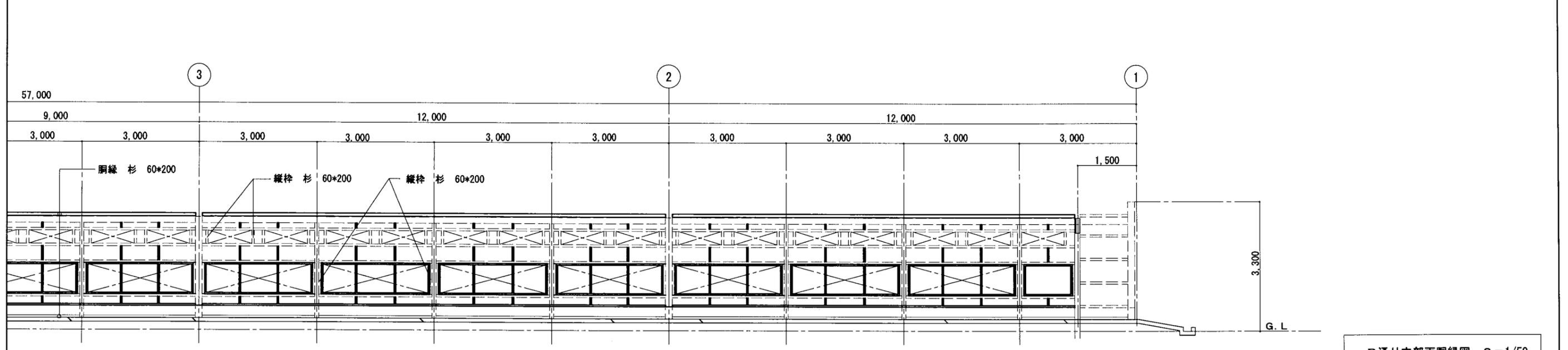
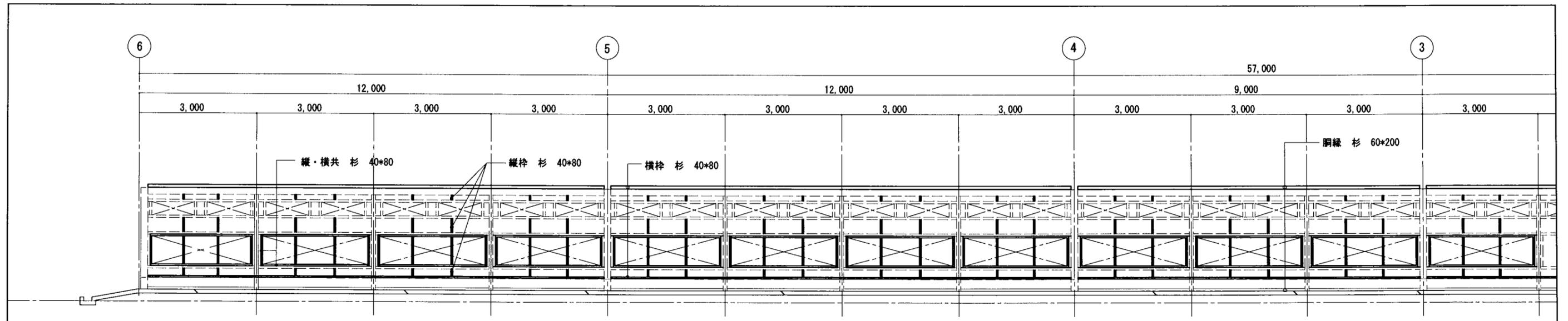


A通り内部部面胴縁図 S=1/50



内部面胴縁図 間仕切り壁 S=1/50

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 内部胴縁図1	図面番号 A-17
					工事場所 大宜見村宇津覇 1971-112		A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	



B通り内部面胴縁図 S=1/50

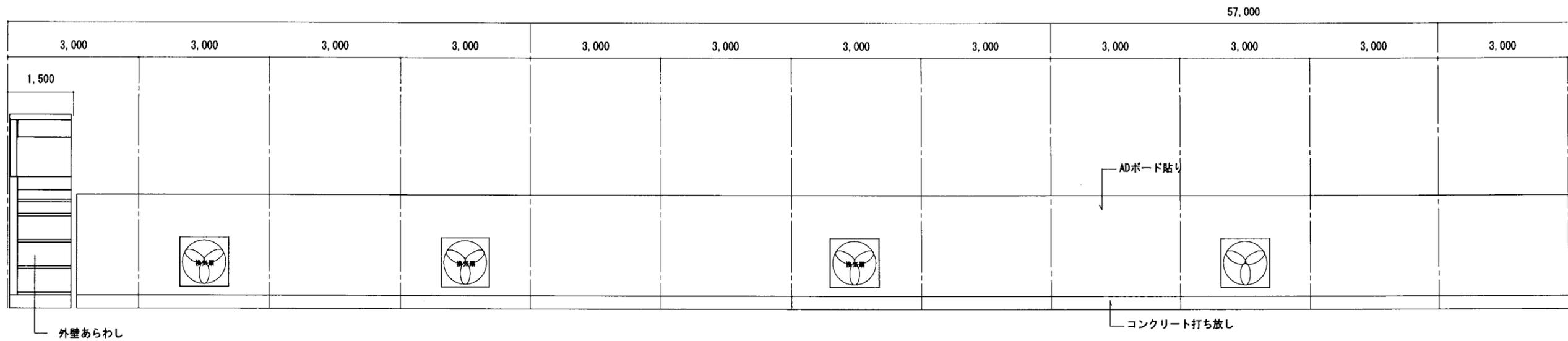
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	日付 平成	図面内容 鶏舎 内部胴縁図2	図面番号 A-18
		一級建築士 266066 松田健治						
		TEL 877-5609 FAX 878-9429						

1

2

3

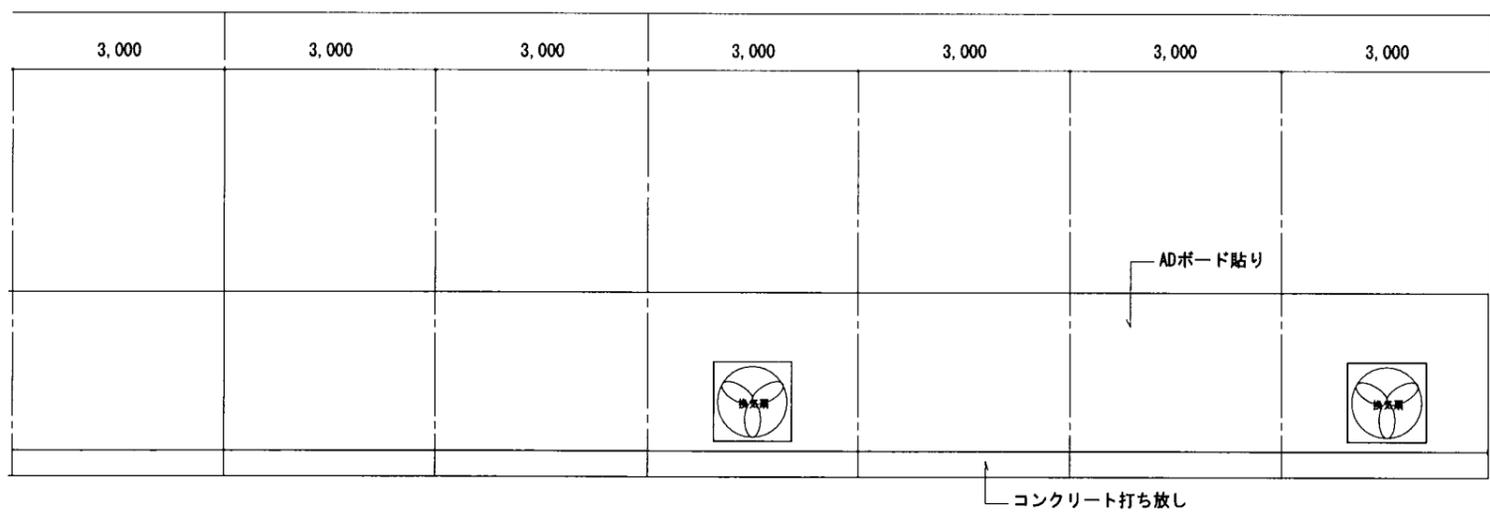
4



A展開図 S=1/50

5

6



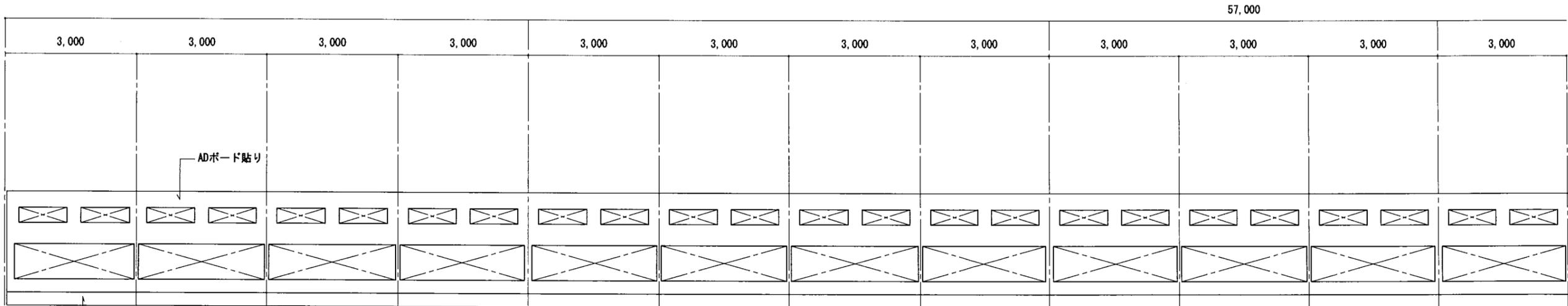
MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 A展開図	図面番号 A-19
						A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	

6

5

4

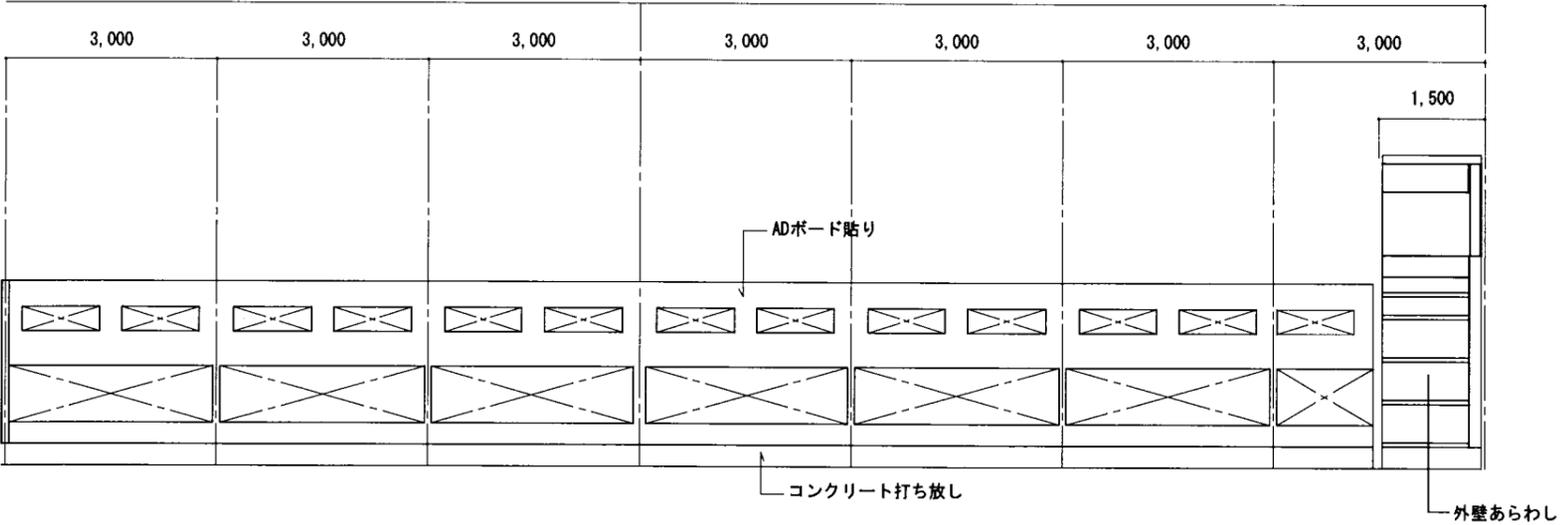
3



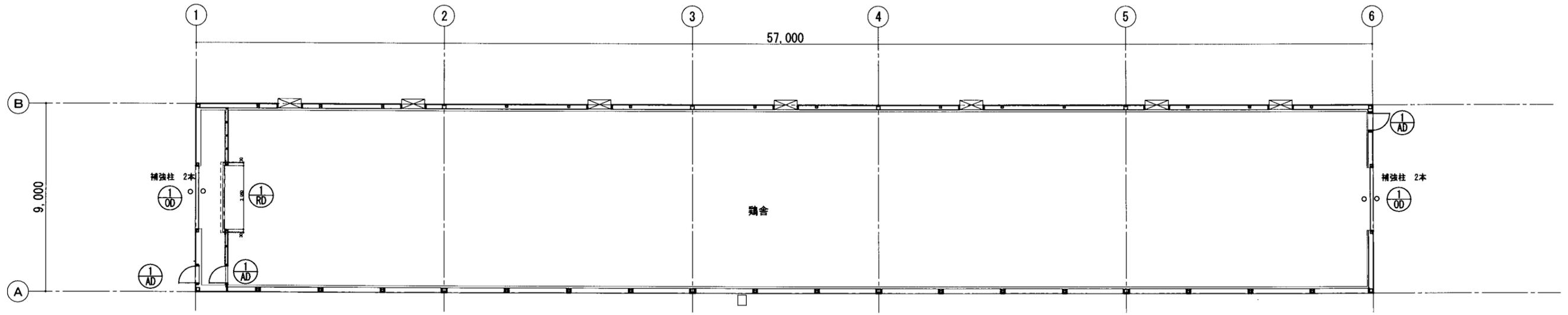
C展開図 S=1/50

2

1

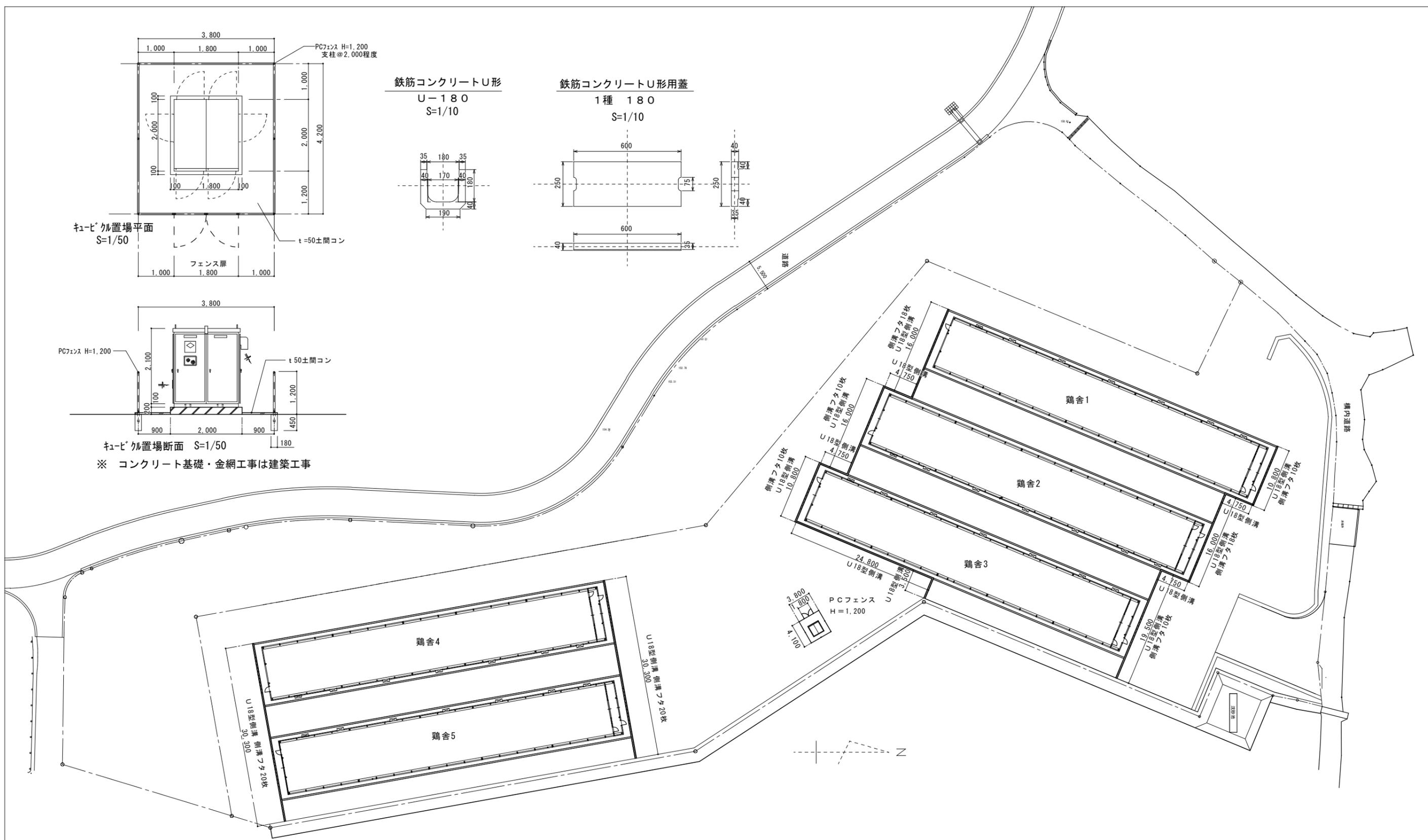
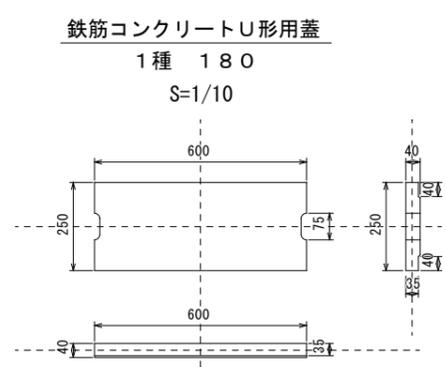
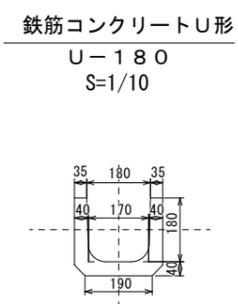
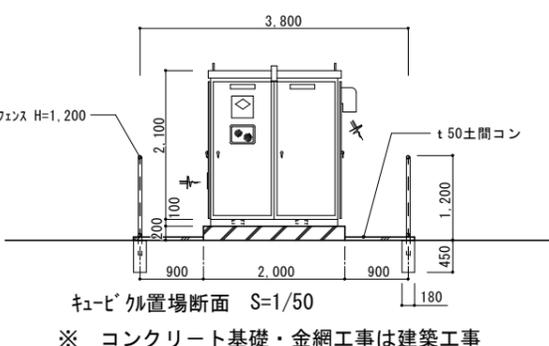
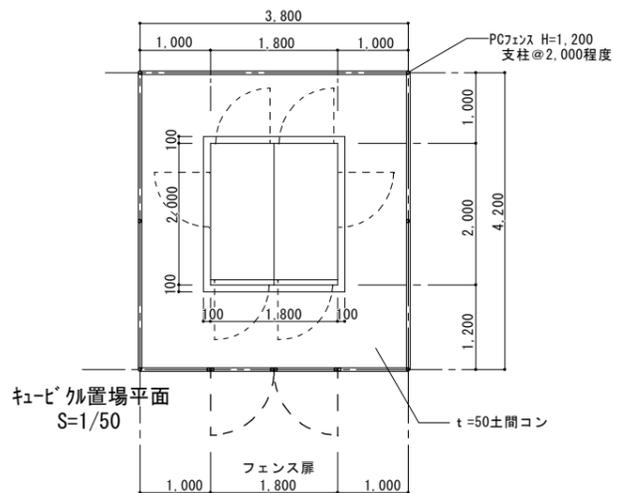


MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 C展開図	図面番号 A-20
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112		A1 : S = 1/50 (A3 : S = 1/100)	



建具キープラン

記号・室名 数量	① AD 鶏舎 3ヶ所	① OD 鶏舎 2ヶ所	① RD 鶏舎 1ヶ所
姿図			
形式	アルミ框ドア	折戸	ハイアドハンド ロールシール
仕上	アルミアルマイト処理 (シルバー)		アルミニウムトラック、カバー
ガラス			
金物	モノロック・SUS製丁番 ドアチェック・付属金物一式	付属金物一式 補強柱 □ - 100*100*3.2 2本	手動チェーンホイスト (標準開閉装置)
備考			



MEMO

株式会社 翁長設計  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201  
 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 一級建築士 266066 松田健治  
 TEL 877-5609 FAX 878-9429

工事名称  
 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所  
 大宜見村字津覇 1971-112

日付  
 平成 年 月 日  
 図面内容  
 鶏舎外構図  
 A1 : S = 1/500 (A3 : S = 1/1,000)  
 図面番号  
 A-22

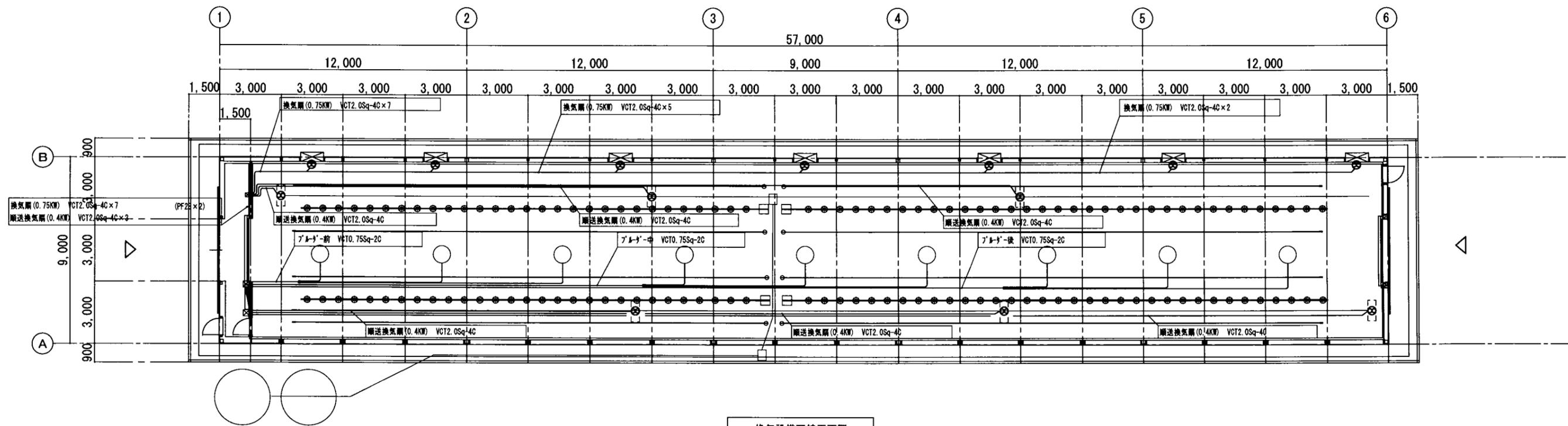
建築設計概要書

物件名称	農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事					
地名地番	沖縄県大宜味村字					
工期	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日					
用途地域	都市計画区域外					
防火指定	無し					
高度地区	無し					
日影規制	対象建築物外 測定高さ: m 5 h・3 h					
建ぺい率	%					
容積率	%					
建築規模	地下: 0 階		地上: 1 階		塔屋: 0 階	
道路状況	東側道路幅員: 5.5 m					
敷地面積	8,578.92 m <sup>2</sup>					
用途	鶏舎 1	鶏舎 2	鶏舎 3	鶏舎 4	鶏舎 5	合計
構造	S造	S造	S造	S造	S造	
建築面積	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	2,565.00 m <sup>2</sup>
基準法床面積	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	513.00 m <sup>2</sup>	2,565.00 m <sup>2</sup>
建ぺい率対象建築面積	2,565.00 m <sup>2</sup>					
容積対象床面積	2,565.00 m <sup>2</sup>					
建ぺい率	29.90%					
容積率	29.90%					

■建築基準法チェックリスト

関係法令	法令基準	本建物	判定
1 道路 (法第42条) 接道距離 (法第43条)	幅員4m以上 2.00m以上接道	都市計画区域外 都市計画区域外	対象外
2 用途制限	都市計画区域外 用途制限無し	用途地域: 未指定 主要用途: 鶏舎 新築延床面積: 2,565.00 m <sup>2</sup>	OK 建築可能
3 防火壁 (法第26条)	延べ面積が1,000m <sup>2</sup> を超える建築物は、防火上有効な構造の防火壁によって有効に区画し、かつ各区画の床面積の合計をそれぞれ1,000m <sup>2</sup> 以内としなければならない。  鶏舎、堆肥舎並びに水産物の増殖場及び養殖場の上屋の用途に供する建築物の構造は次に掲げる構造のものであること。 一、鶏舎等の外壁に避難上有効な開口部が2以上設けられており、鶏舎の各部分から当該各開口部に至る歩行経路が確保されている事 二、鶏舎等を間仕切壁により区画する場合にあっては、当該間仕切壁に開口部を設ける等により鶏舎等において作業に従事する者が火災の発生を容易に覚知できるもの  鶏舎等の各部分が次に掲げる用途に供されるものでないこと 一、売場、集会所その他の不特定又は多数の者の利用に供する用途 二、寝室、宿直室その他の人の就寝の用に供する用途 三、調理室、浴室その他の火を使用する設備又は器具を設けて利用する用途  鶏舎の周囲の状況が次のいずれかに適合するものであること。 一、次のイ及びロに適合する鶏舎等にあつては、6メートル以内に建築物又は工作物が存しないこと。 (当該鶏舎等に付属する不燃性を有する建築材料で造られたものを除く) イ、階数が一であるもの ロ、都市計画法第七条第一項に規定する市街化区域以外の区域ないにあるもの		対象外
4 耐火建築物 (法第27条) 準耐火建築物 (法第27条)		用途: 鶏舎 その他	対象外 その他とする
5 防火区画 (令第112条)	主要構造部を耐火構造とした建築物又は、法第2条第九号の三イもしくはロのいずれかに該当する建築物で延べ面積が1,500m <sup>2</sup> を超えるもの 面積区画 床面積<1,500m <sup>2</sup> 以上対象 高層区画 11階以上の建築物 縦穴区画 メゾネット・吹抜・昇降路等の周囲壁の区画 異種用途区画 主要用途とその他の用途の区画	その他  平屋 平屋	対象外 対象外 対象外
6 特殊建築物の内装制限 (法第35条の2)	関係法令 法令基準 その他の建築物で該当床面積200m <sup>2</sup> 以上対象	本建物 平屋建て 鶏舎 513.00m <sup>2</sup> 居室なし	判定 対象外
7 排煙設備 防煙タレ壁 (令第126条の2)	延べ面積が1,000m <sup>2</sup> を超える建築物の居室でその床面積が200m <sup>2</sup> を超えるもの	居室なし	対象外
8 非常用照明	特殊建築物の居室 階数3以上で延べ面積が500m <sup>2</sup> を超える建築物の居室 窓その他の開口部を有しない居室 延べ面積が1000m <sup>2</sup> を超える建築物の居室	居室なし	対象外

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 法規チェック図	図面番号 A-23
					工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			



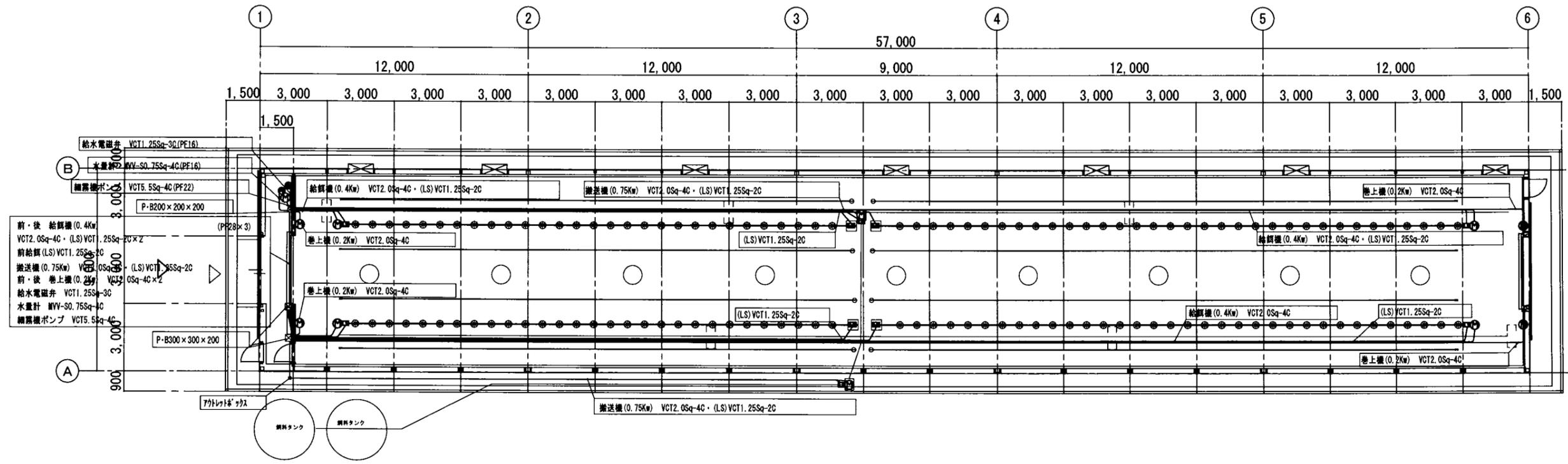
換気設備配線平面図

名称	機器使用	V(電圧)	KW容量	単位
給餌システム	型式 ローレベル給餌システム			4ライン
	給餌皿			4ライン分
	コントロールパン			4個
	給餌モーター	200	0.4	4台
	巻き上げモーター 1/160減速機	200	0.2	4台
	吊り下げ金具 @3m			
	給餌ホッパー			4台
搬送システム	中継用搬送モーター	200	0.75	1台
	鶏舎内搬送モーター	200	0.4	1台
	餌落とし口 リミットスイッチ2個			4箇所
	飼料タンク シングルブーツ Φ75mm用			

名称	機器使用	単位
給水システム	ニップル水量120ml/分	8ライン
	ヘッドキット レギュレーター	8個
	ドリンカーキャッチカップ	8ライン分
	吊り下げウインチ	8台
	フィルター 120メッシュ	1個
	水圧計	3組
	パイプジョイント	8ライン分
	ケミライザー 薬液注入器	1台
ブルーダーシステム	10584Kcal 直径864mm アルミ製 種火電磁弁24個	
	吊り下げウインチ	1台

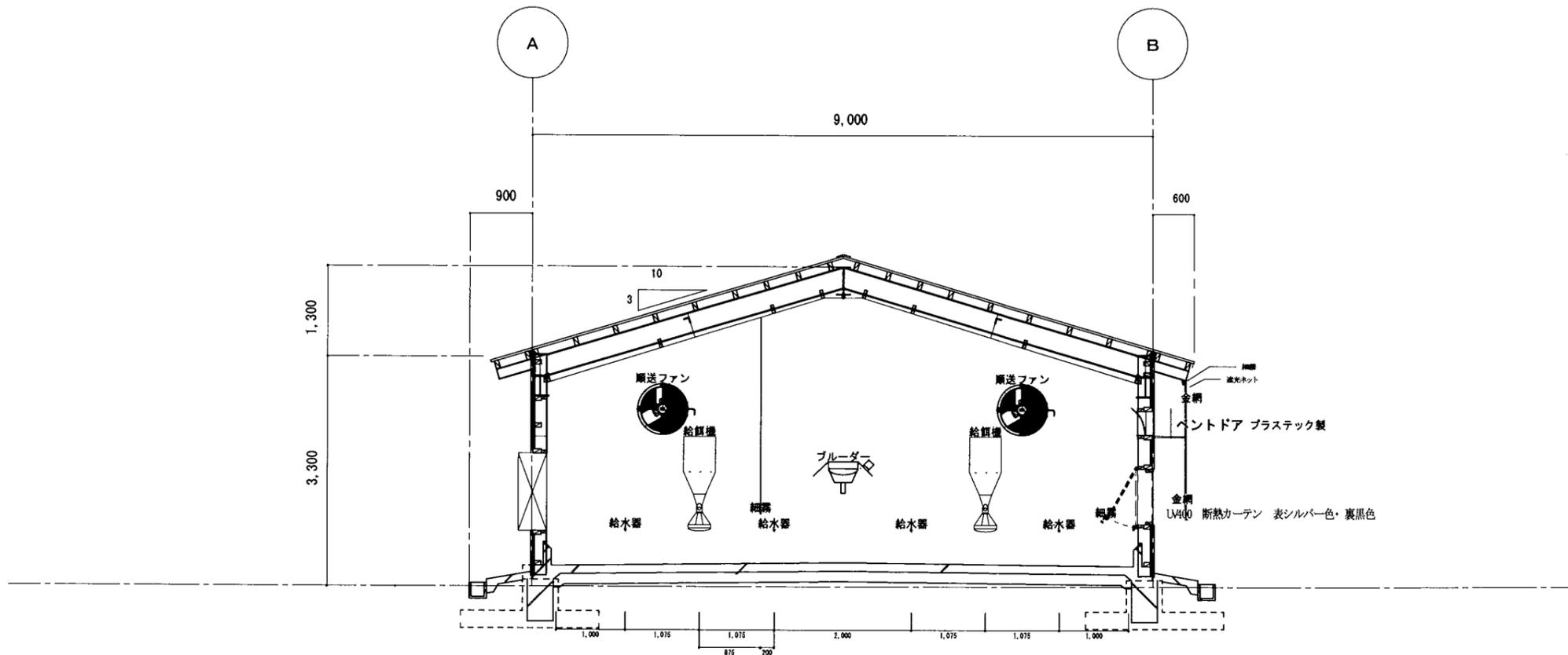
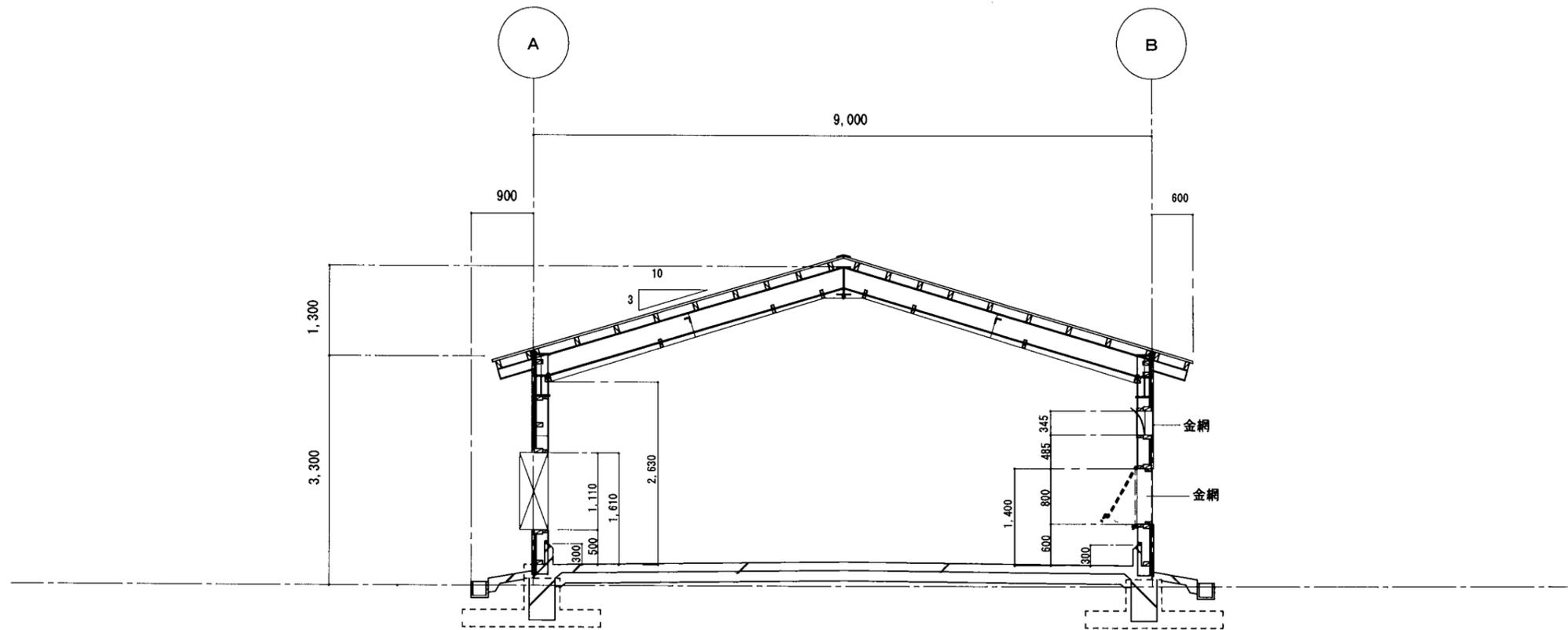
名称	機器使用	単位	V(電圧)	KW容量
換気扇	横引きファン 1100mm×1100mm×450mm 500 <sup>mm</sup> 径	7台	200	0.75
	上記用排気壁	7面		
	順送ファン NK-84CHA	6台	200	0.4
細霧装置	屋外軒下 1.5m間隔にノズル	1ライン		
	風向板カーテンの先に1.5m間隔にノズル	1ライン		
	鶏舎内 1.5m間隔にノズル	1ライン		
	水ローリータンク100リットル	1基		
	圧力ポンプ	1台		
	フィルター 120メッシュ	1個		
	ボールタップ	1個		

換気設備機器表

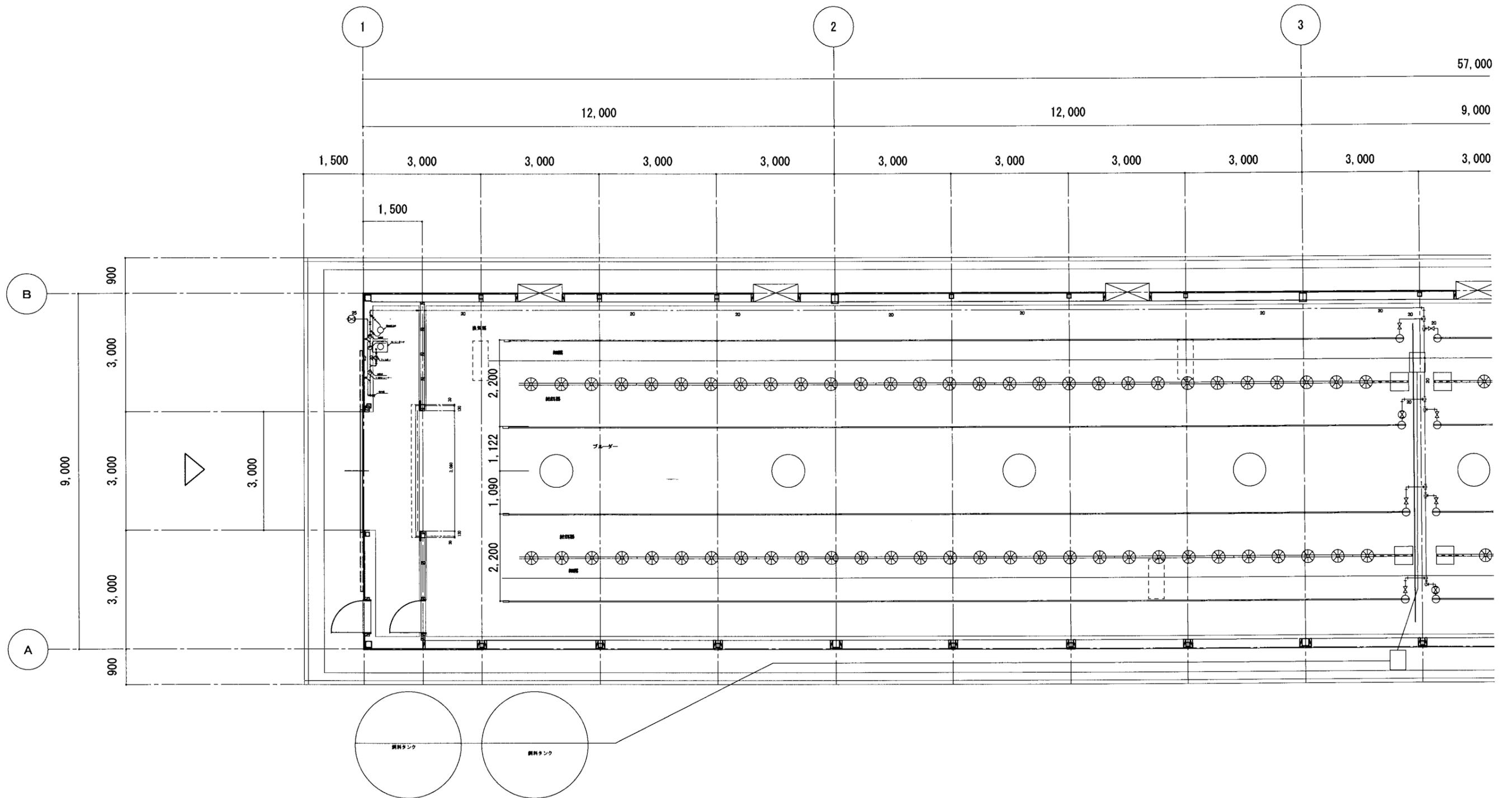


給餌・搬送設備平面配線図 S=1/100

MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 機械設備 (給餌・搬送設備平面配線図)	図面番号 A-25
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	A1: S = 1/100 (A3: S = 1/200)		



MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 機械設備 (機械設備矩計図)	図面番号 A-26
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			



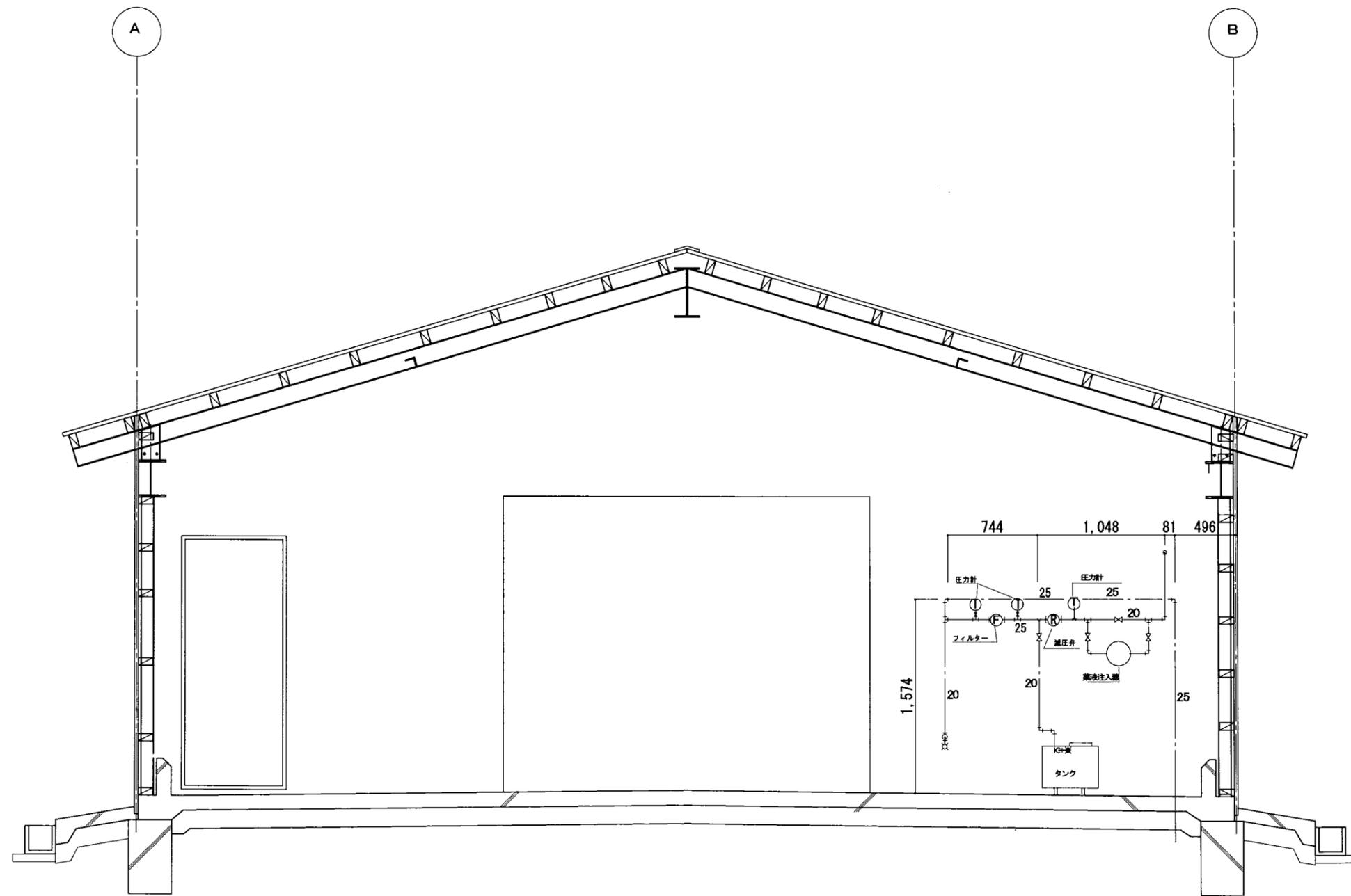
給水詳細平面図 S=1/50

**株式会社 翁長設計** 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 代表取締役 翁長武範 一級建築士 266066 松田健治  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

管理建築士  
 設計

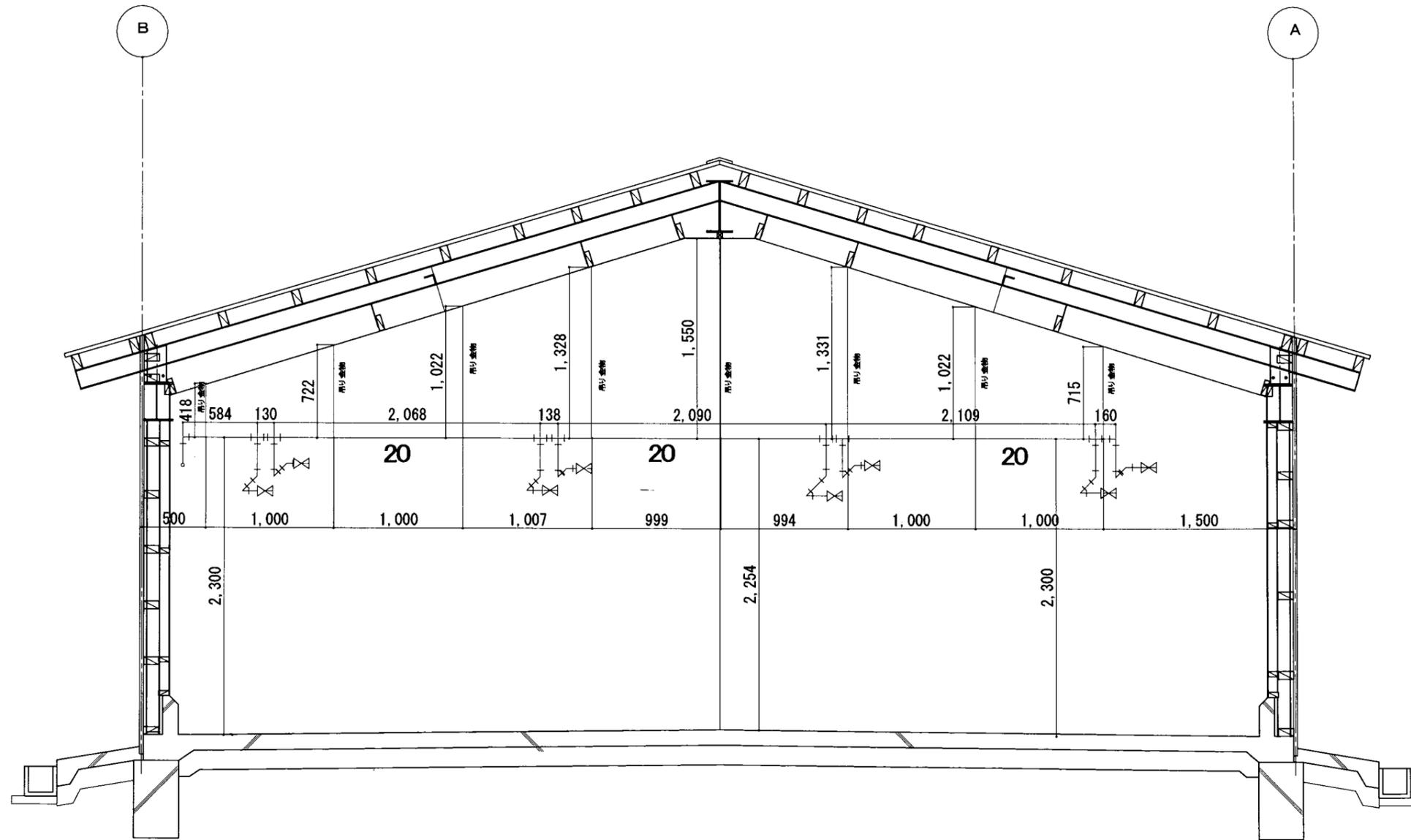
工事名称  
 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所  
 大宜見村字津覇 1971-112

図面内容  
 鶏舎 機械設備 (給水詳細平面図)  
 A1: S=1/50 (A3: S=1/100)



1通り

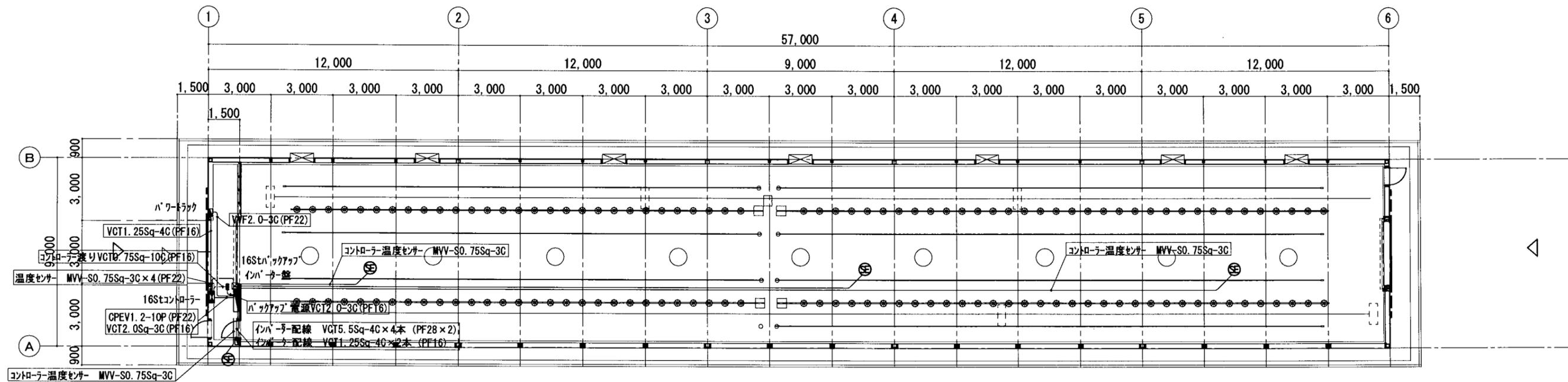
株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	図面内容 鶏舎 機械設備 (給水詳細図1) A1 : S = 1/20 (A3 : S = 1/40)	図面番号 A-28
				工事場所 大宜見村宇津覇 1971-112		



3通り から3,000離れ

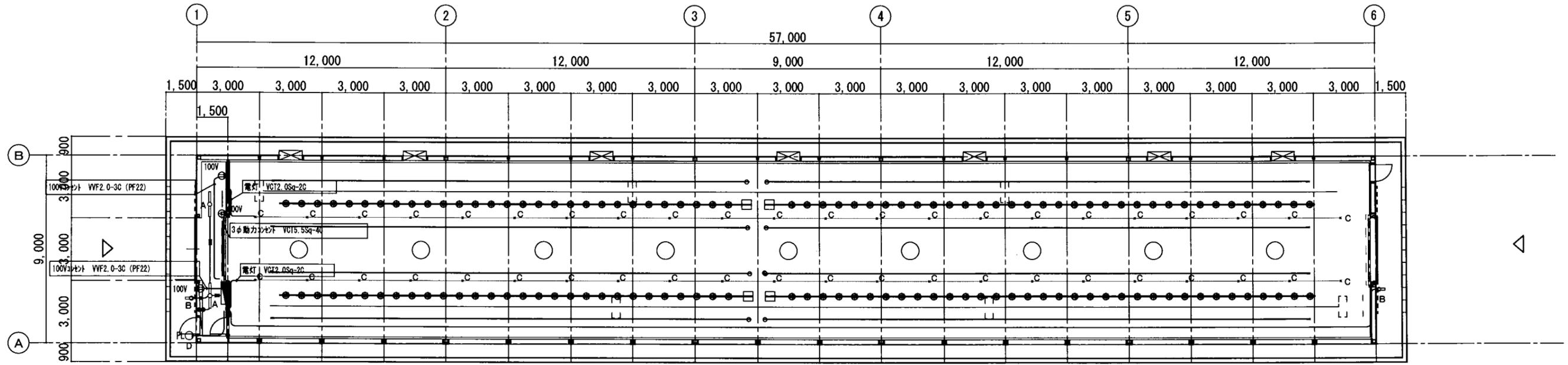
株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	図面内容 鶏舎 機械設備 (給水詳細図2)	図面番号 A-29
				A1 : S = 1/20 (A3 : S = 1/40)	





制御盤平面配線図

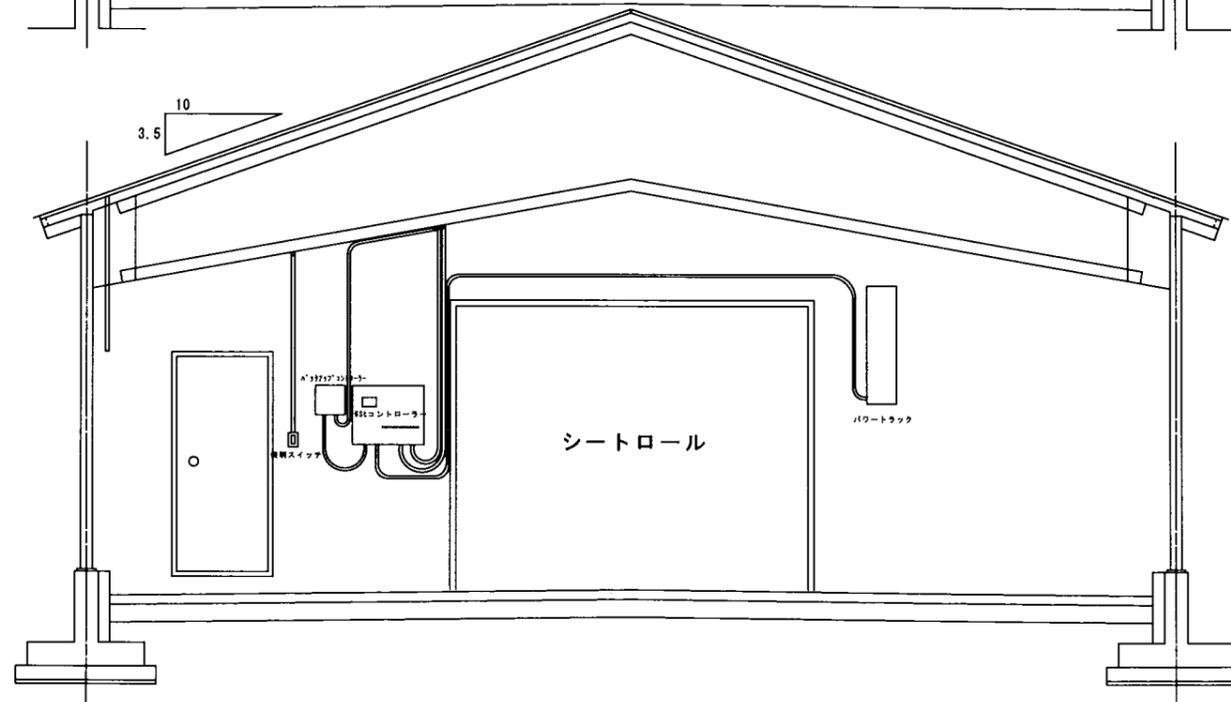
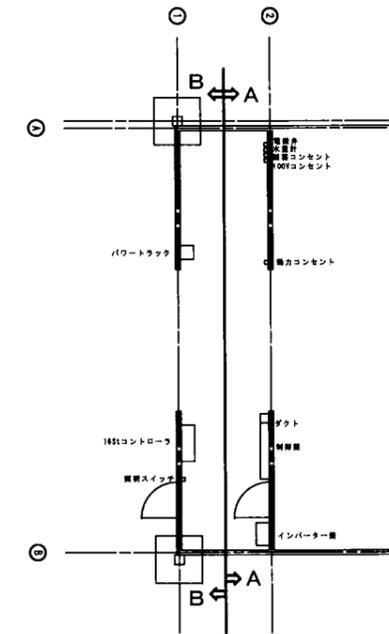
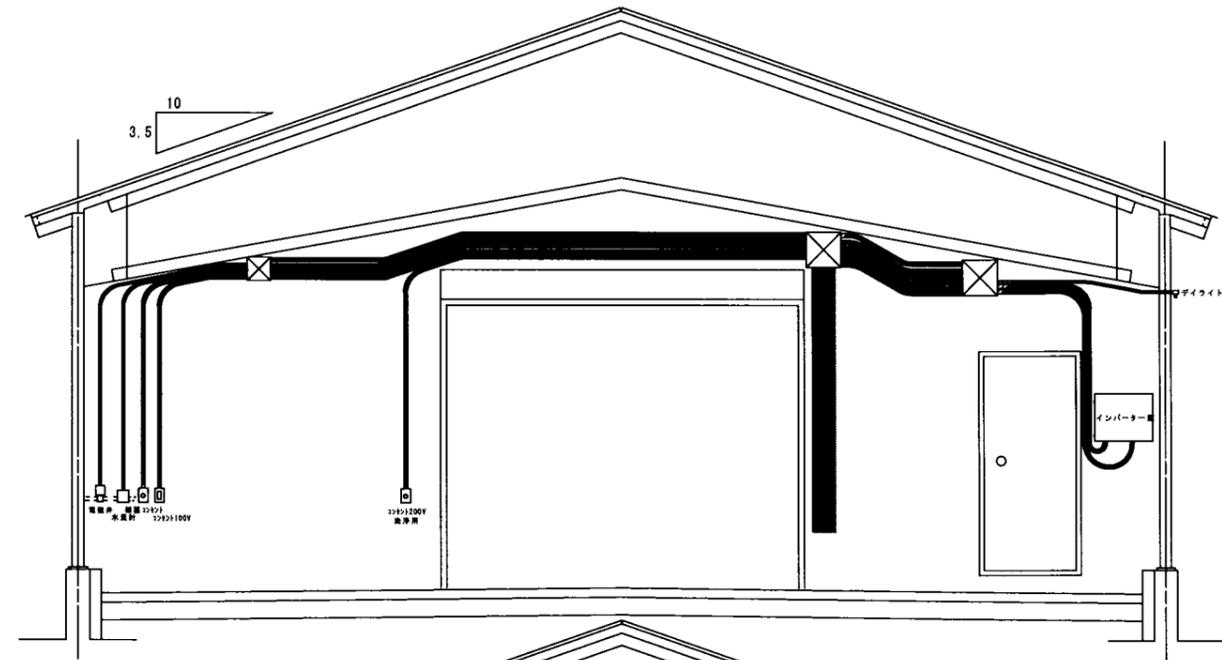
MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 機械設備 (制御盤平面配線図)	図面番号 A-31
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112	A1 : S = 1/00 (A3 : S = 1/200)		



電灯平面配線図 S=1/100

- 凡 例
- ⊕ B LED 屋外照明灯明るさセンサー付
  - A LED照明 HF32W×1灯相当
  - ⊗ C ずずらん灯 (E26)
  - 片切スイッチ
  - D ⊕ PL バトロイトブザー付100V
  - ▬ 制御盤
  - ⊕ 100V コンセント
  - ⊕ 200V 洗浄用動力コンセント
  - VVF1.6-3C
  - VVF1.6-2C×2
  - VVF1.6-3C・VVF1.6-2C
  - VVF1.6-3C×2





MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 鶏舎 機械設備 (立面配置図面)	図面番号 A-34
		一級建築士 266066 松田健治			工事場所 大宜見村字津覇 1971-112		A1 : S = 1/30 (A3 : S = 1/600)	
		TEL 877-5609 FAX 878-9429						

構造設計概要

1 構造概要
a 構造種別
地上部: RC造, S造, SRC造, その他
地下部: RC造, S造, SRC造, その他

2 計算法
許容応力度計算 (耐震設計の計算ルート: 1)
許容応力度計算 (耐震設計の計算ルート: 2)
保有水平耐力計算 (耐震設計の計算ルート: 3)

3 外力など
a 地震係数
地震種別: 第2種地震 Tc=0.60 sec
地盤特性係数: X方向: R=1.000, Y方向: R=1.000

b 風圧力 (N/m²)
地表面風速区分: I, II, III, IV
最高風速: V0=4.6 m/s, 速度圧 q=0.96kN

c 積雪荷重 (N/m²)
積雪区分: 多雪地域外, 多雪地域
積雪量: 20 N/m²/cm

d 積載荷重 (N/m²)
用途: 床用, 小売用, 集積用, 地盤用
積載: 600, 0, 0, 0

4 層間変形角など
設計用: 中地震時 X方向: 1/200, Y方向: 1/200
最大地震時 X方向: 1/100, Y方向: 1/100

5 その他
建築の責務: 無し, 有り

6 地盤調査資料
調査内容: 敷地内で本工事のために行った調査資料, 敷地内で既存に行われた調査資料

一般事項
この図面に記載されていない事項は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)国土交通省大臣官庁官庁発給標準(平成28年版)による。

3章 土工事
1 埋戻し及び盛土
表層の改良土は改良土として、粘土分の少ない砂質土とする。

2 山留めの設置、余剰土の抑制
山留めの設置に伴う余剰土の発生については、その抑制、低減を図り、産業廃棄物の削減に努めること。

3 周辺環境に対する配慮
周辺環境に対する配慮: 洗滌混合処理法, 適用範囲: 仕様は構造図による

4 周辺環境に対する配慮
周辺環境に対する配慮: 洗滌混合処理法, 適用範囲: 仕様は構造図による

4章 地業工事

1 試験など
試験機: 最初の1本, ( )本 位置は構造図による
試験の位置及び試験荷重等は構造図による

2 既成コンクリート杭地業
工法: 打込み工法, 打込み機: 油圧ハンマー, ディーゼルハンマー

3 場所打ちコンクリート杭地業
工法: アースドリル工法, リバース工法, オールケーシング工法

4 鋼管杭
工法: 打込み工法, 打込み機: 油圧ハンマー, ディーゼルハンマー

5 砂利および捨てコンクリート地業等
a 砂及び砂利地業: 厚さ(mm) 60, 150

6 地盤改良
洗滌混合処理法, 適用範囲: 仕様は構造図による

7 周辺環境に対する配慮
特殊地業の施工に際しては、3章4に示す内容について確認し、監理者に報告すること。

5章 鉄筋工事

1 鉄筋
種類: 鋼材, 記号, 使用部位, 呼び径(mm)

2 溶接金網 (JIS G 3551)
種類と鉄線の形状: レギュラー溶接金網, 鉄線の形状: 丸鉄線

3 スペース
材質: 鋼材, 記号, 使用部位, 呼び径(mm)

4 継手
継手の工法: 鋼材, 記号, 使用部位, 呼び径(mm)

5 かぶり厚さ及び間隔
かぶり厚さ: 増打ちなどの仕上げを除く構造体表面までの最短距離とする。

6 圧接及び圧接完了後の抜取試験
圧接完了後の抜取試験は経年劣化試験とされる。

7 各部配筋
各部の配筋は構造図による。

8 基礎梁主筋の継手位置
継手位置: 基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合など

9 帯筋
帯筋: H形, F形, S形, 丸形

6章 コンクリート工事

1 コンクリートの強度、スランプ、材料など
種類: 気乾単位, 設計, スランプ, 水和剤, 混和材, 適用範囲

2 スランプ
スランプ: 普通, 高PP, 高AE

3 再生骨材
再生骨材および高炉スラグ骨材を以下に使用する。なお、使用する再生骨材の品質については、監理者の承認を受けること。

4 レーミックスコンクリートの種類
レーミックスコンクリート: JIS A 1001及びJIS A 5308への適合を認められたコンクリート

5 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地の寸法、位置、形状
打継ぎ目地: 誘発目地の深さ=10mmとする。

6 型枠
型枠: 増打ち厚さ, 増打ち厚さは基礎面による他、下記による。

7 寒中コンクリート
適用する: 適用しない

8 暑中コンクリート
適用する: 適用しない

9 無筋コンクリート
適用箇所: 床下防湿層

7章 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場
鋼材は規格品とし、証明書付きとする。

2 鋼材
鋼材: 鋼材, 記号, 使用部位, 呼び径(mm)

3 ボルトの種類
ボルト: 六角ボルト, 六角ナット

4 建築用ターンバックル (JIS A 5540)
ターンバックル: 建築用ターンバックル

5 錆止め塗装
錆止め塗装: 鋼材の錆止め

6 耐火被覆
耐火被覆: 耐火被覆材

7 溶融亜鉛めっき
溶融亜鉛めっき: 溶融亜鉛めっき

8 鋼骨接合部
鋼骨接合部: 鋼骨接合部

9 その他
その他: その他

8 試験及び検査

1 試験の試験
完全溶込み溶接の非破壊試験の受入検査は下記による。

2 鋼材
鋼材: 鋼材, 記号, 使用部位, 呼び径(mm)

3 ボルトの種類
ボルト: 六角ボルト, 六角ナット

4 建築用ターンバックル (JIS A 5540)
ターンバックル: 建築用ターンバックル

5 錆止め塗装
錆止め塗装: 鋼材の錆止め

6 耐火被覆
耐火被覆: 耐火被覆材

7 溶融亜鉛めっき
溶融亜鉛めっき: 溶融亜鉛めっき

8 鋼骨接合部
鋼骨接合部: 鋼骨接合部

9 その他
その他: その他

1章 一般適用事項

1. 1 総則

- (1) 本方法は普通コンクリートと異形鉄筋SD295A・8, SD345, SD390およびSD490の組み合わせを対象とする。
(2) 鉄筋の折曲げ加工は、鉄筋径にかかわらず常温加工とする。
(3) 鉄筋の折曲げ加工、定着長さ、重ね継手長さなどを定める場合の鉄筋径は、呼び名に用いた数値(d)とする。
(4) 鉄筋の両端および鉄筋相互の空きを決定するコンクリート用鋼骨材の最大寸法は25mm以下とする。
(5) 本図及び設計図にない事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・解説(2010)」による。

1. 2 用語および記号

- (1) 公称直径 異形鉄筋の単位長さ当りの重量より算出された直径
(2) 呼び名 JISにより定められた呼び名とし、公称直径の寸法を丸めた値
(3) 異形鉄筋の形状の寸法
(4) かぶり厚さ 施工の基準とするかぶり厚さをいい、鉄筋表面とこれを覆うコンクリート表面までの最短距離
(5) 耐力壁 鉛直荷重、または土圧、風圧、地震力等の水平力に抵抗させる目的で造られる壁体

(6) 鉄筋径の表示記号

Table with 2 columns: 表示記号, 呼び名. Rows include SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490.

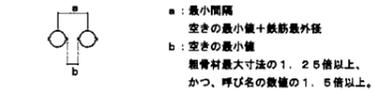
(7) 鉄筋を途中で止める場合の表示記号



1. 3 鉄筋間隔および鉄筋相互の空き

(1) 鉄筋の間隔、空きの最小値

Table with 2 columns: 呼び名, 最小間隔. Rows include SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490.



1. 4 鉄筋のかぶり厚さ

(1) 鉄筋のかぶり厚さは下表を満足する値とする。

Table with columns: 構造部位の種類, 最小かぶり厚さ, 設計かぶり厚さ. Rows include 土に接しない部分, 土に接する部分, 基礎, 柱, 梁, 床スラブ, 階スラブ, 地下外壁, ドライエリア, 階間スラブ.

- 1 高炉セメントC種、シリカセメントC種、フライアッシュセメントC種を用いるときのかぶり厚さは、設計担当者の指示による。
2 「仕上げあり」とはタイル張り、石張り、吹き付けタイル、塗装等を行い、「仕上げなし」とは、打直し(打直し仕上げは除く)、セメント系シーリング等の場合をいう。
3 土に接する部分に軽量コンクリートを使用する場合は、10mm増しの値とする。
4 基礎で杭基礎の場合、かぶり厚さは杭先端からの寸法とする。
5 柱、壁などに自由に設ける場合のかぶり厚さは、設計図に指示のない限り地盤面からの寸法とする。
6 土に接する部分のかぶり厚さは打直し寸法を含む数値である。
7 土に接する部分の施工は右図による。
8 重要施設等で設計図に特記がある場合は、( )内数値を適用する。重要、一般施設の区別は特記による。



- インサートレール取付部の打直し 0≦≦100
(2) 大梁、小梁のインサートレール取付部の取除は20とする。

1. 5 定着と継手

1. 5. 1 適用

- a. 鉄筋の定着および継手は、設計図書の特記による。
b. 特記のない場合の継手の位置・範囲は、本図による。

1. 5. 2 定着長さ

- a. 鉄筋の定着長さおよび方法は、特記による。特記のない場合、小梁、スラブの下端筋を除く異形鉄筋の直線定着の長さL2は表5.1(a)の数値以上とし、フック付き定着の長さL2hは表5.1(b)の数値以上とする。

表5.1 異形鉄筋の定着の長さ

Table 5.1(a) 直線定着の長さL2. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

(b) フック付き定着の長さL2h

Table 5.1(b) フック付き定着の長さL2h. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

- 注(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸網には適用しない。
(2) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着長さから鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック脚は定着長さに含まない。
(3) フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、特記のない場合は表6.1による。
(4) 軽量コンクリートを使用する場合の定着長さは特記がない場合は、Fo≦36N/mm²の軽量コンクリートとSD490以外の異形鉄筋を対象として、表5.1の数値に5d以上加算した定着長さとして、工事監督者の承認を得ること。

- b. 小梁、スラブの下端筋の定着の長さおよび方法は、特記による。特記のない場合は、小梁、スラブの下端筋の異形鉄筋の直線定着長さL2は、表5.2(a)の数値以上とし、フック付き定着の長さL2hは表5.2(b)の数値以上とする。

表5.2 小梁・スラブの下端筋の定着の長さ

Table 5.2(a) 直線定着の長さL2. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18~60.

(b) フック付き定着の長さL2h

Table 5.2(b) フック付き定着の長さL2h. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18~60.

- 注(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸網には適用しない。
(2) 折圧スラブの下端筋の定着長さは表6.1による。
(3) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着長さから鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック脚は定着長さに含まない。
(4) フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、特記のない場合は表6.1による。
(5) 軽量コンクリートを使用する場合の定着長さは特記による。特記がない場合は、Fo≦36N/mm²の軽量コンクリートとSD490以外の異形鉄筋を対象として、表5.2の数値に5d以上加算した定着長さとし、工事監督者の承認を得ること。

- o 仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の定着長さが、表5.1(b)のフック付き鉄筋の定着長さL2hを満足しない場合は、下記の(1)~(2)による。
(1) 仕口内に90°折曲げ定着する異形鉄筋の定着長さは、図6.1に示すように、定着長さ(仕口面)から鉄筋先端までの全長を直線定着の長さL2(表5.1(a)の数値)以上、かつ、余長を8d以上とし、定着長さから鉄筋外面までの投影定着長さLaまたはLbを指定する。

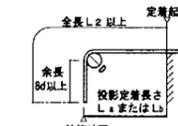


図6.1 仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の投影定着長さ(LaまたはLb)

- (2) 鉄筋の投影定着長さLaまたはLbは、RC規準(2010年版)に従って計算し、設計図書に特記する。特記がない場合は投影定着長さは、大梁(基礎梁や片持梁を含む)の主筋の柱内定着については、表6.3(a)のLaの数値以上、小梁やスラブ(片持形式を除く)の上端筋の梁内定着については、表5.2(b)のLbの数値以上とする。なお、片持形式の小梁やスラブの上端筋は、表5.2(a)のLaの数値以上とする。

表5.3 異形鉄筋の仕口内の折曲げ定着の投影定着長さ

Table 5.3(a) 大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さLa. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

Table 5.3(b) 小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さLb. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

- 注(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸網には適用しない。
(2) フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、特記のない場合は表6.1による。
(3) 軽量コンクリートを使用する場合の鉄筋の投影定着長さLaまたはLbは、特記による。特記がない場合は、Fo≦36N/mm²の軽量コンクリートとSD490以外の異形鉄筋を対象として、表5.3の数値に5d以上加算した投影定着長さとして、工事監督者の承認を得ること。
(4) 梁主筋を柱へ定着する場合、Laの数値は原則として柱径の3/4倍以上とする。

- d. 機械式定着による場合は、定着具の寸法・品質・施工法およびその場合の定着長さを設計図書に特記する。

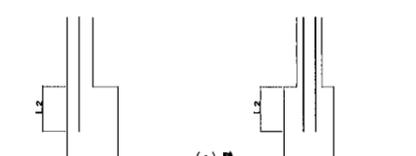
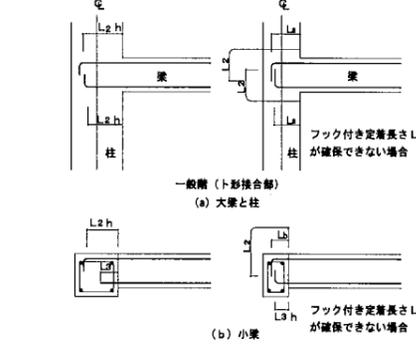
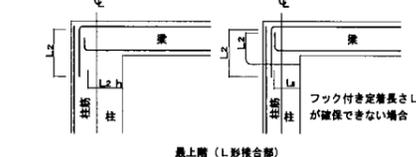


図6.2 定着の長さの取り方

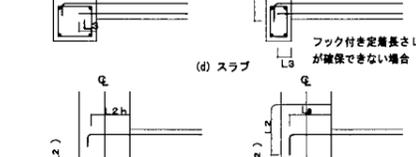


図6.3 梁筋の柱内へ折曲げ定着

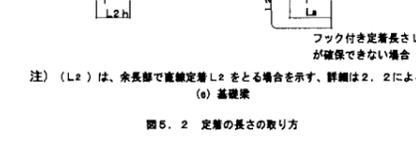


図6.4 仕口せいが小さい場合の鉄筋の折曲げ定着

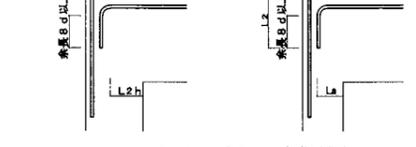


図6.5 重ね継手の長さ

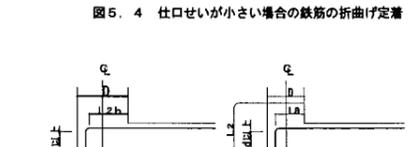


図6.6 重ね継手の長さ

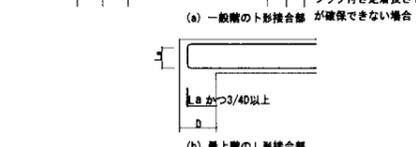


図6.7 あり重ね継手

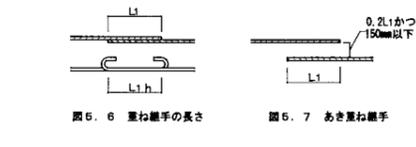


図6.8 水平重ね・上下重ね

- 1. 5. 3 ガス圧接量・重ね継手および特殊継手
a. ガス圧接継手の仕様は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」(2009年版)による。
b. 重ね継手の長さは設計図書に特記する。特記のない場合は、柱・梁の主筋以外の他の鉄筋を対象として、直線重ね継手の長さは表6.4(a)の数値以上とし、フック付き重ね継手の長さL1は表6.4(a)の数値以上とし、フック付き重ね継手の長さL1hは表6.4(b)の数値以上とする。ただし、D35以上の異形鉄筋は、原則とし重ね継手は用いない。
c. 機械式継手・溶接継手を用いる場合は、設計図書に特記する。
d. 継手は、1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

表5.4 異形鉄筋の重ね継手の長さ

Table 5.4(a) 直線重ね継手の長さL1. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

Table 5.4(b) フック付き重ね継手の長さL1h. Columns: コンクリートの設計基準強度, Fe(N/mm²), SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490. Rows: 18, 21, 24~27, 30~36, 39~45, 48~60.

- 注(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸網には適用しない。
(2) 直線の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
(3) フック付き重ね継手の定着長さは、鉄筋相互の折曲げ開始点間の距離とし、折曲げ開始点以降のフック脚は継手長さに含まない。
(4) フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、特記のない場合は表6.1による。
(5) 軽量コンクリートを使用する場合の鉄筋の重ね継手の長さは特記による。特記がない場合は、Fo≦36N/mm²の軽量コンクリートとSD490以外の異形鉄筋を対象として、表5.4の数値に5d以上加算した継手の長さとして、工事監督者の承認を得ること。なお、鉄筋の下に300mm以上の軽量コンクリートを打ち込む部材の上端部の重ね継手はフック付きとする。

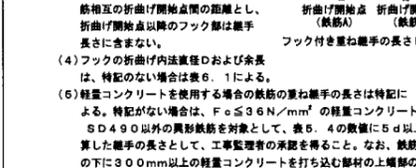


図6.9 重ね継手のずらし方

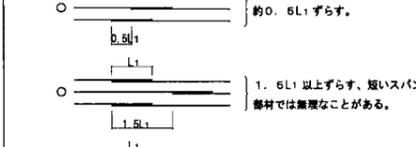


図6.10 ガス圧接継手・機械式継手・溶接継手のずらし方

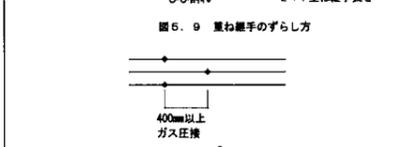


図6.11 機械式継手・溶接継手と重ね継手併用の場合

1. 5. 4 溶接金網の定着と継手

- a. 溶接金網の定着は、図6.12による。
b. 溶接金網の継手は重ね継手とし、図6.13による。



図6.12 溶接金網の定着

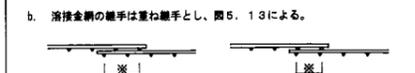


図6.13 溶接金網の継手

- ※を機械間隔+50mmかつ150mm以上とする。(a)応力伝達継手 (b)ひび割れ制御用溶接金網の場合

1. 5. 5 鉄筋格子の定着と継手

- 鉄筋格子の定着長さおよび継手長さは設計図書の特記による。特記のない場合は、定着長さは表5.1~5.3、継手長さは5.4の数値以上とする。

1. 6 鉄筋の加工形状

- 1. 6. 1 加工形状
鉄筋の折曲げ形状とその寸法は表6.1による。

表6.1 鉄筋の折曲げ形状・寸法

Table 6.1 鉄筋の折曲げ形状・寸法. Columns: 図, 折曲げ角度, 鉄筋の種類, 鉄筋の径による区分, 鉄筋の折曲げ内法直径(D).

- 注(1) dは、丸網では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値とする。
(2) スパイラル筋の重ね継手は90°フックを用いる場合は、余長は1.2d以上とする。
(3) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
(4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸網を使用しない。
(5) 折曲げ内法直径を上記の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。
(6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。

1. 6. 2 鉄筋の加工

- a. 有害な曲がりあるいは損傷のある鉄筋は用いない。
b. コイル状の鉄筋は、直線型にかけて用いる。この際、鉄筋に損傷を与えてはならない。
c. 鉄筋は鉄筋加工機に使い、所定の寸法に切断する。切断は、シャークターまたは直角切断機などによって行う。鉄筋の折曲げは、手動鉄筋折曲げ機または自動鉄筋折曲げ機などによって行う。
d. 鉄筋の加工は、設計図書および鉄筋加工機に使い、下記(1)および(2)により行う。

- (1) 加工寸法の許容差は、特記による。特記のない場合は表6.2による。

Table 6.2 加工寸法(1)の許容差 (単位:mm). Columns: 項目, 許容差. Rows: 各加工寸法(1), 主筋, 非主筋, あら筋・帯筋・スパイラル筋, 加工後の全長.

- 注(1) 各加工寸法および加工後の全長の測り方を図面に示す。

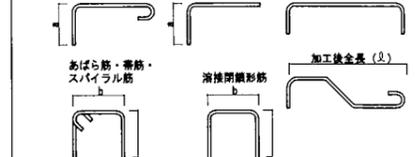


図6.12 折曲げは冷間加工とし、その形状・寸法は特記による。特記のない場合は表6.1による。

MEMO

株式会社 翁長設計
一級建築士事務所 事務所登録 162-192
一級建築士 266066 松田健治
代表取締役 翁長武範
浦添事務所 3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

MEMO
工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事
日付 平成 28 年 月 日

図面内容 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)
図面番号 S-2
A1:S:1/ - (A3:1/ -)

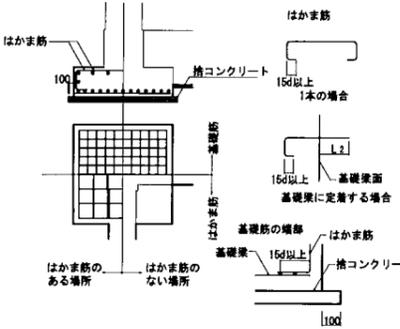
イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

## 2章 各部配筋

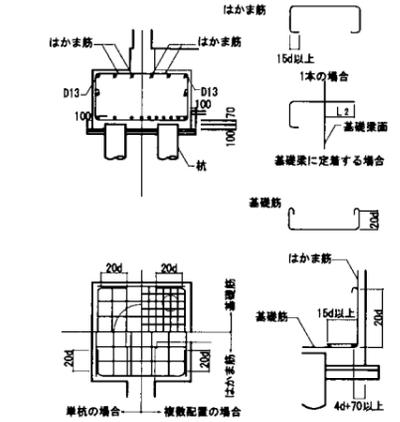
### 2.1 基礎

#### 2.1.1 独立基礎

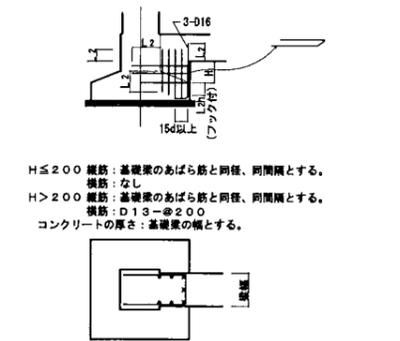
(1) 直接基礎  
基礎筋、はかま筋および地束は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦横筋ともD10@300とする。



(2) 杭基礎  
基礎筋、はかま筋、地束および杭頭筋は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦横筋ともD13@300とする。



(3) 独立基礎と基礎梁の接合  
基礎が下がる場合の補強は設計図による。設計図に指示のない場合は下図による。

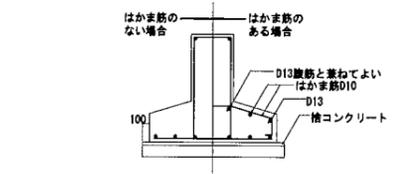


H ≤ 200 縦筋: 基礎梁のあばら筋と同径、同間隔とする。  
横筋: なし  
H > 200 縦筋: 基礎梁のあばら筋と同径、同間隔とする。  
横筋: D13-@200  
コンクリートの厚さ: 基礎梁の幅とする。



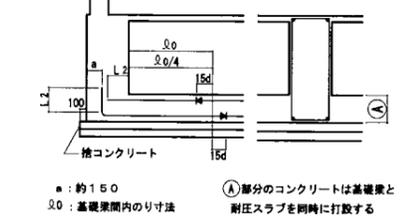
#### 2.1.2 連続基礎

基礎筋、はかま筋および地束は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦横筋ともD10@300とする。

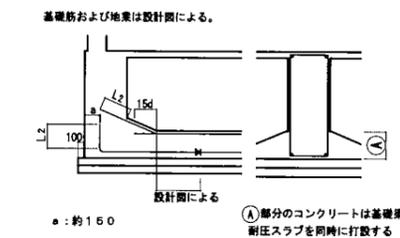


#### 2.1.3 ベタ基礎

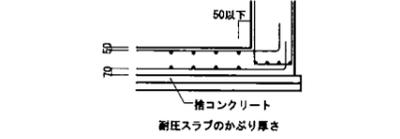
(1) ハンチなしの場合  
基礎筋および地束は設計図による。



(2) ハンチ付きの場合  
基礎筋および地束は設計図による。



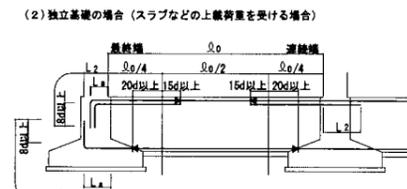
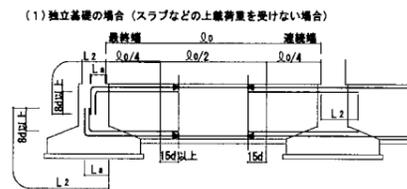
耐圧スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面から50mm程度以下の位置とする。



### 2.2 基礎梁

#### 2.2.1 配筋および定着

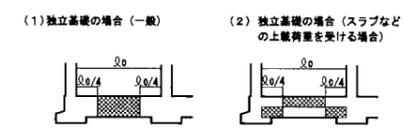
ここに記載した事項以外は2.4による。



※L<sub>e</sub>の数値は、原則として、柱せいの3/4倍とする。

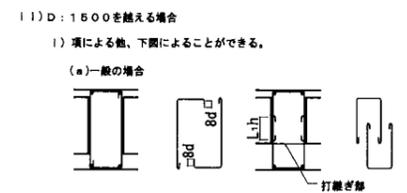
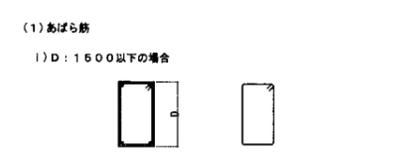
#### 2.2.2 継手位置

継手位置は標準継手位置を原則とする。



#### 2.2.3 あばら筋

ここに記載した事項以外は2.4.3による。



### 2.3 柱

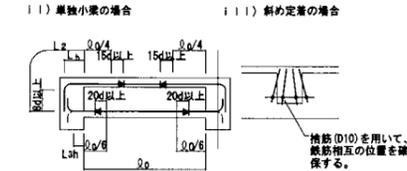
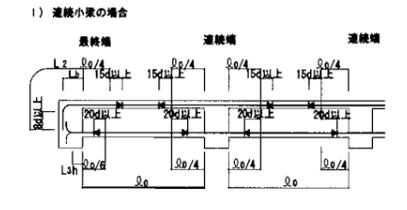
適用なし

### 2.4 大梁

適用なし

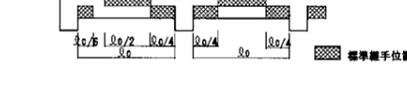
### 2.5 小梁

2.5.1 配筋および定着

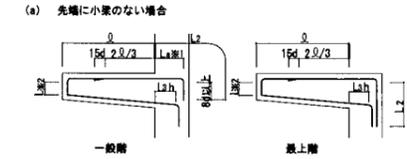


#### 2.5.2 継手位置

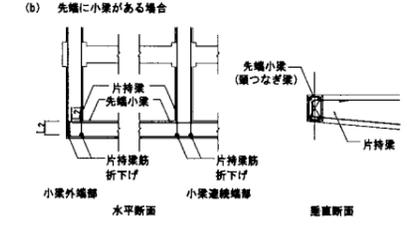
継手位置は、標準継手位置を原則とする。



#### 2.5.3 片持梁

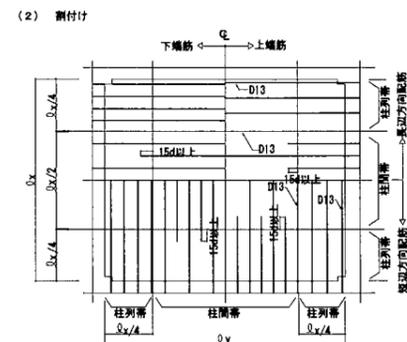
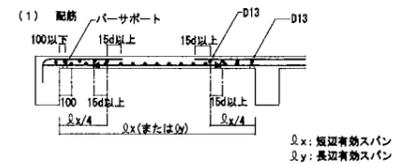


※1. L<sub>e</sub>の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。  
※2. 先端の折曲げの長さLは梁せいのからぶり厚さを除いた長さとする。



### 2.7 床スラブ

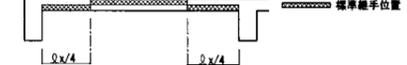
#### 2.7.1 配筋



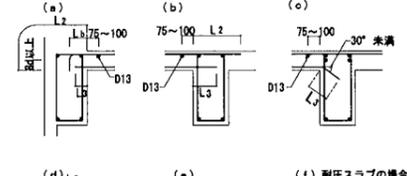
注) 柱間帯の配筋は設計図による。柱列帯の配筋は設計図に指示のない場合、上・下端筋ともD10@250とする。

#### 2.7.2 継手位置

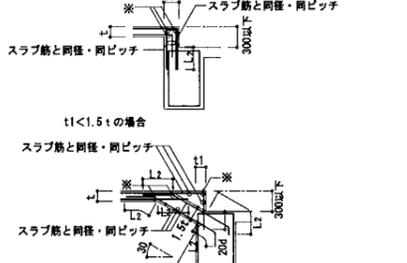
継手位置はできるだけ標準継手位置に設ける。



#### 2.7.3 定着

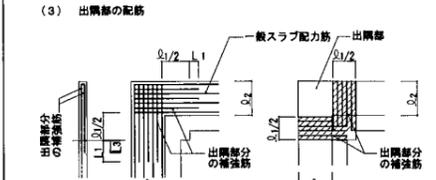
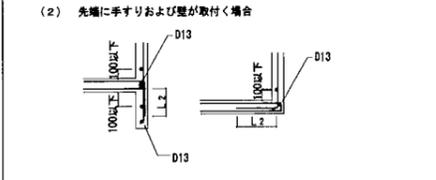
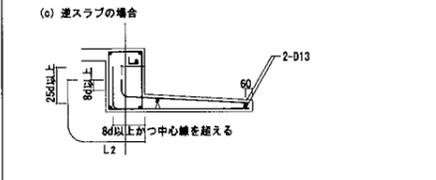
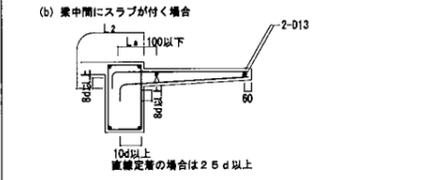
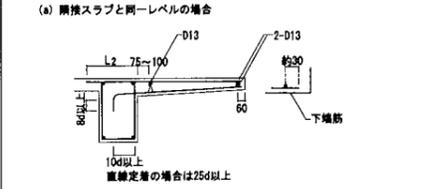


(a) 梁と床スラブに段差がある場合  
t ≥ 1.5t の場合



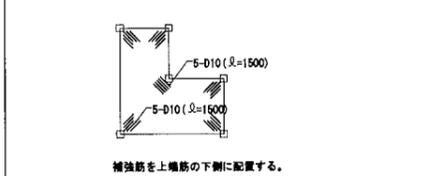
1. tはスラブ厚を示す。  
2. ※印はスラブ筋の1サイズアップとする。

#### 2.7.4 片持スラブ



(注) 1: R<sub>1</sub> ≥ R<sub>2</sub>とする。  
2: 出隅筋は配筋と前後としピッチは1/2とする。  
3: 補強筋主筋と同径としピッチは1/2とする。

#### 2.7.5 屋根スラブの出隅及び入隅部



MEMO

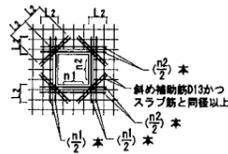
株式会社 翁長設計  
代表取締役 翁長武範  
浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
一級建築士 266066 松田健治

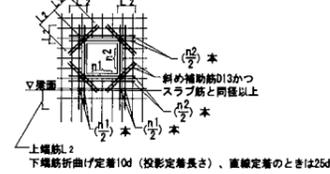
イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60650号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

2. 7. 6 開口補強

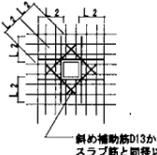
(a) 開口最大の径が700mm以下の場合



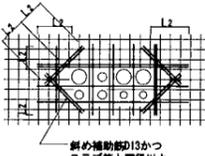
(b) 片持スラブの開口補強の場合



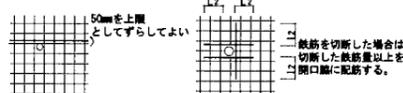
(c) 開口最大の径が300mm以下の場合



(d) 小開口を連続して設けた場合

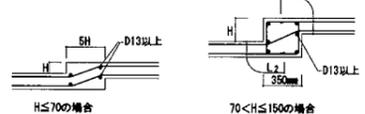


(e) 単独開口の場合



- 開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で開口部を補強する(上下筋とも)。
- 補強筋は鉄筋の両側を50mm程度あけて配筋する。
- 斜め補強筋は上下筋の内側にシングル配筋する。
- 開口が梁に接している場合は、補強筋の定着長さは梁面からの長さとする。
- 開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

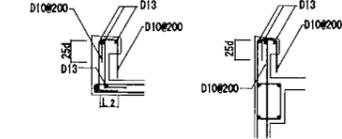
2. 7. 7 段差部の納まり



2. 9 その他

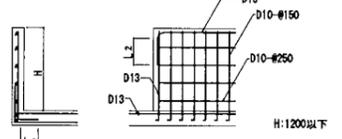
2. 9. 1 パラペット

設計図に指示のない場合は下記による。

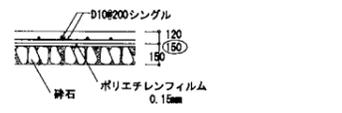


2. 9. 2 手すり

設計図に指示のない場合は下記による。

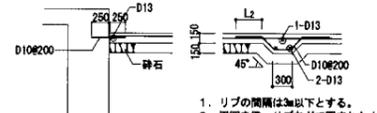


2. 9. 3 土間コンクリート

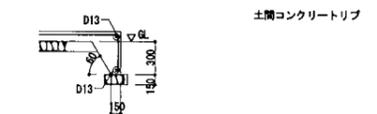


パイプローラ等により期待耐力が $30kN/m^2$ 以上まで弱まる。地盤が軟弱で上記耐力の確保が必ずしも難しい場合は、軟弱地盤を土土におきかえる。

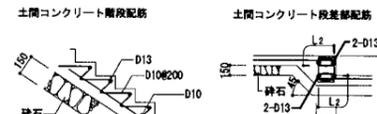
土間コンクリート受け・土間コンクリートリブ配筋



1. リブの間隔は3m以下とする。  
2. 両側を梁・リブなどで囲まれた土間コンクリート1枚の面積は $25m^2$ 以下とする。



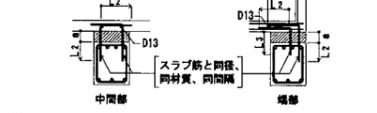
土間コンクリート受  
土間コンクリートリブ  
土間コンクリート階段配筋  
土間コンクリート段差部配筋



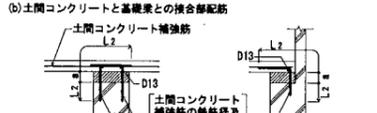
土間コンクリート受  
土間コンクリートリブ  
土間コンクリート階段配筋  
土間コンクリート段差部配筋

2. 9. 4 土間コンクリート、土間スラブの打抜き補強

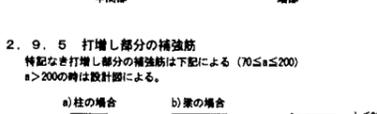
(a) 土間スラブの打抜き補強



基礎梁とスラブを一体打ちとし、打抜きを設ける場合の補強を示す。

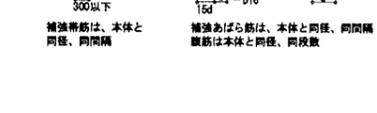


(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



2. 9. 5 打抜き部分の補強筋

特記なき打抜き部分の補強筋は下記による(70 $\leq$ a $\leq$ 200  
a>200の場合は設計図による)。



1. A、B、Hは任意図参照。  
2. 主筋の継手長さはL、定着長さはLとする。

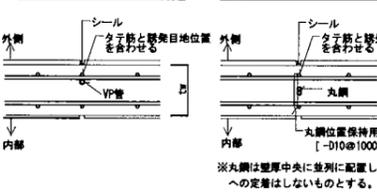
2. 9. 6 誘発目地

- ・誘発目地の間隔は3m以下とする。
- ・梁・柱・誘発目地・耐震スリットなどで囲まれた1枚の壁の面積は $25m^2$ 以下とする。
- ・1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比は1.25以下とする。
- ・誘発目地の仕様

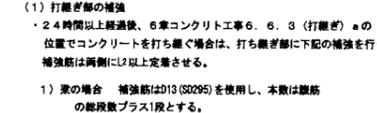
1. 一般壁の場合はVP管、耐震壁の場合は丸鋼を欠換材として使用する。
2. 誘発目地、縦筋、VP管及び丸鋼を一直線に並び、欠換率25%以上を確保する。
3. 目地深さ=増打ち厚とする。
4. 水平方向目地を設ける場合は、前直方向目地と同様、水平方向目地位置に合わせて欠換材を配置する。なお、欠換材の縦横の交差部は一通しとし、直交方向は分断配筋とする。
5. 誘発目地を柱間に設ける場合は、柱断面内にVP管、丸鋼が入らないように注意すること。

1) 一般壁の場合

壁厚 tw (mm)	VP(外径) $\phi$ (mm)	壁厚 tw (mm)	丸鋼
150	18	150	1- $\phi$ 12
180	18	180	2- $\phi$ 12
200	18	200	2- $\phi$ 12
220	22	220	2- $\phi$ 16
250	22	250	2- $\phi$ 16
300	38	300	3- $\phi$ 16



2) 耐震壁の場合

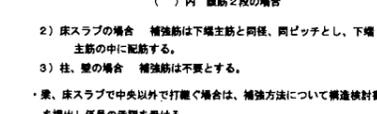


2. 9. 7 打抜き部及び増築予定部の補強

(1) 打抜き部の補強

- ・2.4時間以上経過後、6重コンクリート工事6.6.3(打抜き部) aの位置でコンクリートを打ち置く場合は、打ち抜き部に下記補強を行う。
- 補強筋は両側にL以上定着させる。

1) 梁の場合 補強筋はD13(S295)を使用し、本数は鉄筋の総段数プラス1段とする。



2) 床スラブの場合 補強筋は下端主筋と同径、同ピッチとし、下端主筋の中に配筋する。

3) 柱・壁の場合 補強筋は不要とする。

・梁、床スラブで中央以外で打抜き場合は、補強方法について構造検討書を提出し関係者の承認を受ける。

(2) 増築予定部の補強

- ・増築予定部の補強は6.3.(1)(打抜き部の補強)に準ずる。
- ただし、梁、床スラブで中央以外で打抜き場合は特記による。
- 特記のない場合は下記による。

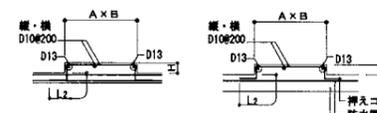
1) 梁の場合 5.3.(1)(打抜き部の補強)のD13をD16にする。

2) 床スラブの場合 補強筋は上下共主筋と同径、同ピッチとし、各々主筋の間に配筋する。

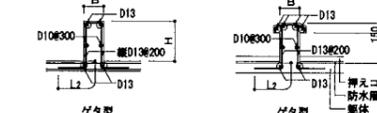
3) 鉄筋の防錆処理及び保護は特記による。

2. 9. 8 機械基礎配筋

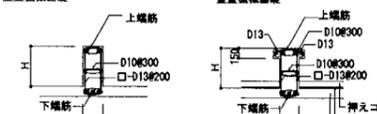
< 屋内 > 一般機械基礎



< 屋外 > 一般機械基礎



重層機械基礎



1. A、B、Hは任意図参照。  
2. 主筋の継手長さはL、定着長さはLとする。

2. 10 躯体内埋込み配管等の補強及び配管要領

2. 10. 1 柱

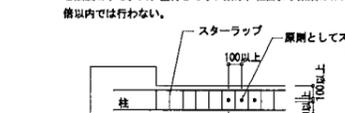
適用なし

2. 10. 2 梁

(1) 梁には原則として照明ボックスを埋込んではならない。

(2) 梁に配管を埋込む場合

- 1) 使用する管の外径は31 $\phi$ 以下とする。
- 2) 梁材軸方向の配管は、原則として行わない。
- 3) 梁の幅方向の配管、及び垂直方向の配管  
梁への配管は、ピッチを100mm以上とし、1m幅では3本を限度とする。又、壁付でない梁は、柱面より梁成の1.0倍以内で行わない。



スターラップ 原則としてスターラップ間は1本とする。

梁成の1.0倍以下で行わない(但し壁付梁は除く)

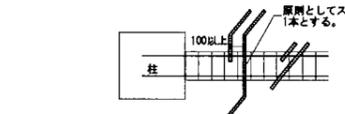
(a) 梁の幅方向の配管

イ) 配管は鉄筋の内側に通す。



ロ) 配管は、材軸とほぼ直角に貫通させる。

イ) 鉄筋の内側で行なう。

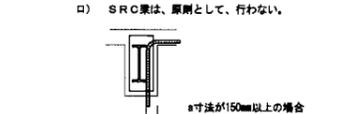


ロ) SRC梁は、原則として、行わない。

イ) 主筋の内側で行なう。



ロ) a寸法が150mm以上の場合は配管しても良い。



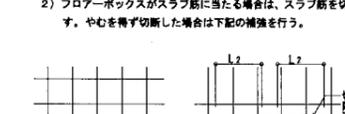
2. 10. 3 壁

適用なし

2. 10. 4 スラブ

(1) スラブリコンクリートボックスを埋込む場合

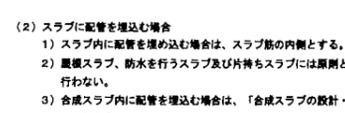
- 1) フローボックス間隔は300mm以上、且つ梁側面から500mm以上とする。
- 2) フローボックスがスラブ筋に当たる場合は、スラブ筋を切断せずにする。やむを得ず切断した場合は下記の補強を行う。



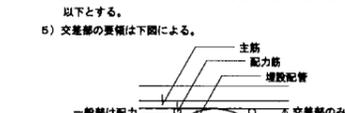
(注) スラブ筋の曲げ角度は30°以下とする。

(2) スラブリ配管を埋込む場合

- 1) スラブリ内に配管を埋込む場合は、スラブ筋の内側とする。
- 2) 縦横スラブ、防水を行うスラブ及び片持ちスラブには原則として配管は行わない。
- 3) 合成スラブリ内に配管を埋込む場合は、「合成スラブリの設計・施工マニュアル」による。
- 4) 配管が2本以上平行する場合は、あきを30mm以上とし1m幅に5本以下とする。
- 5) 交差部の要領は下記による。



一般部は配筋の内側で配管すること

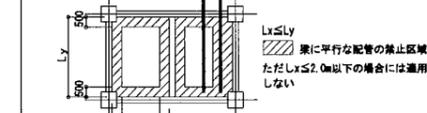


交差部のみ主筋の内側で配管すること



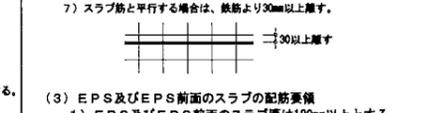
6) 埋め込み配管の外径は31 $\phi$ 以下とする。

7) 下記に示す梁面から500mm以内の範囲では、梁の材軸に平行な配管を行わない。



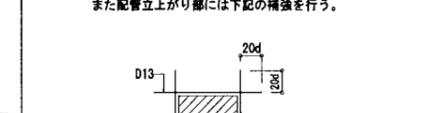
梁に平行な配管の禁止区域  
ただし $Lx \leq 2.0m$ 以下の場合には適用しない

7) スラブ筋と平行する場合は、鉄筋より30mm以上離す。

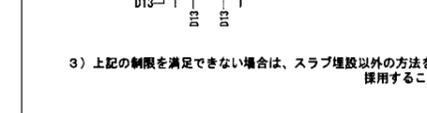


(3) EPS及びEPS前面のスラブの配筋要領

- 1) EPS及びEPS前面のスラブ厚は180mm以上とする。
- 2) EPSのスラブ(厚さ180mm以上)内での配筋集中場所(立上がり部を含む)での配筋相互のあきは30mm以上とする。また配筋立上がり部には下記の補強を行う。



3) 上記の制限を満足できない場合は、スラブ埋設以外の方法を採用すること。



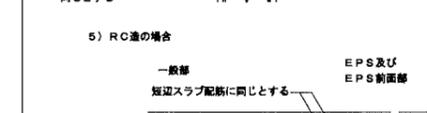
4) SRC造の場合



一般部 EPS及びEPS前面部  
短辺スラブ配筋に同じとする



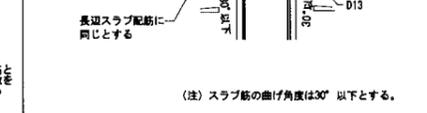
EPS前面部 EPS部  
埋設配管 配管受付L=30x30以上



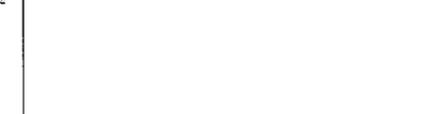
長辺スラブ配筋に同じとする



5) RC造の場合



一般部 EPS及びEPS前面部  
短辺スラブ配筋に同じとする



EPS前面部 EPS部  
埋設配管



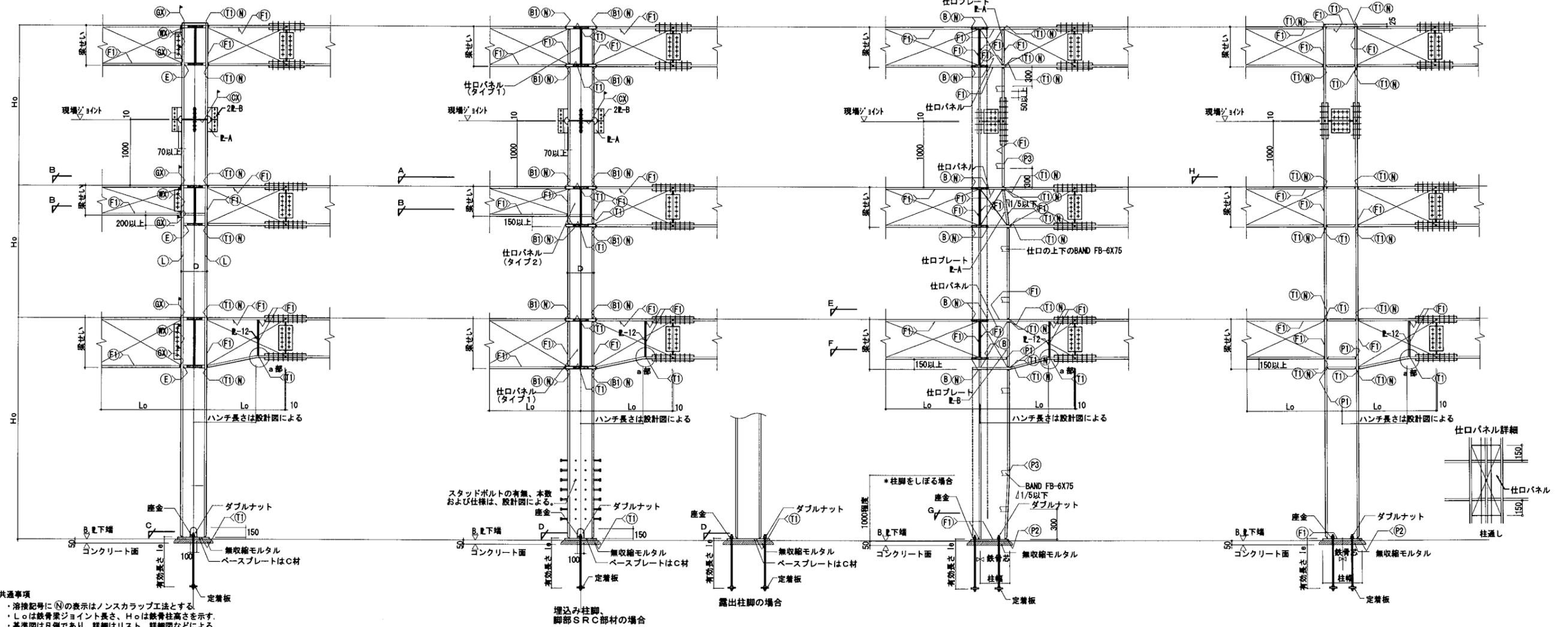
長辺スラブ配筋に同じとする

四面ボックス

角形鋼管・鋼管 (通しダイヤフラム形式)

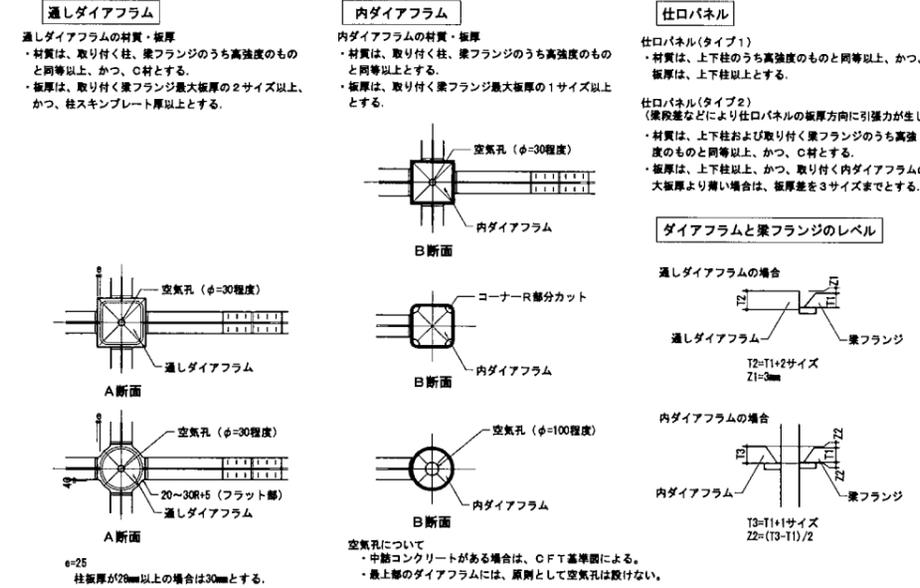
SRC造 (梁フランジ貫通形式) [T字形、十字形柱など]

SRC造 (柱フランジ貫通形式) [一方方向H形柱など]

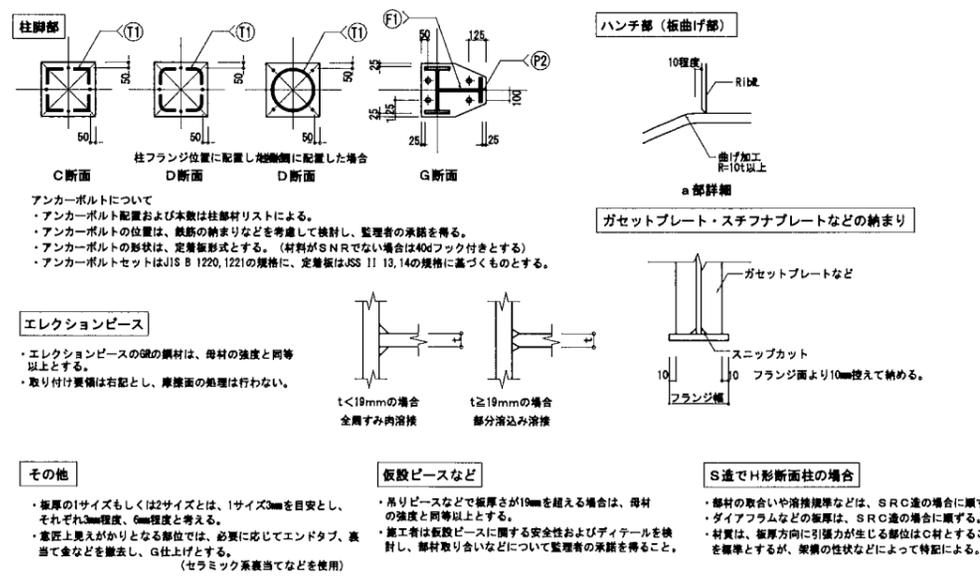


**共通事項**  
 ・溶接記号に(N)の表示はノンスラップ工法とする  
 ・L<sub>0</sub>は鉄骨梁ジョイント長さ、H<sub>0</sub>は鉄骨柱高さを示す。  
 ・基準図は凡例であり、詳細はリスト、詳細図などによる。

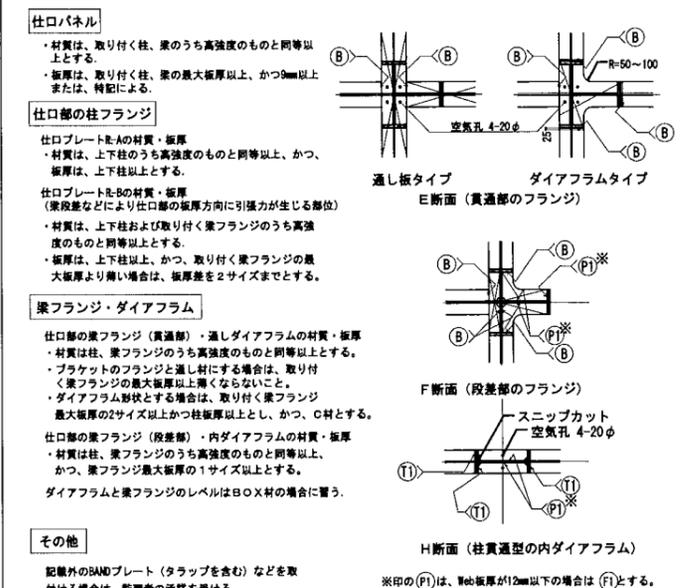
四面BOX、角型鋼管、鋼管部材



共通



SRC部材



MEMO

株式会社 翁長設計  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 一級建築士 266066 松田健治

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
 一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

日付 平成 28 年 月 日  
 図面内容 鉄骨標準図(1)  
 縮尺 A1:S1/ - (A3:1/ -)  
 図面番号 S-5

溶接開先基準図 (C02 : ガスシールドアーク半自動溶接、アーク手溶接 SAW : サブマージアーク自動溶接)

<p><b>完全溶込み溶接継手</b></p> <p>T1 C02</p> <p>45° 35° 4~6 断続 FB-9x25 (t≤6は0-6)</p> <p>45° ≤ θ &lt; 90° の場合 FB-9x25 (斜め加工)</p> <p>45° ≤ θ ≤ 55° は自然開先 55° &lt; θ &lt; 90° は α = 35°</p>	<p><b>完全溶込み溶接平継手</b></p> <p>B1 C02</p> <p>t1 ≤ 6 4~6 断続 FB-9x25</p> <p>t1 = t2 (t1 &gt; 6)</p>	<p><b>4面BOX材</b></p> <p>L1 SAW (突合せ溶接)</p> <p>t1 ≤ 28 40° FB-25x25</p> <p>t1 &gt; 28 35° FB-25x25</p>	<p><b>完全溶込み溶接(現場溶接)</b></p> <p>CX C02</p> <p>t1 &lt; 16の角形鋼管、鋼管の場合 35° FB-12x50 テーパーを設ける</p> <p>16 ≤ t1 &lt; 32の角形鋼管、鋼管の場合 35° FB-12x32 G仕上 シリング E-ド</p>	<p><b>部分溶込み溶接</b></p> <p>P1 C02</p> <p>t ≤ 16 45° FB-9x25</p> <p>t &gt; 16 45° FB-9x25</p> <p>D1 = (t1 - 2) / 2</p>	<p><b>隅肉溶接</b></p> <p>F1 C02 SAW</p> <p>t ≤ 16 35° FB-9x25</p> <p>t &gt; 16 35° FB-9x25</p> <p>t は t1, t2 いずれか 薄い板厚とする。</p>	<p><b>ノンスラップ工法のディテール</b></p> <p>① 同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合</p> <p>② 先組溶接組立てH形断面梁、外のり一定H形断面および圧延H形鋼梁の場合</p>	<p><b>裏当て金、エンドタブの組立溶接</b></p> <p>裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立溶接 通し形裏当て金 鋼製エンドタブとした場合：裏当て金に取付ける 裏当て金の組立溶接を施す部位： 隅肉溶接 S=4~6mm、パス、長さ=50mm以上とする</p> <p>柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立溶接 通し形裏当て金 鋼製エンドタブとした場合：裏当て金に取付ける 裏当て金の組立溶接を施す部位： 隅肉溶接 S=4~6mm、パス、長さ=50mm以上とする</p> <p>母材との組立溶接 (開先内) 裏当て金との組立溶接</p>	<p><b>溶接に関する注意事項</b></p> <p>冷間成形角形鋼管の角部においては、付属金物等の溶接などを禁止する。</p> <p>冷間成形角形鋼管 溶接不可域 R+t</p> <p><b>高力ボルトのマーク・配列</b></p> <table border="1"> <tr><th>ボルト</th><th>マーク</th></tr> <tr><td>M16</td><td>+</td></tr> <tr><td>M20</td><td>+</td></tr> <tr><td>M22</td><td>+</td></tr> <tr><td>M24</td><td>+</td></tr> </table> <p>注) ピッチ、ヘリあき、はしあきはSCSS-H97に準拠する。</p>	ボルト	マーク	M16	+	M20	+	M22	+	M24	+									
ボルト	マーク																										
M16	+																										
M20	+																										
M22	+																										
M24	+																										
<p>T2 C02</p> <p>t1 ≤ 19 45° FB-9x25</p> <p>裏はつり</p>	<p>t1 &lt; t2 (t1 &gt; 6)</p> <p>35° 4~6 断続 FB-9x25</p>	<p>L2 SAW (部分溶込み溶接)</p> <p>t1 ≤ 28 45° FB-9x25</p> <p>t1/2, t1/2</p>	<p>4面BOXおよび t1 ≥ 32の角形鋼管、鋼管の場合</p> <p>35° FB-12x32 G仕上 シリング E-ド</p> <p>D1 = 2/3 · t1 D2 = 1/3 · t1</p>	<p>P2 C02</p> <p>t1 ≤ 16 45° FB-9x25</p> <p>t1 は t1, t2 いずれか 薄い板厚とする。</p>	<p>F2 C02 SAW</p> <p>t ≤ 16 45° FB-9x25</p> <p>5t以上 かつ30mm以上</p> <p>t は t1, t2 いずれか 薄い板厚とする。</p>	<p>③ 裏当て金、エンドタブの組立溶接</p> <p>裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立溶接 通し形裏当て金 鋼製エンドタブとした場合：裏当て金に取付ける 裏当て金の組立溶接を施す部位： 隅肉溶接 S=4~6mm、パス、長さ=50mm以上とする</p> <p>柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立溶接 通し形裏当て金 鋼製エンドタブとした場合：裏当て金に取付ける 裏当て金の組立溶接を施す部位： 隅肉溶接 S=4~6mm、パス、長さ=50mm以上とする</p> <p>母材との組立溶接 (開先内) 裏当て金との組立溶接</p>	<p><b>合成デッキの一般部の納まり</b></p> <p>焼き付き栓溶接 隅肉溶接 L=50@300 端部小口ふさぎ</p> <p>頭付きスタッド打ち(デッキプレート貫通)</p> <p>重ね部隅肉溶接 L=50@300</p> <p><b>デッキプレート受け基準図(フラットタイプ、合成スラブタイプ共通)</b></p> <p>柱まわりおよび梁継手部のデッキプレート受け</p> <p>デッキプレート受け FB-6×50</p> <p>デッキプレート段差部受け材 L=50@300</p> <p>スラブ厚さ</p> <p>デッキプレート</p> <p>h ≤ 100の場合 h &gt; 100の場合</p> <p>スラブ厚さ × 1.5</p> <p>デッキプレート</p> <p>h ≤ 150の場合 h &gt; 150の場合</p> <p>a材 L-50X50X6 L-75X75X6 L-65X65X6 L-90X90X6 L-100X100X7</p> <p>b材 L-125X65X8 L-180X75X10.5 L-150X75X6.5X10 L-200X80X7.5X11 L-250X90X9X13</p>																				
<p>t1 &gt; 19</p> <p>45° FB-9x25</p> <p>裏はつり</p> <p>D1 = 2/3 (t1 - 2) D2 = 1/3 (t1 - 2)</p>	<p>B2 C02</p> <p>t1 ≤ 6 45° FB-9x25</p> <p>裏はつり</p>	<p>t1 &gt; 28</p> <p>60° FB-9x25</p> <p>角溶接要領</p>	<p>GX C02</p> <p>35° FB-9x25</p> <p>T型突合せ部</p> <p>柱フランジ バンドプレート</p> <p>*印は35° (但し35°以上は自然開先)</p> <p>tは補強プレートの板厚とする。</p>	<p>P3 C02</p> <p>35° FB-9x25</p> <p>補強プレート 充填溶接</p> <p>梁貫通鋼管</p> <p>tは補強プレートの板厚とする。</p>	<p>F3 C02</p> <p>45° FB-9x25</p> <p>フラエ溶接</p> <p>棒鋼の場合</p> <p>d/2, d/2</p>	<p><b>スラブ端部の納まり(フラットタイプ、合成スラブタイプ共通)</b></p> <p>梁上直交部端 コンクリート止め E=1.6にて加工 L=50@300</p> <p>梁上平行部端 コンクリート止め E=1.6にて加工 L=50@300</p> <p>はね出しスラブ端部 コンクリート止め E=3.2にて加工 L=50@300</p> <p>※コンクリート止めの材質は全てSS400とする。</p>	<p><b>スタッドボルト</b></p> <p>一般部 H=100</p> <p>床段差部</p> <p>φ16の場合：H=120 φ19の場合：H=130, 150</p> <p><b>鉄筋貫通孔</b></p> <p>柱鉄骨がぶり厚さ</p> <p>鉄筋の呼び名 孔径</p> <table border="1"> <tr><td>丸セバ</td><td>12φ</td></tr> <tr><td>D10</td><td>21φ</td></tr> <tr><td>D13</td><td>24φ</td></tr> <tr><td>D16</td><td>28φ</td></tr> <tr><td>D19</td><td>31φ</td></tr> <tr><td>D22</td><td>35φ</td></tr> <tr><td>D25</td><td>38φ</td></tr> <tr><td>D29</td><td>43φ</td></tr> <tr><td>D32</td><td>46φ</td></tr> </table> <p>注) 1. 梁鉄骨のかぶり厚さは150mm以上とする。 2. 小梁の主筋の内、上端筋はウェブを貫通させる。 3. 鉄筋貫通孔の位置については詳細図により確認する。</p>	丸セバ	12φ	D10	21φ	D13	24φ	D16	28φ	D19	31φ	D22	35φ	D25	38φ	D29	43φ	D32	46φ		
丸セバ	12φ																										
D10	21φ																										
D13	24φ																										
D16	28φ																										
D19	31φ																										
D22	35φ																										
D25	38φ																										
D29	43φ																										
D32	46φ																										
<p>t1 ≤ 19 (45° ≤ θ &lt; 90° の場合)</p> <p>45° FB-9x25</p> <p>裏はつり</p> <p>θ = 45° は自然開先、 45° &lt; θ &lt; 90° は α = 45°</p>	<p>6 &lt; t1 ≤ 19</p> <p>45° FB-9x25</p> <p>裏はつり</p>	<p>E エレクトロslag溶接 (GES)</p> <p>45° FB-12x50</p> <p>ダイアフラムの溶接 (非消耗式)</p> <p>t1 ≤ 28 t2 = 25 t1 &gt; 28 t2 = 32 A, B ≥ 0 かつ A+B ≥ 6</p>	<p>平突合せ部 t1 = t2 (t1 &gt; 6)</p> <p>35° FB-9x25</p> <p>CFT柱の場合は全線突合せ溶接(L1)とする。</p>	<p>P4 C02</p> <p>45° FB-6x50</p> <p>デッキ受け</p>	<p>WX C02</p> <p>HTB (鉄ボルト) GPL</p> <p>大梁WEBの現場溶接</p> <p>軽量鋼管の場合</p> <p>S ≥ t (但し、S ≥ 3)</p>	<p><b>エレクションピース詳細図(見積り用)</b></p> <p>E-Aは厚さ9mmとし、t1 ≤ 16以下の場合は省略してよい。</p> <table border="1"> <tr><th>t1 &lt; 25</th><th>t1/2以上</th><th>A/2以上</th><th>ボルト</th></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2-M20</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3-M20</td></tr> </table> <p>※は30以上 ピッチ p=60</p>	t1 < 25	t1/2以上	A/2以上	ボルト	2	2	2	2-M20	3	3	3	3-M20	<p><b>MEMO</b></p> <p>1 適用範囲 1) この基準図は、ガスシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロslag溶接を行う場合に適用する。 2) 適用板厚は、原則として6mm以上かつ40mm以下とする。 3) 適用鋼材は、SS、SM、SH材の400および490級とする。 4) この基準図に記載のない事項については、以下による。 ・日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事」 ・日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工場製作編」 ・日本建築学会「鉄骨工事技術指針・現場施工編」</p> <p>2 エンドタブ、裏当て金 1) エンドタブは、フラックスタブの使用を標準とする。 2) 鋼製エンドタブは、部材と同材質で溶接部の開先形状と同じ開先を付けたものとする。</p> <p>3 鋼製エンドタブの長さは、半自動溶接では40mm以上かつ板厚の2倍以上とする。サブマージアーク自動溶接では、板厚の3倍以上、長さ150mm程度とする。 4) 鋼製エンドタブを使用した場合、母材に影響を与えないように5mm程度溶接してガス切断し、切断面をグラインダーで仕上げ、ただし、切断に支障が生じる部位などについては、監理者との協議による。 5) 鋼製エンドタブ、裏当て金は、原則として母材と同材質とする。</p> <p>3 スクラップ 1) 溶接部等に⑧の表示はノンスラップ工法とする。 2) 1)以外で溶接線の交差する箇所には、R=35mmの改良スクラップを設ける(右図)。 3) ロール材もしくは先組りH梁を原則とし、スクラップ端部に溶接を施す場合は監理者の協議を要すること。</p> <p>突合せ溶接の余盛の高さ 完全溶込み溶接継手の補強隅肉溶接のサイズ</p> <table border="1"> <tr><th>ピード幅</th><th>余盛高さC</th></tr> <tr><td>B &lt; 15</td><td>0.5 ≤ C ≤ 3</td></tr> <tr><td>15 ≤ B &lt; 25</td><td>0.5 ≤ C ≤ 4</td></tr> <tr><td>25 ≤ B</td><td>0.5 ≤ C ≤ 4/2B</td></tr> </table> <p>t ≤ 40のとき S1 = t/4 t &gt; 40のとき S1 = 10</p>	ピード幅	余盛高さC	B < 15	0.5 ≤ C ≤ 3	15 ≤ B < 25	0.5 ≤ C ≤ 4	25 ≤ B	0.5 ≤ C ≤ 4/2B
t1 < 25	t1/2以上	A/2以上	ボルト																								
2	2	2	2-M20																								
3	3	3	3-M20																								
ピード幅	余盛高さC																										
B < 15	0.5 ≤ C ≤ 3																										
15 ≤ B < 25	0.5 ≤ C ≤ 4																										
25 ≤ B	0.5 ≤ C ≤ 4/2B																										

# ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法 Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法 エコタイプは、S造に適用)

2016/4

大臣認定  
BCJ評価

本工法の設計・施工は、鋼構造設計準則、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

## 設計

### 1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板  
エコタイプ (E型、EM型、EH型)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
JIS G3101	JIS G3106	JIS B1181 (六角ナット)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
JIS G3101	JIS G3106	JIS B1181 (六角ナット)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0404、0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)  
※3 M72は鋼目なし

### (2) ベースプレート下面のモルタル

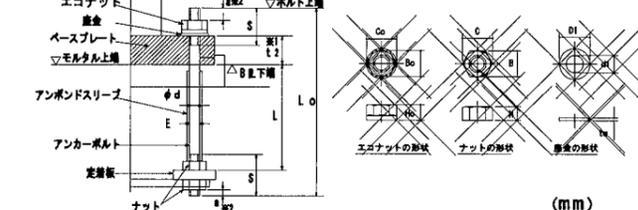
ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3  
無収縮性モルタルパッド用 (固練り) 又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。専用のモルタルを使用のこと。)  
強度はこれに接するコンクリートの強度以上

### (3) 基礎・基礎ばり

コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート  
設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

### 2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品

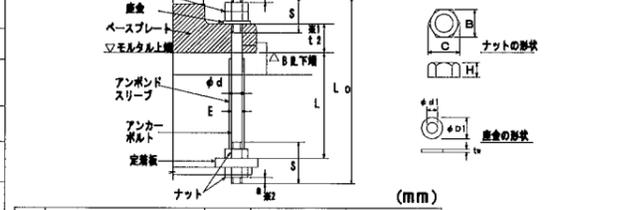


ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金		厚	内径	外径		
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ						
M24	24	305	10	480	645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	355	13	600	800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	405	16	720	920	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	455	18	840	1040	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1  $t_e$  はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって異なります。  
※2  $a$  寸法は設置精度を考慮した設計時の最小寸法です。  
※3 上段はE型及びEH型のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの寸法です。

注意 エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておきますので、ゆるみ止め装置としてコンクリートスラブで設置してください。  
コンクリートによる保護を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め装置が必要です。その場合、せん断耐力が異なる可能性がありますのでセクシアにご相談ください。  
アンカーボルト上には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

### Gタイプ用アンカーボルト部品



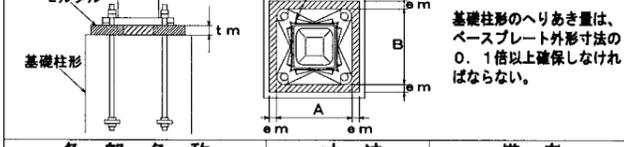
ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金		厚	内径	外径				
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ								
M24	24	305	10	480	645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	355	13	600	800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	405	16	720	920	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	455	18	840	1040	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

注意 Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも通用可能です。一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め装置が必要です。(一重ナットとする場合は、セクシアにご相談ください。)

### ベースプレートのアンカーボルト径

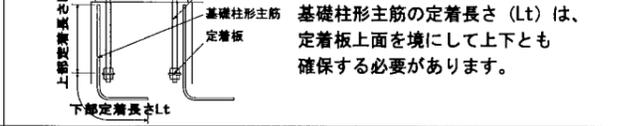
ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用		12本タイプ用	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	16	70	27	110	33	140
M30	16	90	33	140	41	180
M36	19	100	39	150	47	210
M42	22	120	45	180	55	240
M48	25	140	52	210	62	270
M56	28	160	60	240	70	300
M64	32	180	68	270	80	330
M72	36	210	78	310	90	370

### 3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

### 4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

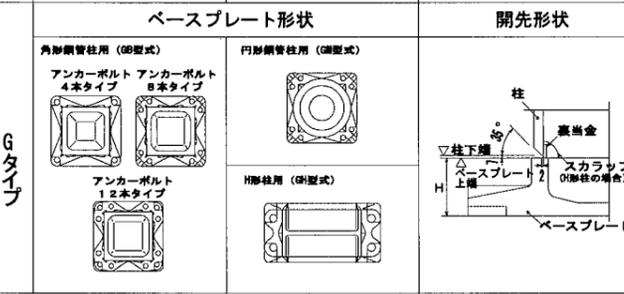
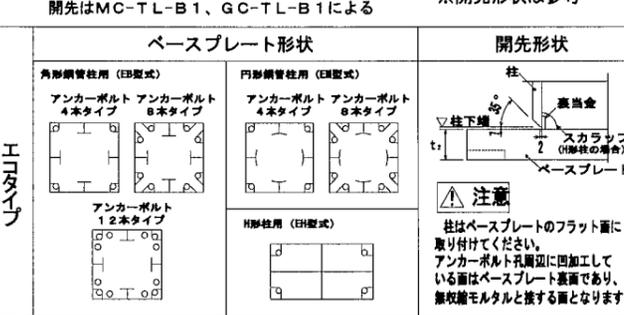
## 工場加工

### 1. 溶接材料

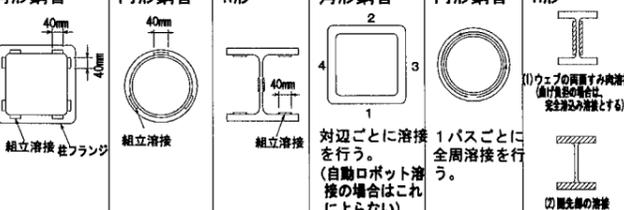
被覆アーク溶接 低水素系490N/m<sup>2</sup> 級高強度鋼用 (JIS Z3212 D5016相当以上)  
ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/m<sup>2</sup> 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312 YG11相当)

### 2. ベースプレートの鉄骨柱への取付 (柱端部に開先を設ける)

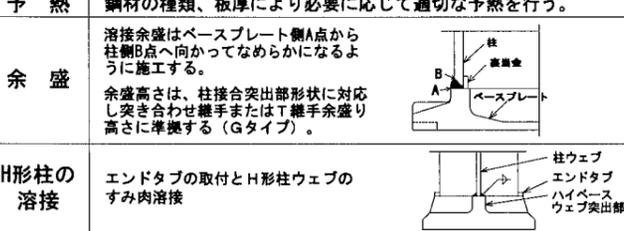
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接 ※開先形状は参考  
開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による



### 3. 組立溶接



### 4. 本溶接の手順



### 5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。  
余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。  
余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。  
H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

### 6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。  
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再接着する。  
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再接着する。

## 現場施工

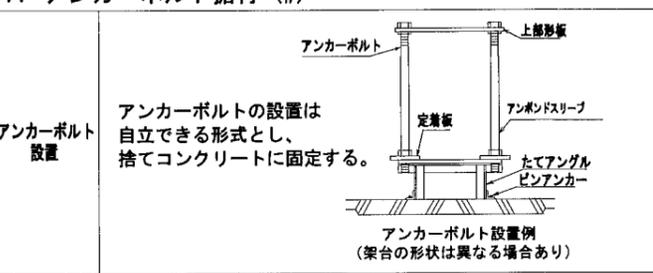
(#): セクシアの担当範囲

### 1. 捨てコンクリート打設

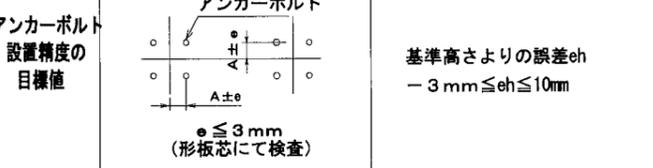
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

### 2. 墨出し

### 3. アンカーボルト搬入 (#)

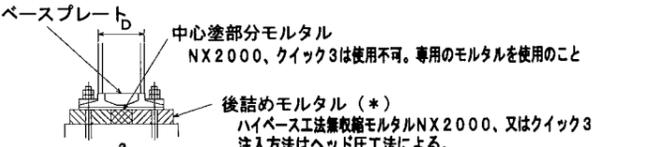


### 4. アンカーボルト据付 (#)

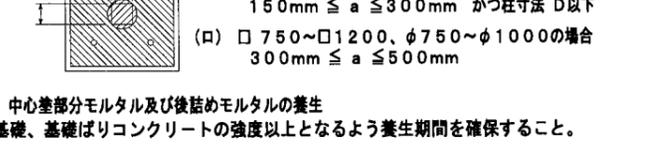


### 5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

### 6. 基礎コンクリート打設



### 7. 中心塗り部分モルタル施工



### 8. 鉄骨建方

### 9. モルタル注入枠設置 (#)

### 10. アンカーボルト締付 (#)

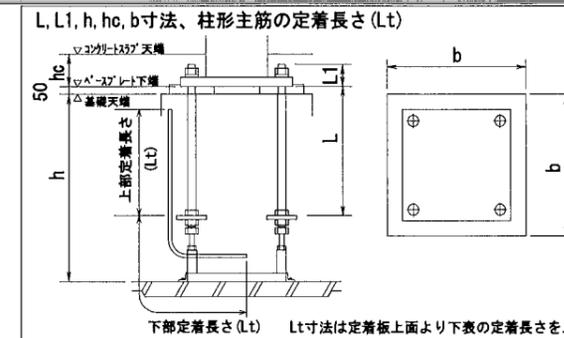
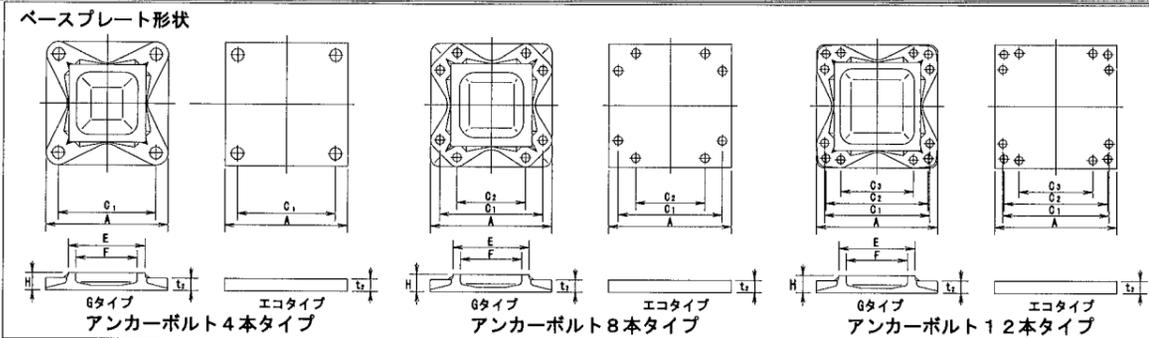
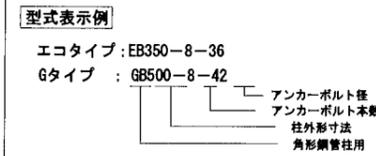
準備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差 ±10°)  
11. モルタル注入枠取り外し  
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

セクシア株式会社  
本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341  
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 関西 TEL 06-6395-2133  
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中国国 TEL 082-240-1630  
URL <https://www.senqia.co.jp/>

注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、セクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの認定で義務付けられています。)  
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。  
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。  
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。  
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定  
 (角形鋼管柱用 □150~□550) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用) BCIJ評定

2016/4



エコタイプはシングルナット仕様 (コンクリートスラブに埋込)  
 Gタイプはダブルナット仕様 (露出が標準)  
 注) 表中のh寸法は杭がない場合です。  
 杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。  
 Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(G寸法)は  
 "L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□150~□550)

採用	適用柱	ハイベースNEO型式		7ノット	回転バネ 定数 kg/cm	寸法 (mm)											質量 (kg)				基礎柱形設計例 (Fc21) < 例・隅柱用 >										基礎柱形設計例 (Fc21) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付けられる場合のみを示す。)>												
		エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t <sub>2</sub>	t <sub>1</sub>	t <sub>2</sub>	t <sub>1</sub>	L (mm)	L1 (mm)	h (mm)	hc (mm)	Iゾーン		IIゾーン		Iゾーン		IIゾーン		L <sub>t</sub> (mm)	Iゾーン		IIゾーン		L <sub>t</sub> (mm)									
																					柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量		帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋										
C1, C2 12X5線-60	□150	4.5~12	EB150-4-24	Gタイプ	4-M24	14.0	290	210	-	-	-	-	-	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13#150	500	16-D16	D13#150	210	500	8-D16	D13#150	500	16-D16	D13#150	210	500	8-D16	D13#150	500	16-D16	D13#150	210	500
	□175	4.5~12	EB175-4-24	Gタイプ	4-M24	17.9	310	230	-	-	-	-	-	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13#150	520	16-D16	D13#150	210	520	8-D16	D13#150	520	16-D16	D13#150	210	520	8-D16	D13#150	520	16-D16	D13#150	210	520

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご利用ください。  
 注 1) I, IIゾーンの鉄筋についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力曲線を参照下さい。  
 注 2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(隅・隅柱用)を御用下さい。  
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎梁が取り付けられない場合 (基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。  
 注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋を□450以下はD10#250、□500以上はD13#250として算定しています。  
 あはら筋断面がこれよりも小さくなる場合は、(隅・隅柱用)の鉄筋量として下さい。  
 注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 URL <https://www.senqcia.co.jp/>

本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133  
 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 中四国 TEL 082-240-1630  
 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

MEMO

株式会社 翁長設計 一級建築士事務所 事務所登録 162-192 管理建築士 設計

代表取締役 翁長武範 一級建築士 266066 松田健治

浦添事務所 3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

日付 平成 28 年 月 日

図面内容 ハイベースNEO設計施工標準図-2

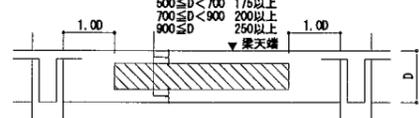
縮尺 A1:S1/- (A3:1/-)

S-8

# 梁貫通孔の補強基準

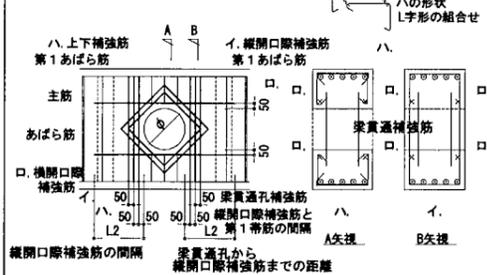
## RC梁

### 貫通孔の径、配置



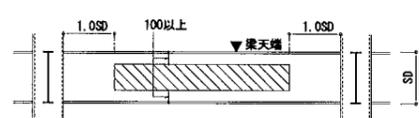
- 貫通孔は上記のハの形状内に設けること。
- 貫通孔の径はD/3以下とする。
- 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φ以上とする。
- 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
- 基礎梁の場合は、端部1.0mを1.0mと換替える。
- 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。

### 補強方法



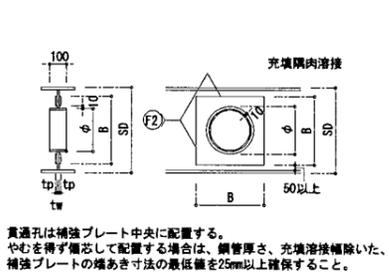
## S梁

### 貫通孔の径、配置



- 貫通孔は上記のハの形状内に設けること。
- 貫通孔の径はSD/2以下とする。
- 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φと梁せいの内、小さい距離以上とする。ただし、補強プレートが連続してしまう場合は外縁間50mm(貫通孔間隔2φ+50mm)以上とする。
- 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
- 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。

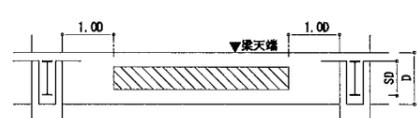
### 補強方法



貫通孔は補強プレート中央に配置する。  
やむを得ず偏芯して配置する場合は、鋼管厚さ、充填溶接幅除いた、補強プレートの端あき寸法の最低値を25mm以上確保すること。

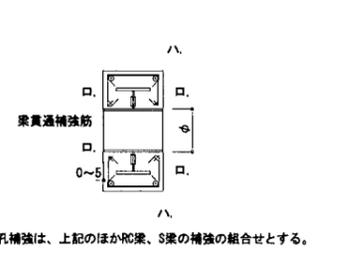
## SRC梁

### 貫通孔の径、配置



- 貫通孔は上記のハの形状内に設けること。
- 貫通孔の径はD/3以下、かつ、SD/2以下とする。
- 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φ以上とする。
- 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
- 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。

### 補強方法



SRC梁の貫通孔補強は、上記のほかRC梁、S梁の補強の組合せとする。

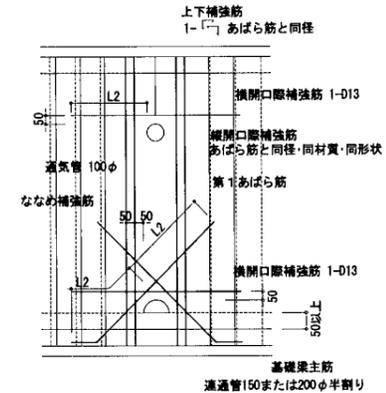
## RC梁の補強

- 有孔梁のせん断耐力が有孔梁のせん断耐力と同等以上となるような補強筋量とする。(部材の降伏応力による場合は特記による)
- 梁貫通孔補強筋は、下表に示すリング型補強筋とする。
- リング型補強筋以外に図示の開口部補強筋、上下補強筋を追加する。ただし、製品の仕様および計算により同様の鉄筋が配置される場合は、表と仕様の内、多い方の鉄筋量とする。
- すべての補強筋が、貫通孔も含めてかぶり厚さを確保できるようにする。
- 貫通孔の径の制限、配置の制限は、各製品の仕様に関らず上図とする。
- 本基準に定める事項のほか各製品の技術評価等に定める規定および各製品の仕様を満足させる。
- 貫通孔の径がD/10以下かつ150未満の場合で、スターラップの配置を要せずに貫通孔を配置できる場合は補強を省略してよい。
- 基礎梁の連通管については、図示の補強とする。
- 梁貫通孔補強の計算に際しては、耐力条件、開口部補強筋の形状に留意すること。
- 採用する梁貫通孔補強の計算は、監理者の承認を受けること。

貫通孔径	イ、開口部補強筋(開口片側の枚数)	ロ、開口部補強筋(1ヶ所の本数)	ハ、上下補強筋(L字型のセット数)
100φ	1-□	1-D13	—
150φ	1-□	1-D13	1-□
200φ	1-□	1-D13	1-□
250φ	2-□	1-D13	1-□
300φ	2-□	1-D13	2-□
350φ	2-□	1-D13	2-□
400φ	3-□	1-D13	2-□
450φ	3-□	1-D13	3-□
500φ	3-□	1-D13	3-□
600φ	3-□	1-D13	3-□

- 注) 1. 開口部補強筋はスターラップと同径、同材質とし、枚数並ぶ場合は50mm以上の間隔で配置する。  
1-□は、開口の左右に1組ずつを配置することを示す。  
2. 開口部補強筋の材質はSD295Aとする。  
1-D13は、開口の上下、両面に1本ずつ、計4本を配置することを示す。  
3. 上下補強筋はスターラップと同径、材質はSD295Aとする。  
1-□は、開口の上下に1セットずつを配置することを示す。

### 連通管の貫通孔補強



- ななめ補強筋  
D-13 2本1組 x 2組 (基礎梁の両側面配置)
- 基礎梁主筋との間隔が確保できない場合監理者と協議のこと。
- 底盤がなく、捨コン、土間コンなどでピットを形成している場合、上図のような連通管は配置できないので、ピット底レベルを上げるか、同程度の貫通形状を梁断面の下に確保するよう調整すること。

## S梁の補強

- 補強材の材質 プレート：母材と同質 スリーブ：STK400
- 表中※印の補強方法は、特記による。
- 100φ以下の貫通孔は、100φ補強とする。
- 鉄骨造梁に既製梁貫通補強を適用する場合には、(財)日本建築センターの評定を受けた製品とし、補強サイズ等の計算には、せん断耐力1.20以上を確保すること。
- 採用する梁貫通孔補強の計算は、監理者の承認を受けること。

- 注) 既製品を使用する場合は、以下とする。  
適用：ハイリングII、フリードナツ、OSリング  
貫通孔の径、配置、間隔などは、認定の仕様に関らず、本基準に準じること。

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

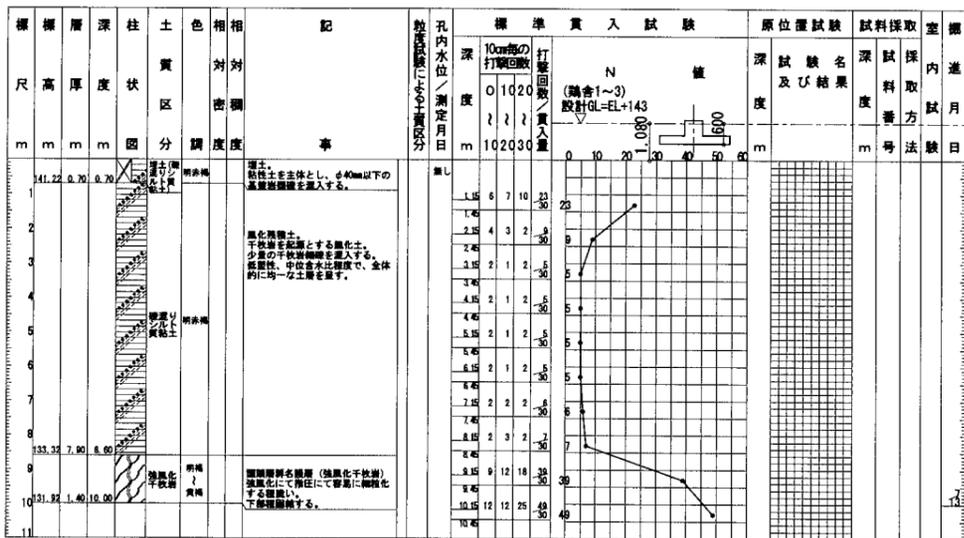
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
				農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			
				工事場所		A1:S=1/- (A3:1/-)	

調査名 平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

事業・工事名

ボーリングNo. シートNo. 1

ボーリング名	B-1	調査位置	沖縄県名護市宇瀬河	北緯	
発注機関		調査期間	平成29年 7月13日～平成29年 7月13日	東経	
調査業者名	株式会社 アステックプランニング 電話 0980-53-0840	管理技術者		相定者	長間 勝也
技師		技師		技師	
ボーリング責任者	大城 朝進	試験機	カノウ油圧ボーリング (GR-SI)	ハンマー	落下用具
エンジン	YAMMAR-NFAD8	ポンプ	可変吐出形ポンプ		

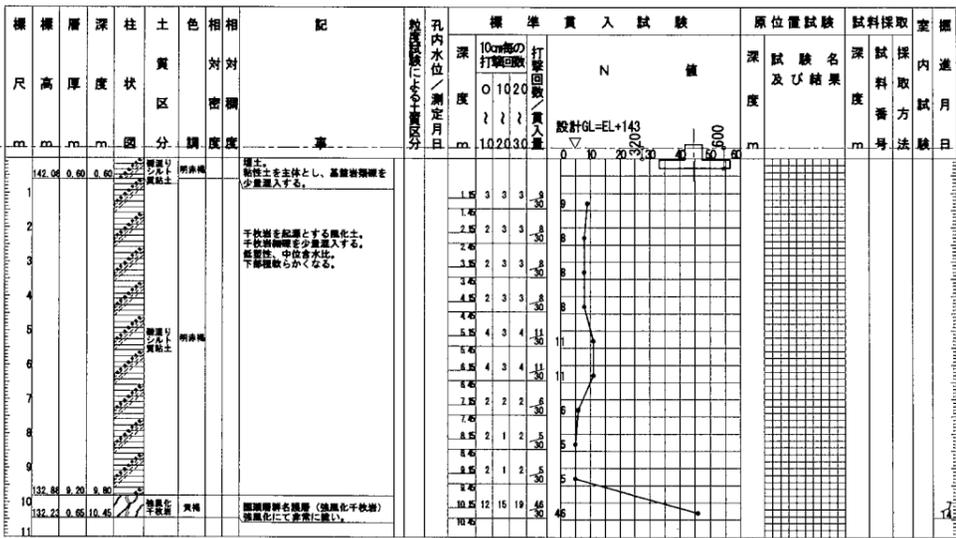


調査名 平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

事業・工事名

ボーリングNo. シートNo. 2

ボーリング名	B-2	調査位置	沖縄県名護市宇瀬河	北緯	
発注機関		調査期間	平成29年 7月14日～平成29年 7月14日	東経	
調査業者名	株式会社 アステックプランニング 電話 0980-53-0840	管理技術者		相定者	長間 勝也
技師		技師		技師	
ボーリング責任者	大城 朝進	試験機	カノウ油圧ボーリング (GR-SI)	ハンマー	落下用具
エンジン	YAMMAR-NFAD8	ポンプ	可変吐出形ポンプ		

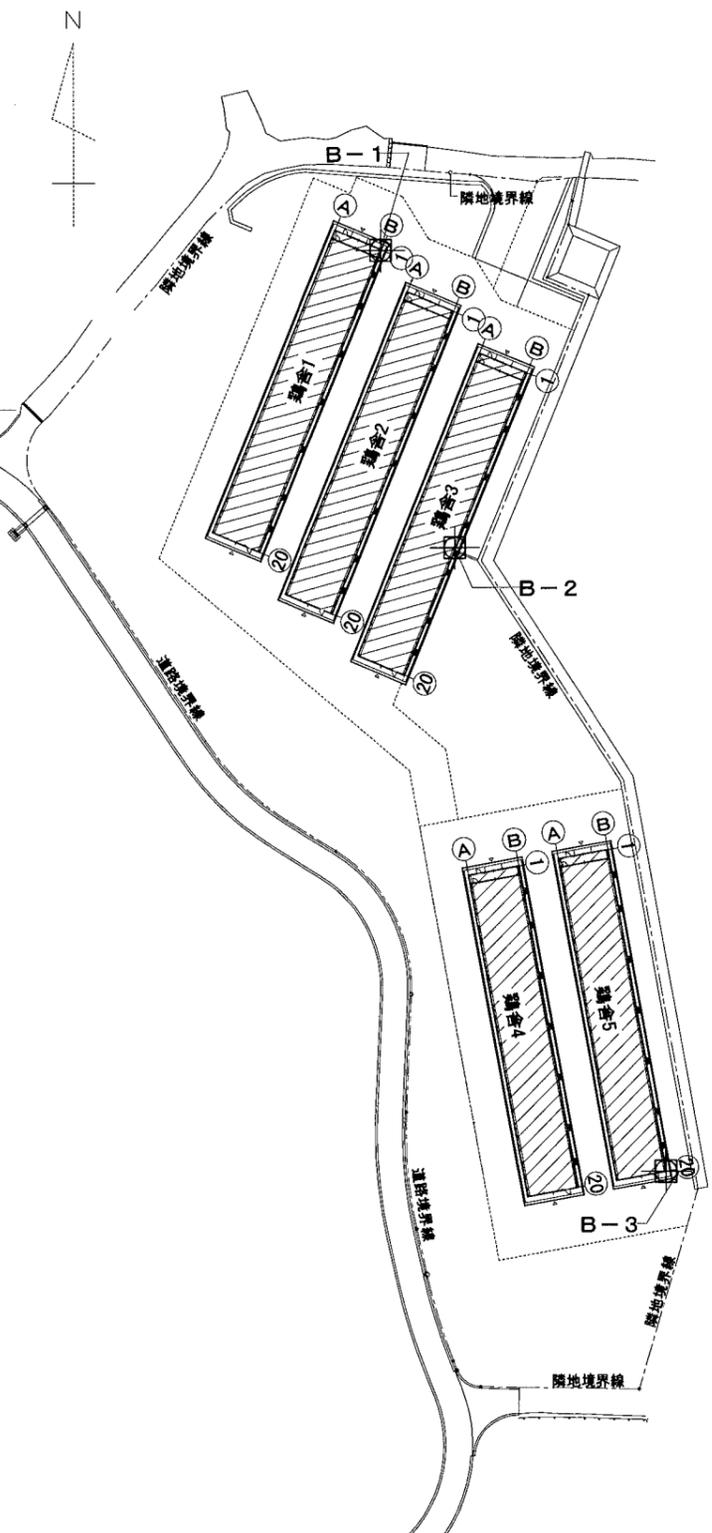
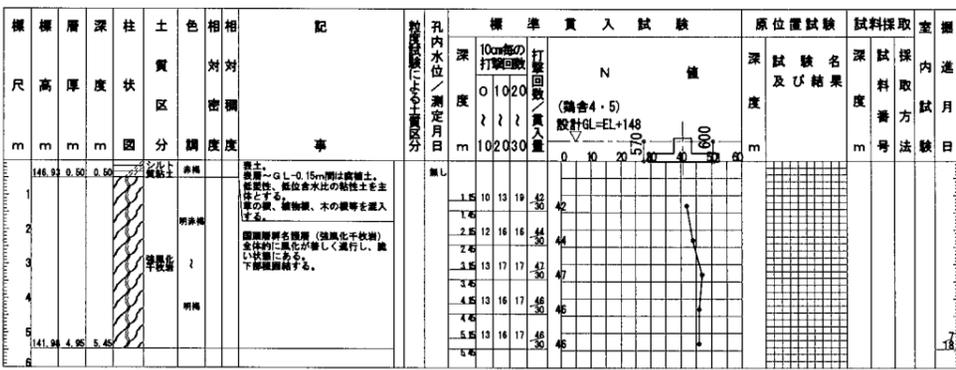


調査名 平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

事業・工事名

ボーリングNo. シートNo. 3

ボーリング名	B-3	調査位置	沖縄県名護市宇瀬河地内	北緯	
発注機関		調査期間	平成29年 7月16日～平成29年 7月17日	東経	
調査業者名	株式会社 アステックプランニング 電話 0980-53-0840	管理技術者		相定者	長間 勝也
技師		技師		技師	
ボーリング責任者	大城 朝進	試験機	カノウ油圧ボーリング (GR-SI)	ハンマー	落下用具
エンジン	YAMMAR-NFAD8	ポンプ	可変吐出形ポンプ		

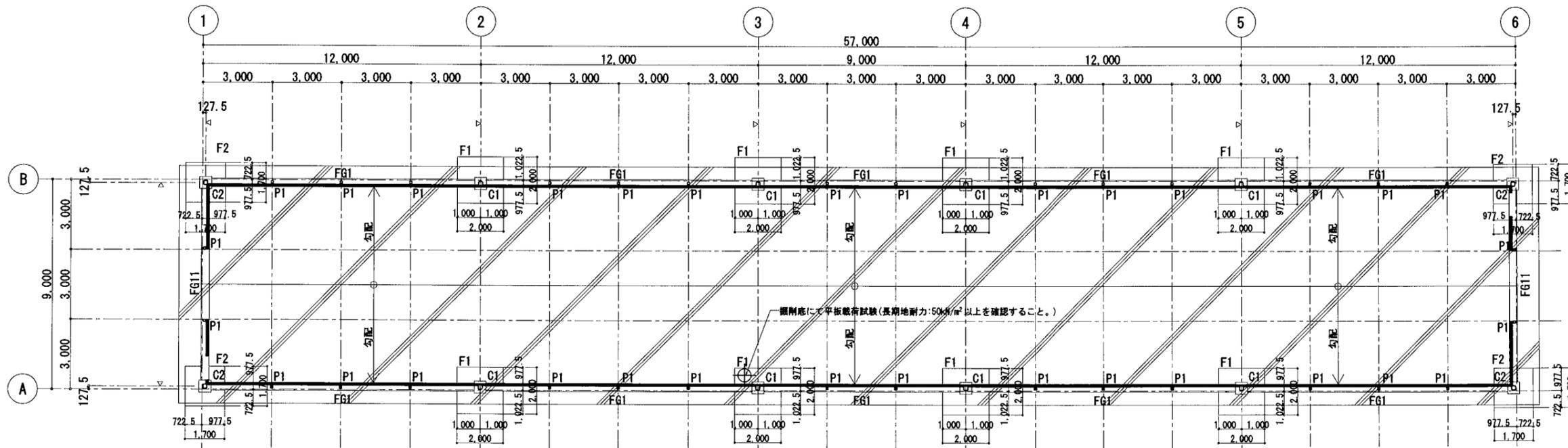


ボーリング位置図 A1:S=1/1500 A3:S=1/3000

は、申請建物を示す。

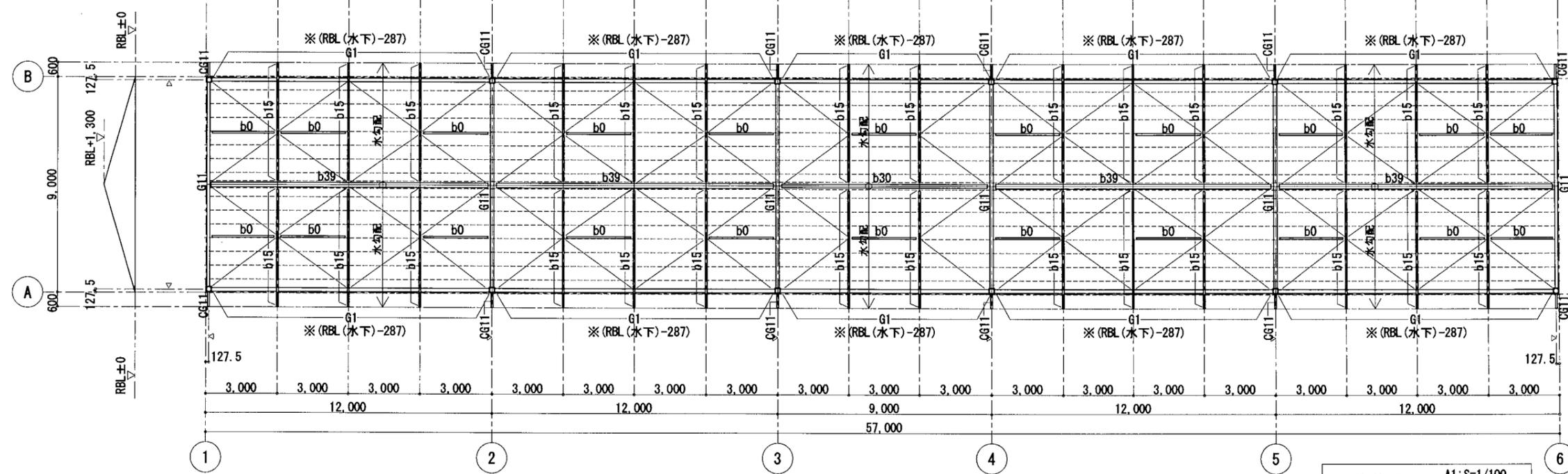
イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録第1-60659号) 一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所	日付	図面内容	図面番号
					平成 28 年 月 日	ボーリング位置図、土質柱状図	S-10
					A1:S=1/1500 (A3:1/3000)		



基礎伏図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. は、土間コンクリート(t=90)を示す。
  2. は、RC立上り壁(t=120)を示す。
  3.  $\nabla$ は、柱芯を示す。
  4. 柱芯=基礎梁芯
  5. 基礎梁天端レベル=1FL-200
  6. ベースプレート下端レベル=1FL-150
  7. 基礎下端レベル=設計GL-600
  8. 基礎梁天端から土間コンクリートまでを増打ちとする。

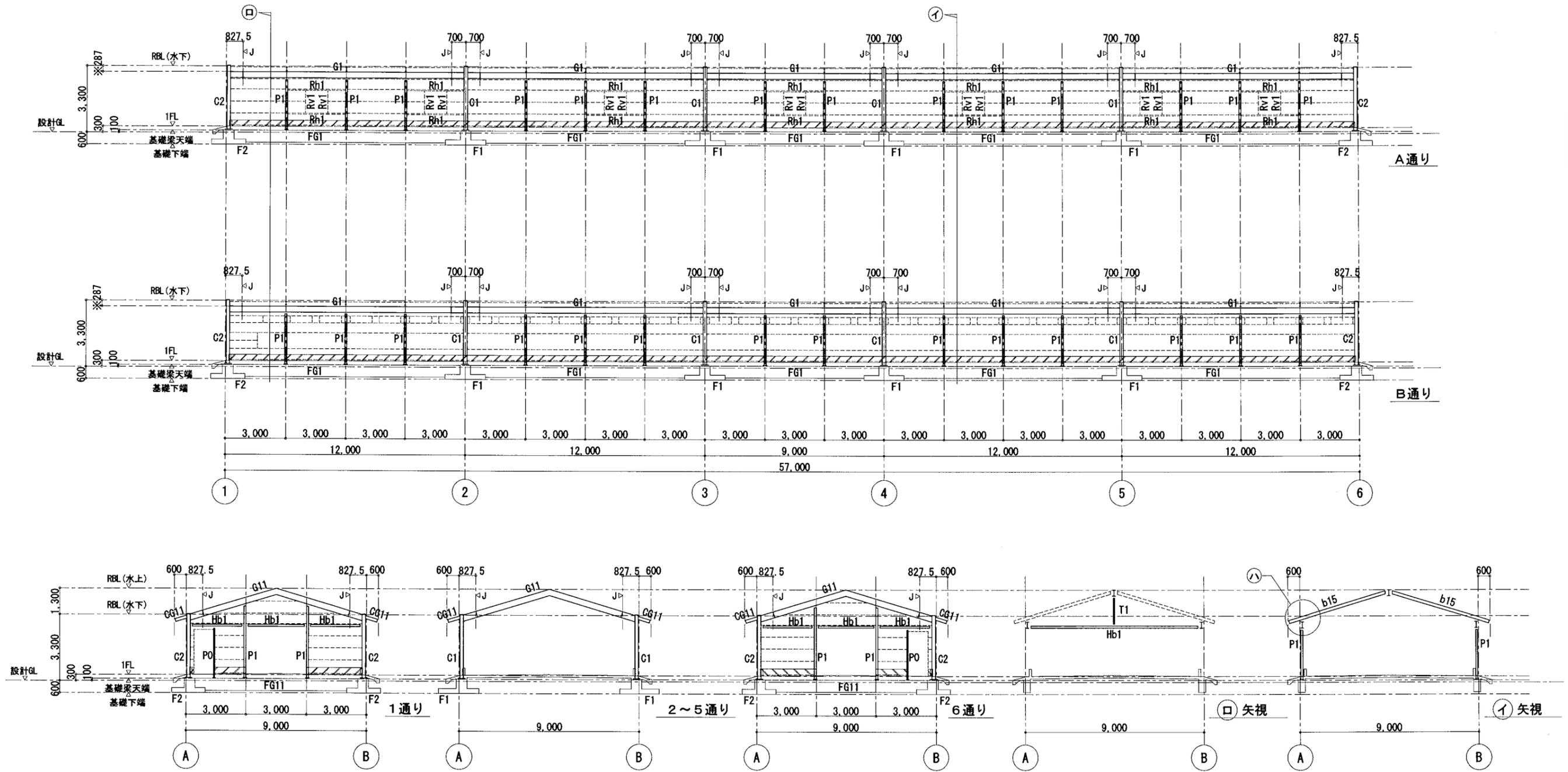


R階伏図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. 水平ブレースは、BR1とする。
  2. ※印は、製作図により確認すること。
  3. RBL=1FL+3,000

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 28 年	図面内容 伏図	図面番号 S-11
		一級建築士 266066 松田健治			工事場所	月 縮尺	A1:S=1/100 (A3:1/200)	



軸組図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. は、RC立上り壁(t=120)を示す。
  2. ※は、製作図により確認のこと。
  3. < は、梁JOINT位置を示す。
  4. 網線は、杉:60x120(無等級)、横使い
  5. ^-スプレト下端は、C1・C2=IFL-150、P1=IFL-170
  6. △ は、鉄骨詳細図参照。

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

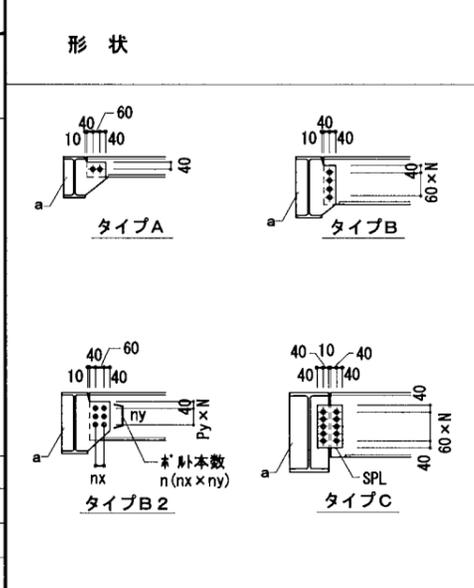
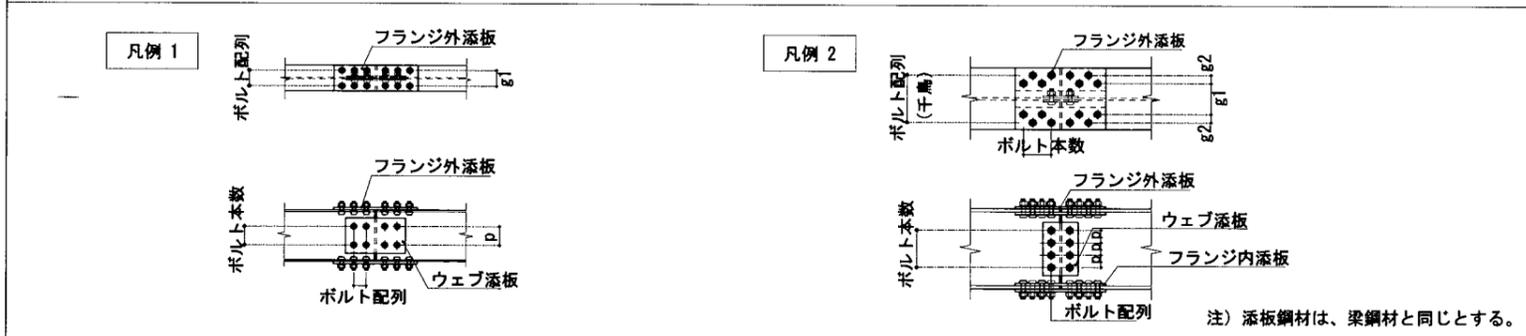
MEMO	株式会社 翁長設計	一級建築士事務所 事務所登録 162 - 192	管理建築士	設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
	代表取締役 翁長武範	一級建築士 266066 松田健治			農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	平成 28 年	軸組図	S-12
	浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429				工事場所	月 縮尺	A1:S=1/100 (A3:1/200)	

柱・柱脚リスト		特記なき限り A1:S=1/30 A3:S=1/60 1) 鋼材: BCR295 2) 柱脚は、アンカーボルトの頭に40mm以上のコンクリートが被覆されるよう、RC柱形上部を増打ちのこと。	
符号	C1	C2	P1
断面	□-175X175X9	□-175X175X6	□-100X100X3.2 (STKR400)
ベースプレート	ハイ-スNEO工法(センク7)	ハイ-スNEO工法(センク7)	BASEPL-12X300X150
アンカーボルト	EB175-4-24	EB175-4-24	A. BOLT: 2-M12, L=300 (SS400) ダブルナット締め、フック付き
無収縮モルタル	ア50	ア50	ア30
RC柱形			
主筋	8-D16	8-D16	-
HOOP	□-D13@150	□-D13@150	-

小梁断面リスト		特記なき限り、1) 材種: SS400, STKR400, SSC400 2) HTBは、S10T		3) リブプレートは、ガセットプレートと同厚・同材質とする。		
符号	H形鋼サイズ	タイプ	ガセットプレート	HTB(本数)	添板	備考
b0	L-75X75X6	A	PL-6	2-M16		
b15	H-150X75X5X7	A	PL-6	2-M16		軒部は、溶融亜鉛メッキ
b30	H-300X150X6.5X9	B	PL-12	3-M20		
b39	H-396X199X7X11	B	PL-12	4-M20		
Hb1	□-100X100X2.3	-	2PL-2.3	中継 M2-M12		
T1	C-100X50X20X2.3	-	PL-2.3	中継 M2-M12		
母屋	底部	□-100X50X2.3 @600	-	2PL-2.3	中継 M2-M12	溶融亜鉛メッキ
	屋根部	杉: 60X120 (無等級)	-	PL-2.3 ( [ 形曲げ加工 ] )	2Xコ-スレッド φ3.8 (L=51, SUS)	端部プレート分ブレーナ削り
開口補強	Rh1	杉: 120X120 (無等級)	PL-2.3 ( [ 形曲げ加工 ] )	2Xコ-スレッド φ3.8 (L=51, SUS)		横使い、端部プレート分ブレーナ削り
	Rv1	杉: 120X120 (無等級)	PL-2.3 ( [ 形曲げ加工 ] )	2Xコ-スレッド φ3.8 (L=51, SUS)		横使い、端部プレート分ブレーナ削り
	横胴縁	杉: 60X120 (無等級)	PL-2.3 ( [ 形曲げ加工 ] )	2Xコ-スレッド φ3.8 (L=51, SUS)		横使い、端部プレート分ブレーナ削り

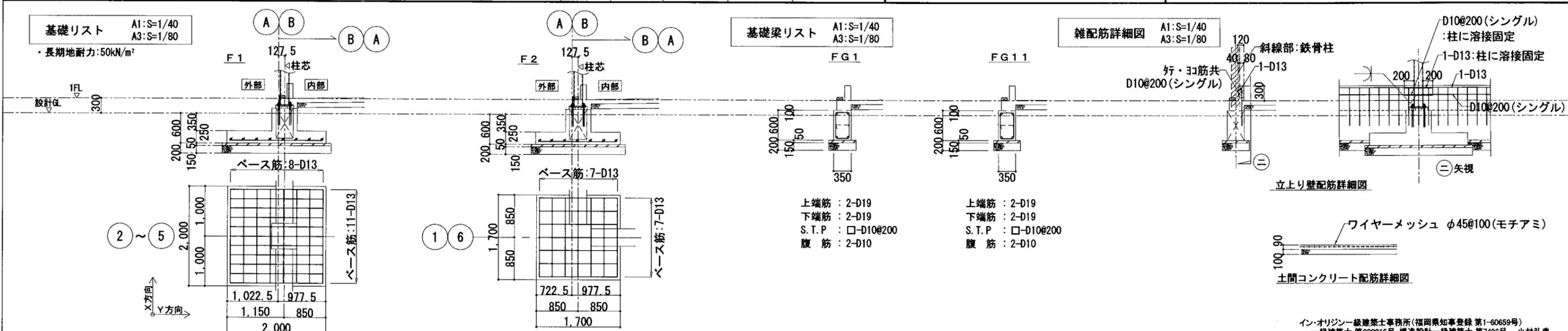
大梁・片持ち梁断面リスト		特記なき限り、1) 鋼材は、SS400 2) HTBは、S10T	
符号	G1	G11	CG11
R階	H-300X150X6.5X9	H-300X150X6.5X9	H-150X75X5X7
備考			溶融亜鉛メッキ

継手リスト 特記なき限り、1) 鋼材は、SS400  
2) HTBは、F10T  
3) 継手の端部と中央に材厚差が1.0mm以上の時は、フィラーPLを入れる事。「SCSS-H97鉄骨構造標準接合部H形鋼編」準拠



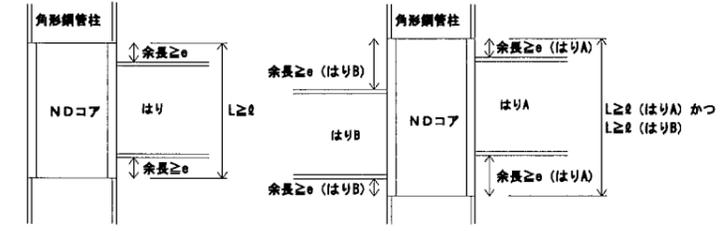
JISターンバックル筋かい 特記なき限り、1) 材種: SS400 2) HTBは、S10T							
符号	部材	引張耐力 (kN)	GPL-txb min	HTB	必要溶接長 (L)		
					TYPE① L	TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
BR1	M16	38	9×70	1-M16	80	56	72

共通事項  
e=40 t=ガセットプレート厚さ  
p=60 b=必要幅  
丸鋼  
Aタイプ M12~M22 Bタイプ M24~M33  
① 断面  
タイプ① ② ③  
L ≥ Le L ≥ Le/2+2S L1, L2 ≥ Le/4+2S



1. 表の見方

使用する柱(横軸)、はり(縦軸)を選択し、NDコアの必要最小長さ $l$ と余長の必要最小寸法 $e$ を確認する。  
 ・柱材: BCR295およびASTK400の冷間ロール成形角形鋼管  
 ・はり材: 400N級(SS400、SM400、SM400B・C等)のJIS G 3192記載のH形鋼  
 ・NDコア長さ $L$ : NDコアの長さ  
 ・最小長さ $l$ : 柱はり組合せで決まるNDコアの最小長さ  
 ・余長 $e$ : NDコア小口面から はりフランジ端面までの距離  
 ・最小余長 $e$ : 確保する余長の最小値  
 ※1 記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合、数値以上の余長を確保する。



2. NDコアの形状および寸法

部材記号	外径 $B$ <sup>※2</sup>		公差	板厚 $t$ (mm)	単位質量 (kg/m)	長さ範囲 $L$ <sup>※3</sup>		公差	材質	断面形状 <sup>※4</sup>	
	(mm)	(mm)				(mm)	(mm)			ND150~ND200	ND250~ND350
ND150	152			16.5	69.8				JIS G 3136 SM490B		
ND175	175			17.0	85.1						
ND200	202	+2.0	22.0	124	150~	+3.0					
ND250	252	-2.0	24.0	184		-0					
ND300	302		29.0	265							
ND350	352		33.8	360							

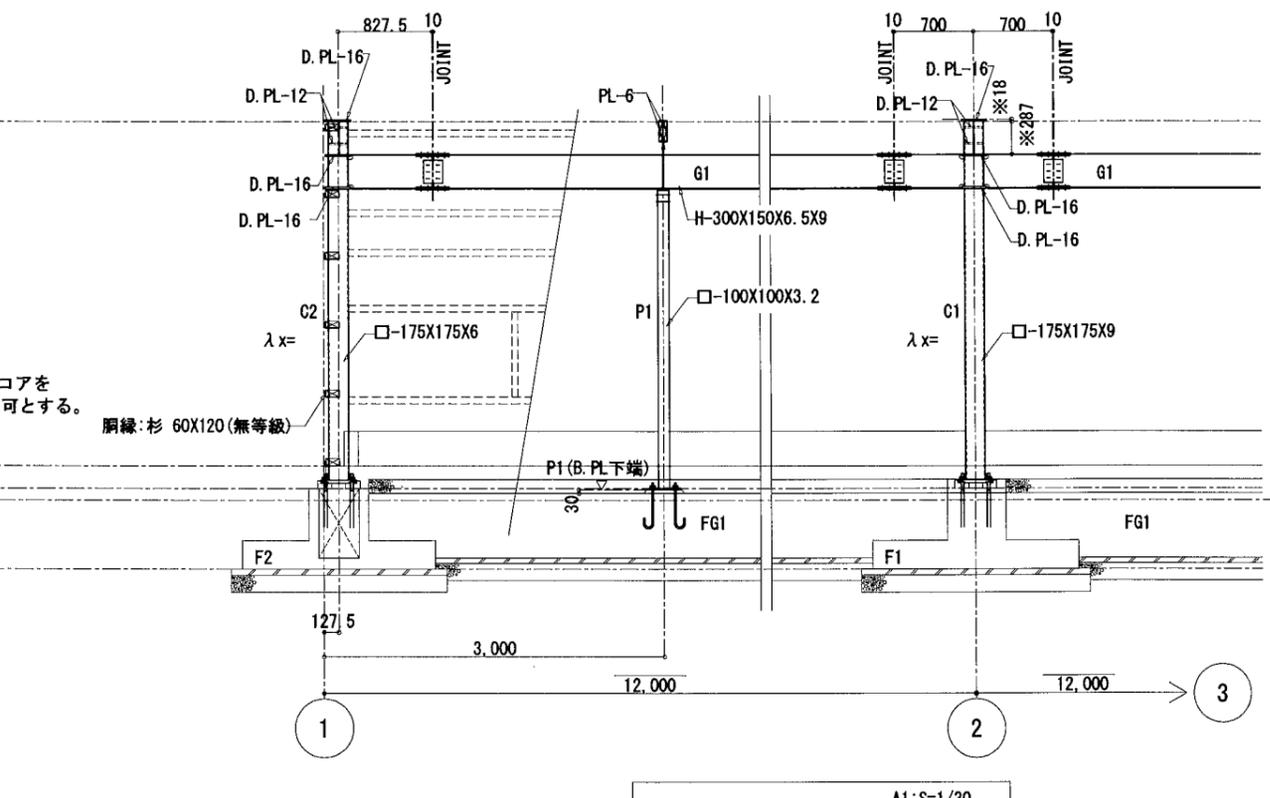
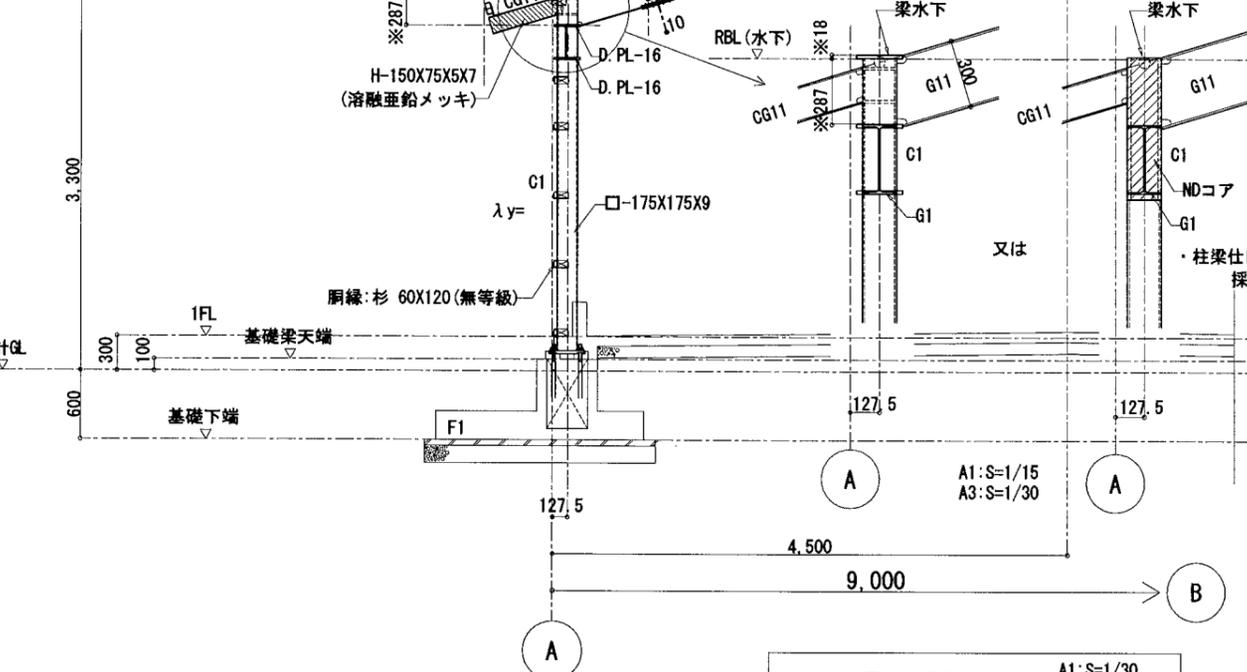
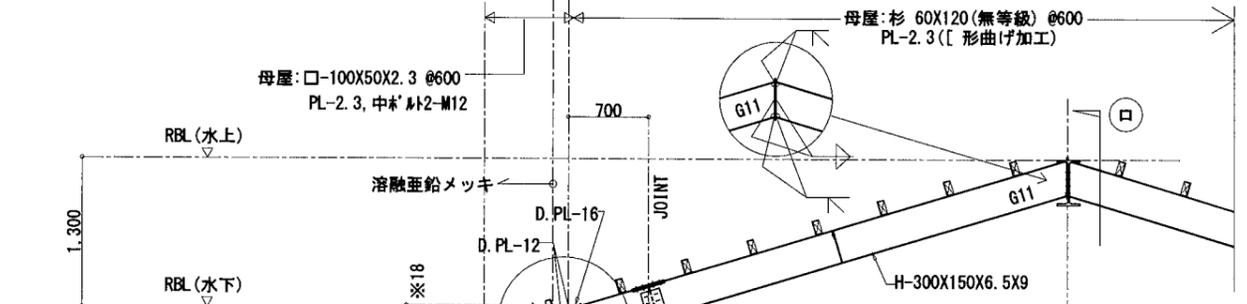
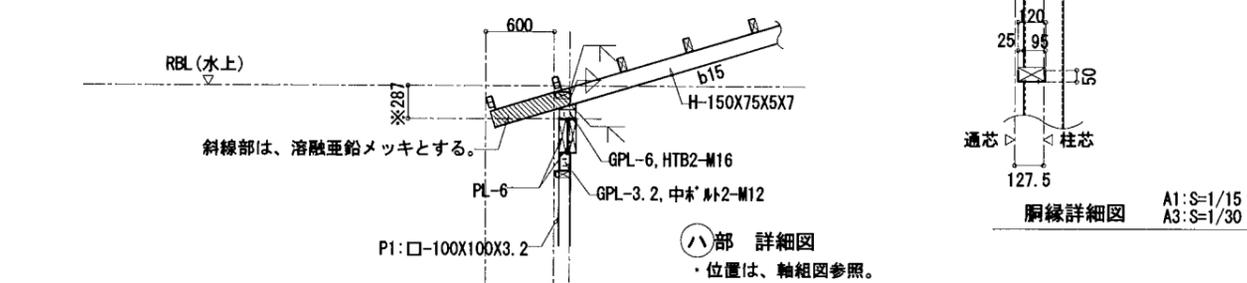
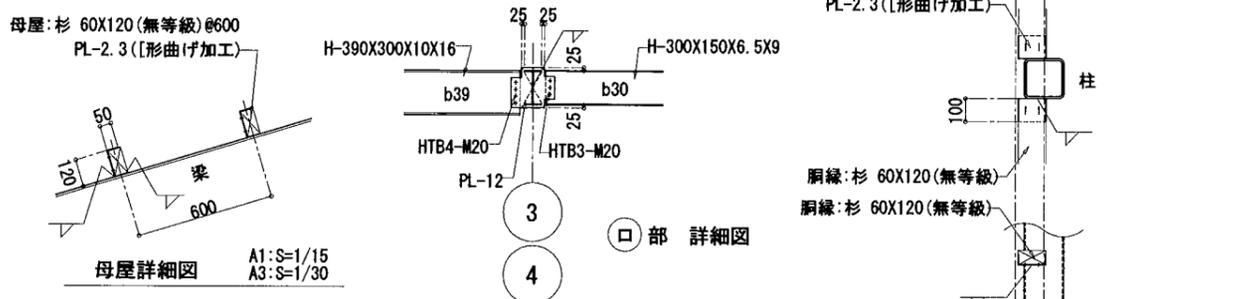
※2 コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径 $B$ を基準寸法としている。  
 ※3 NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。  
 ※4 NDコア側面には増設ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするなど適切に処理すること。

3. 注意点

・組合せ表の最小長さ $l$ 、最小余長 $e$ は、はりの短期降伏耐力をはり全断面を有効として設定している。  
 ・NDコアの標準的な納まり等は、NDコア設計・施工標準仕様書【基本仕様編】に記載している。

NDコア最小長さ $l$ と余長 $e$   
 ND150~ND200

柱	径(材質) 板厚	ND175 (BCR295)					
		6		9		12	
最小長さ $l$ 、最小余長 $e$		$l$	$e$	$l$	$e$	$l$	$e$
H-100×50×5×7		150	150	150			
H-125×60×6×8		175	175	175			
H-150×75×5×7		200	200	200			
H-175×90×5×8		225	225	225			
H-198×99×4.5×7		248	248	248			
H-200×100×5.5×8		270	250	250			
H-248×124×5×8		310	298	298			
H-250×125×6×9		300	345	35	303		
H-298×149×5.5×8		348	348	348			
H-300×150×6.5×9		350	350	373			
H-346×174×6×9		396	396	396			
H-350×175×7×11		400	400	400			



2~5通り鉄骨詳細図 A1:S=1/30 A3:S=1/60

B通り鉄骨詳細図 A1:S=1/30 A3:S=1/60

※は、製作図により確認すること。  
 ・鋼材は、全て溶融亜鉛メッキとし、完全溶込み溶接は裏はつり溶接とする。

※は、製作図により確認すること。  
 ・鋼材は、全て溶融亜鉛メッキとし、完全溶込み溶接は裏はつり溶接とする。

特記仕様書

工事名称：農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所：

本工事は、本特記仕様書に記載されている事項により、施工を行うものとする。  
 本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書（平成28年度版）電気設備工事標準図（平成28年度版）に準じ、施工するものとする。  
 又、電気設備技術基準、その他関係諸法令、諸法規に基づき、完全、確実に施工する。

A. 一般事項

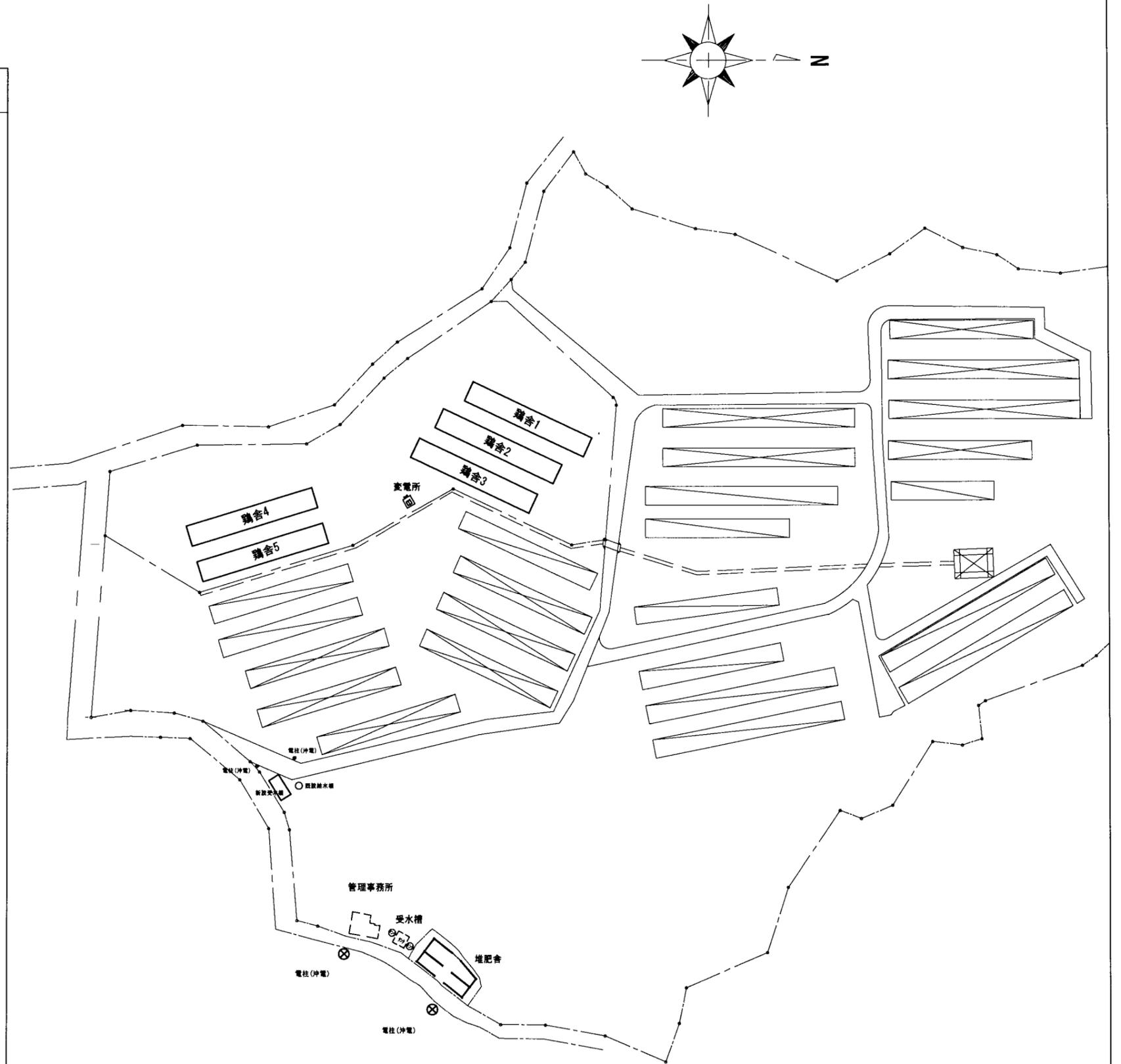
1. 使用機器及び、資材等はあらかじめ監督員の承認を受けて発注する。
2. 本工事に関する官公庁への諸手続は、全て請負者の負担とする。
3. 本設計図書及び特記仕様書に疑問等が生じた場合は、監督員と協議の上決定する。
4. 他工事との取り合いは、事前に十分な打ち合わせを行い、完全施工に努める。
5. 資材及び機器仕様 本工事に使用する機器及び資材等は、本設計図書、本特記仕様書によるものとして本設計図書に記載されている物と同等品、もしくは同等品以上とする。
6. 本工事の完成並びに、諸法規上当然必要と認められるものは、明記なき事項でも工事請負者が、責任をもって施工し、その費用も負担する。
7. 本工事の施工に際して、事前に施工図を提出し監督員の了解を得て施工に当たる。
8. 外部に接する指示金物及び取り付けボルト、ナット等は全てステンレス製or亜鉛ドブ漬けとする。
9. 空配管にほ1.6mm以上の鉄線を入線すること。
10. 電話引き込み及び電力引き込みに当たっては事前にNTT及び電力会社と十分打ち合わせを行い施工すること

B. 工事項目

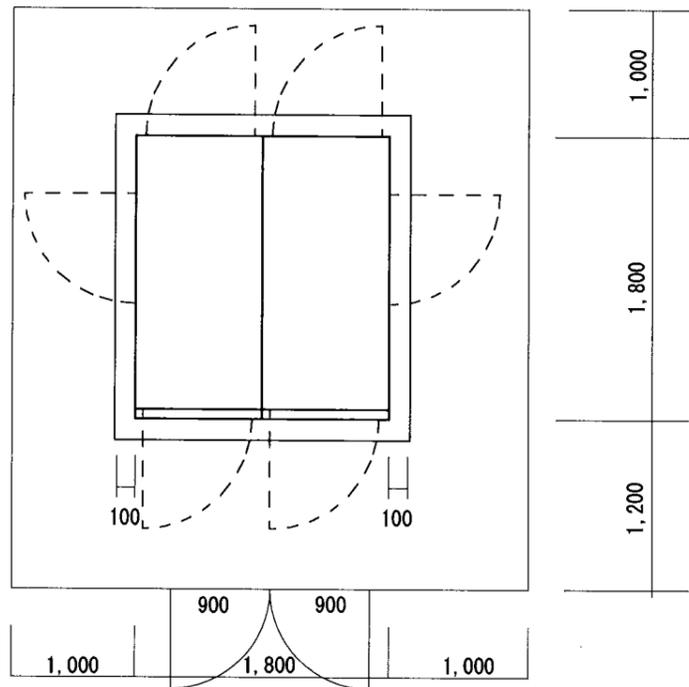
1. 受変電設備工事
  - (1). 電力柱より高圧 (6.6KV) で引き込みを行う
  - (2). コンクリート基礎及び金網工事は建築工事とする
  - (3). キュービクルはステンレス製屋外型とする
  - (4). 建柱に当たっては根か、支線工を行い、埋め戻しに当たっては流用土は使用せず砕石土を使用し、堅牢に建柱工事を行う。
  - (5). キュービクル内に発電機接続用端子を設ける
2. 幹線動力設備工事
 

電気方式 動力幹線 3相3線 210V  
 電灯幹線 1相3線 210V/105V

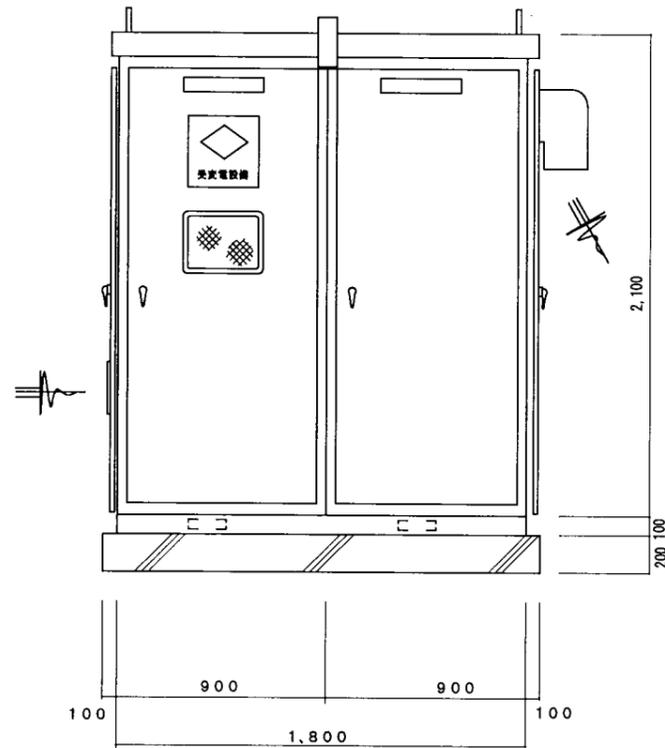
  - (1). 管材は硬質ビニール電線管 (VE)、耐衝撃性硬質ビニール電線管 (HIVE) を使用する  
 地中埋設管にあつてはFEP管を使用する
  - (2). キュービクルから別途制御盤までの電源の1次側工事を行う
  - (4). 建柱に当たっては根か、支線工を行い、埋め戻しに当たっては流用土は使用せず砕石土を使用し、堅牢に建柱工事を行う。
2. 警報設備工事
  - (1) 鶏舎-5に自動音声通報装置を設置し、各鶏舎の制御盤を結ぶ配線を行う
  - (2) 各鶏舎の制御盤からb接点の信号をもらい、異常があつたら自動音声通報装置にて電話回線から管理担当者の携帯電話に異常を知らせる事ができるようにすること
  - (3) 電話の引き込みに関する費用は施工主負担とする
3. 電灯コンセント設備工事
  - (1) 別途工事とする



MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成	図面内容 特記仕様書・全体配置図	図面番号 E-1
				工事場所			

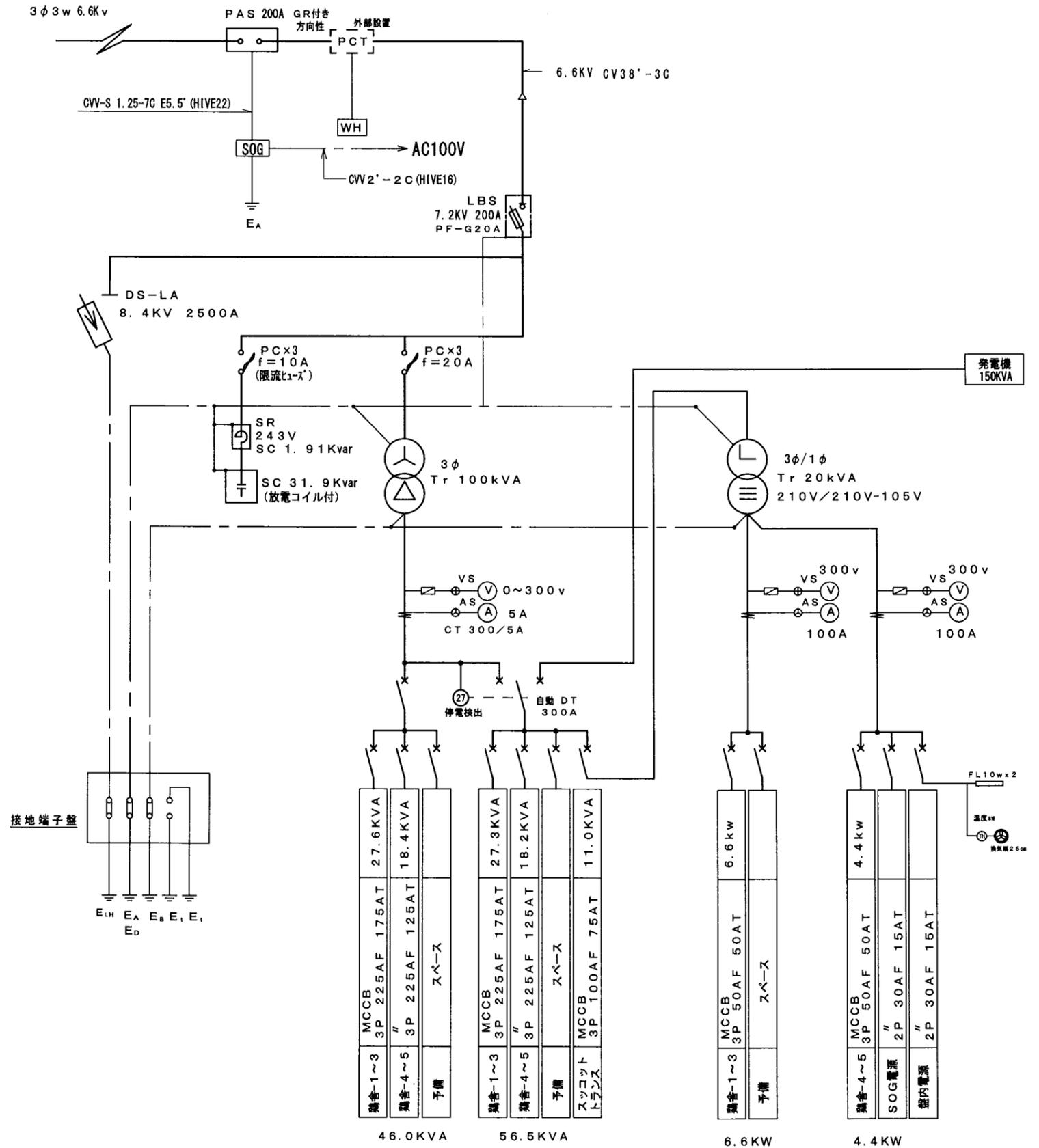


※ コンクリート基礎・金網工事は建築工事



屋外型 (ステンレス製) 奥行き=1,800

キュービクル正面図 NO SCALE



キュービクル単一結線図

MEMO

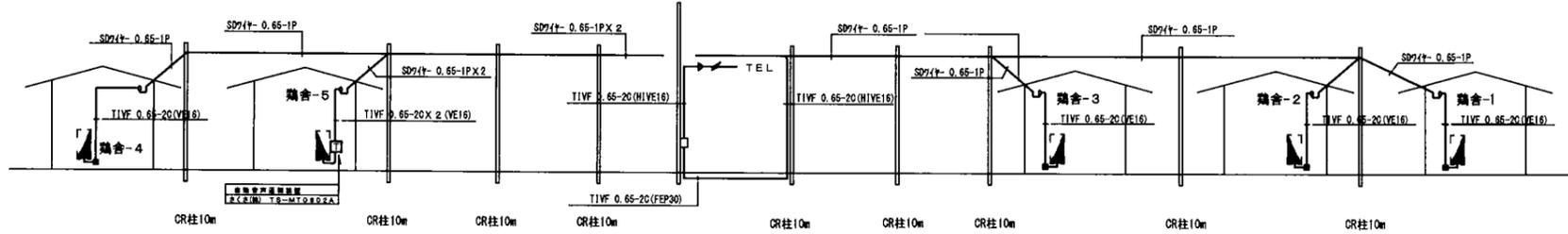
株式会社 翁長設計  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201  
 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 一級建築士 266066 松田健治  
 TEL 877-5609 FAX 878-9429

管理建築士 設計  
 工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所

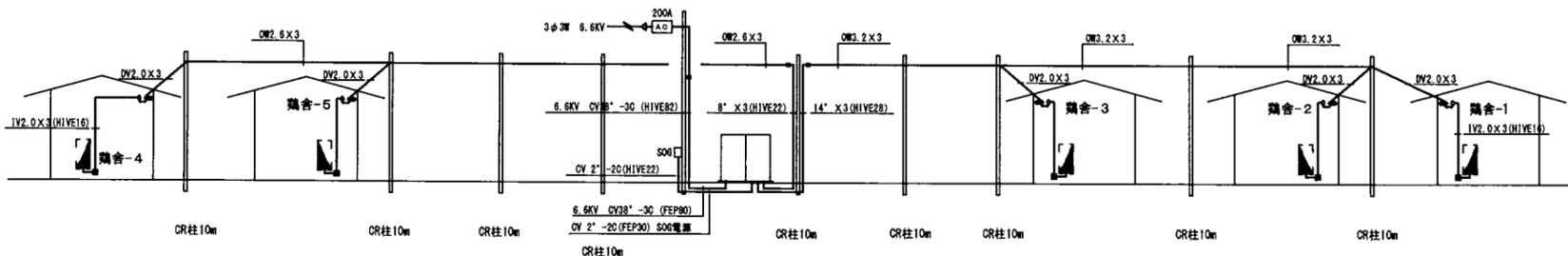
日付 平成  
 年 月 日  
 図面内容 キュービクル単一結線図  
 A1 : S = 1/150 (A3 : S = 1/300)

図面番号 E-2

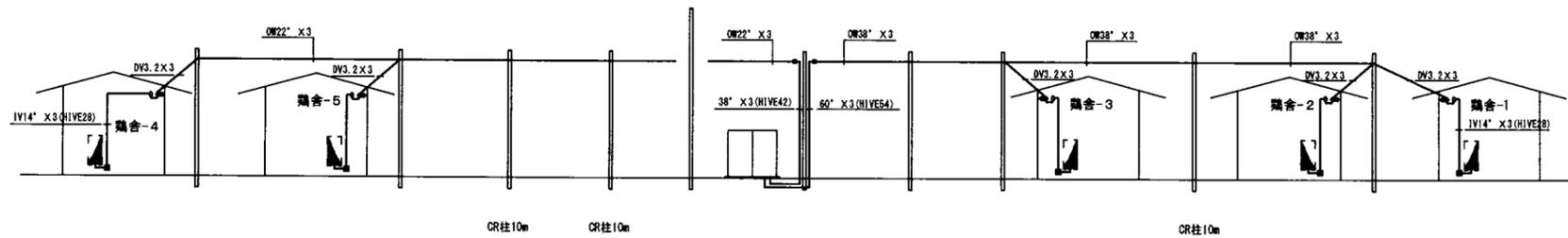
警報配線



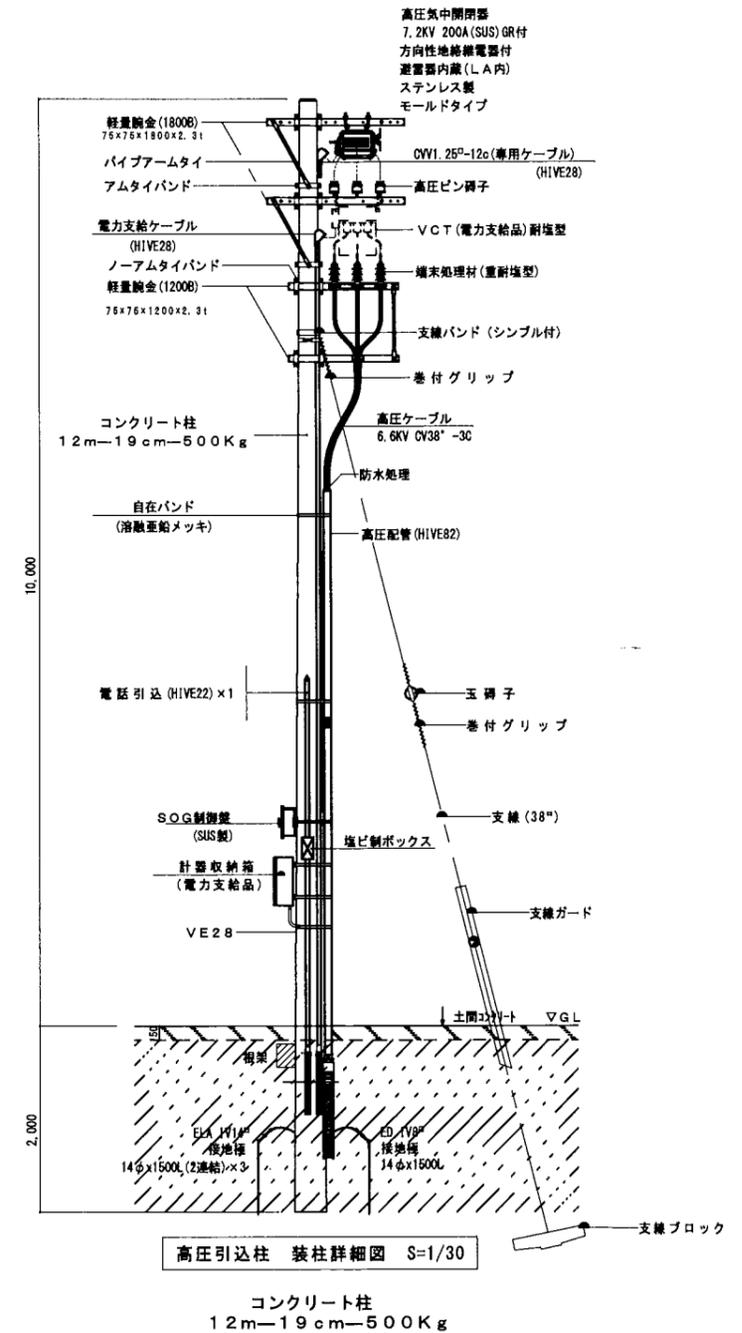
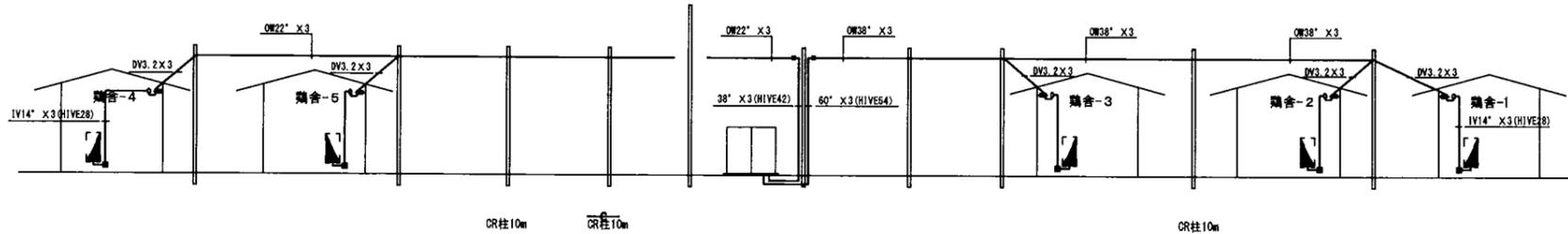
発電機回路  
1Φ3W



3Φ3W



発電機回路  
3Φ3W

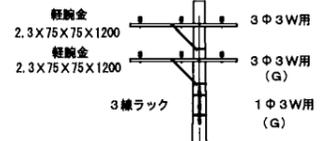
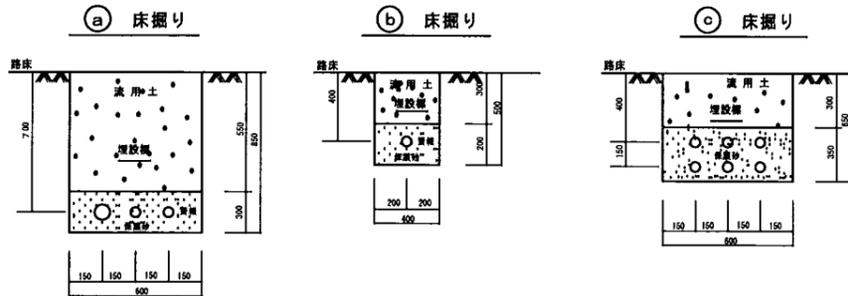


MEMO	

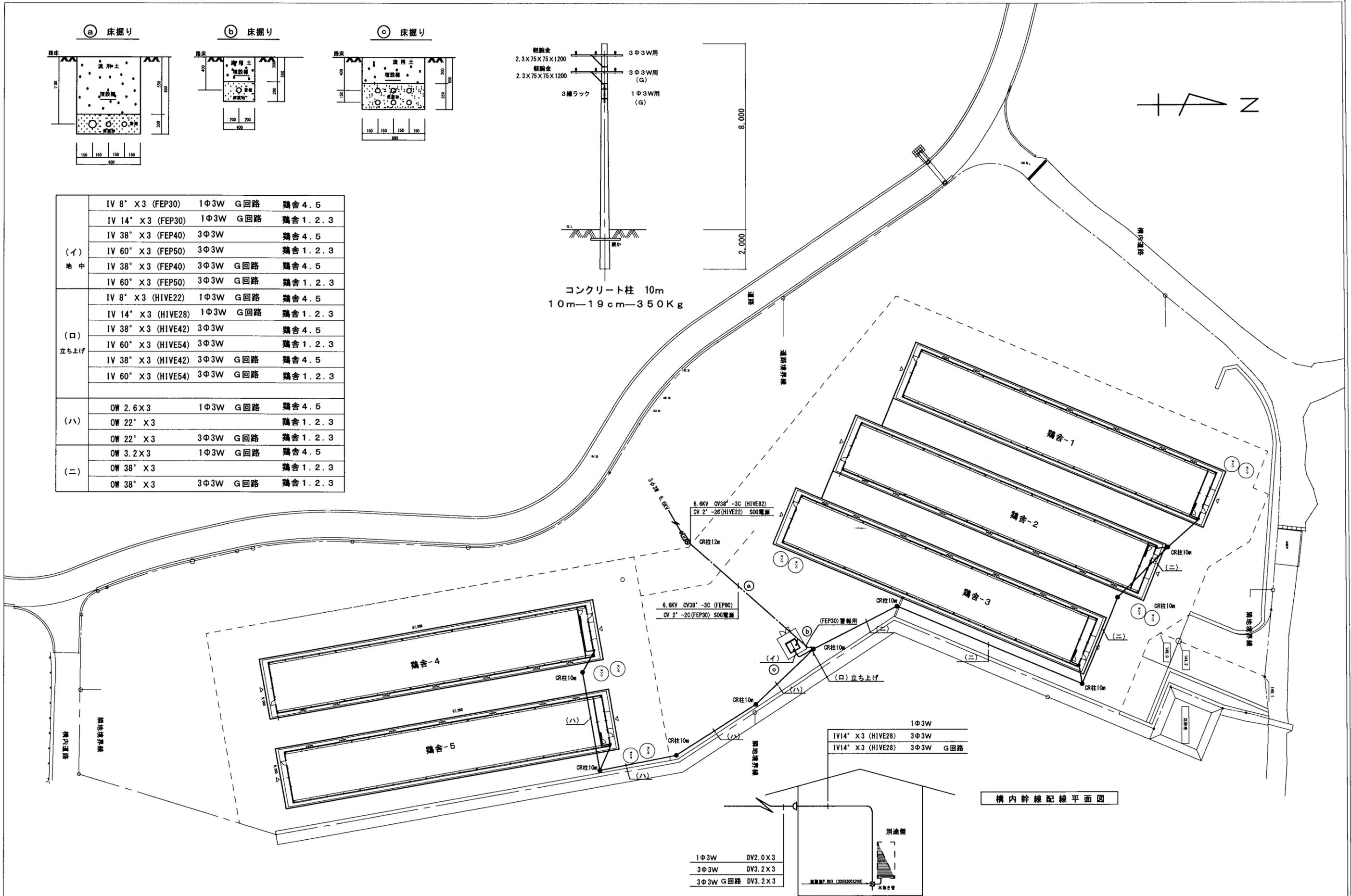
株式会社 翁長設計  
 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429

管理建築士 設計  
 工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所

日付 平成	図面内容 幹線系統図	図面番号 E-3
年	A1: S = 1/100 (A3: S = 1/200)	
月		
日		



(イ) 地中	IV 8° X3 (FEP30)	1Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	IV 14° X3 (FEP30)	1Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3
	IV 38° X3 (FEP40)	3Φ3W	鶏舎 4.5
	IV 60° X3 (FEP50)	3Φ3W	鶏舎 1.2.3
	IV 38° X3 (FEP40)	3Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	IV 60° X3 (FEP50)	3Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3
(ロ) 立ち上げ	IV 8° X3 (HIVE22)	1Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	IV 14° X3 (HIVE28)	1Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3
	IV 38° X3 (HIVE42)	3Φ3W	鶏舎 4.5
	IV 60° X3 (HIVE54)	3Φ3W	鶏舎 1.2.3
	IV 38° X3 (HIVE42)	3Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	IV 60° X3 (HIVE54)	3Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3
(ハ)	OW 2.6 X3	1Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	OW 22° X3		鶏舎 1.2.3
	OW 22° X3	3Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3
(ニ)	OW 3.2 X3	1Φ3W G回路	鶏舎 4.5
	OW 38° X3		鶏舎 1.2.3
	OW 38° X3	3Φ3W G回路	鶏舎 1.2.3

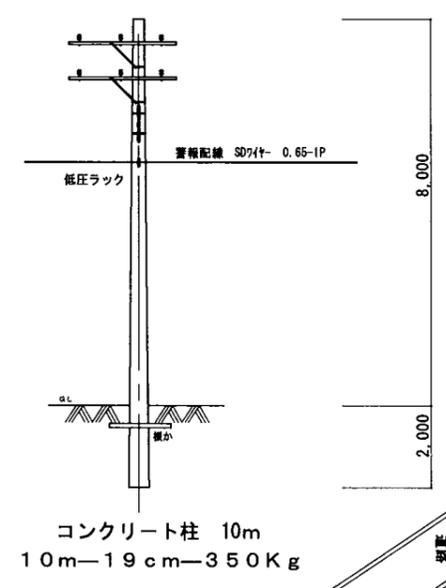


MEMO

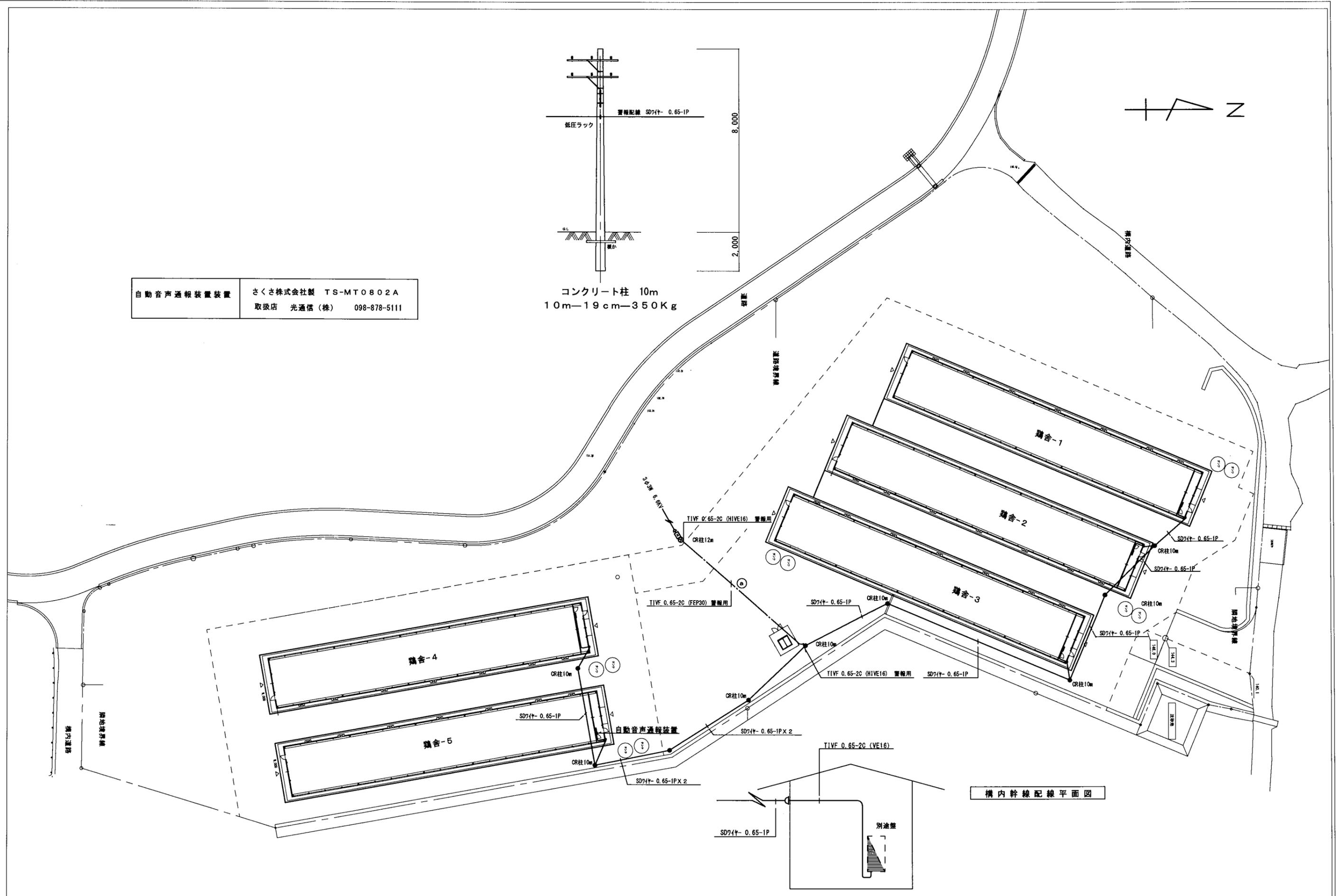
株式会社 翁長設計  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理客3丁目2番24-201  
 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 一級建築士 266066 松田健治  
 TEL 877-5609 FAX 878-9429

管理建築士 設計  
 工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所

日付 平成 年 月 日  
 図面内容 構内幹線配線図  
 図面番号 E-4  
 A1 : S = 1/300 (A3 : S = 1/600)



自動音声通報装置装置  
 さくさ株式会社製 TS-MT0802A  
 取扱店 光通信(株) 098-878-5111



構内幹線配線平面図

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所	日付 平成 年 月 日	図面内容	図面番号
						構内警報設備配線図 A1 : S = 1/300 (A3 : S = 1/600)	E-5

**特記仕様書**

工事名称： 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

工事場所：

本工事は、本特記仕様書に記載されている事項により、施工を行うものとする。  
 本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の機械設備工事共通仕様書（平成28年度版）機械設備工事標準図（平成28年度版）に準じ、施工するものとする。  
 又、機械設備技術基準、その他関係諸法令、諸法規に基づき、完全、確実に施工する。

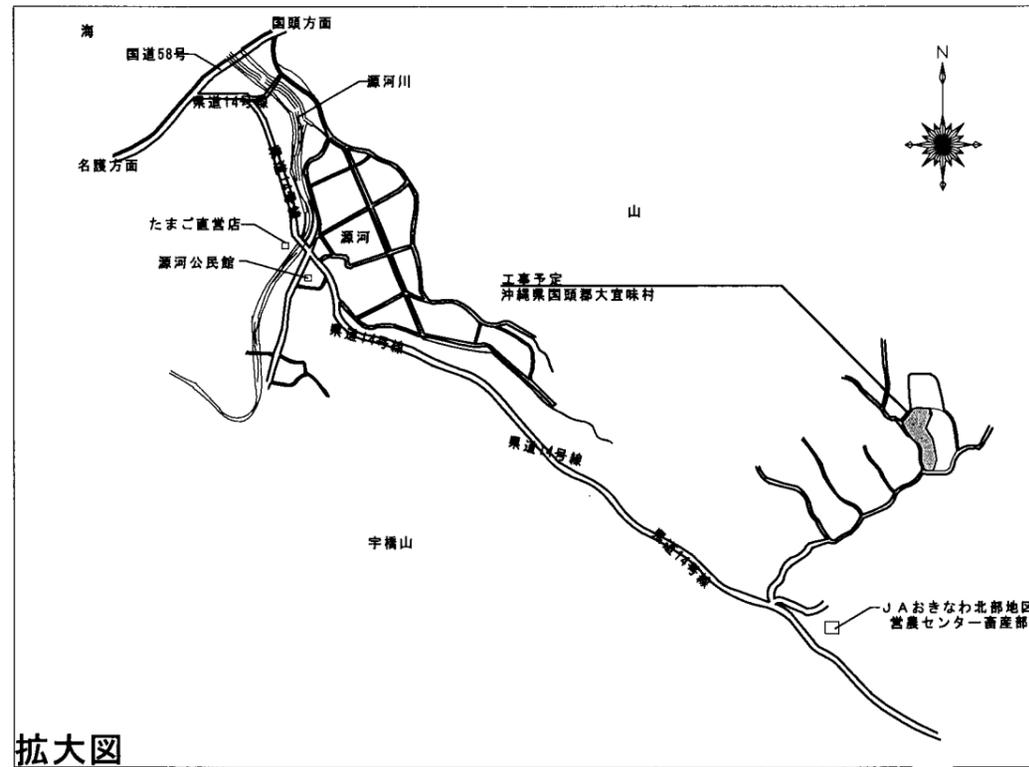
**A. 一般事項**

1. 使用機器及び、資材等はあらかじめ監督員の承認を受けて発注する。
2. 本工事に関わる官公庁への諸手続は、全て請負者の負担とする。
3. 本設計図書及び特記仕様書に疑問等が生じた場合は、監督員と協議の上決定する。
4. 他工事との取り合いは、事前に十分な打ち合わせを行い、完全施工に努める。
5. 資材及び機器仕様 本工事に使用する機器及び資材等は、本設計図書、本特記仕様書によるものとし、全て本設計図書に記載されている物と同等品、もしくは同等品以上とする。
6. 本工事の完成並びに、諸法規上当然必要と認められるものは、明記なき事項でも工事請負者が、責任をもって施工し、その費用も負担する。
7. 本工事の施工に際して、事前に施工図を提出し監督員の了解を得て施工に当たる。
8. 外部に接する指示金物及び取り付けボルト、ナット等は全てステンレス製とする。

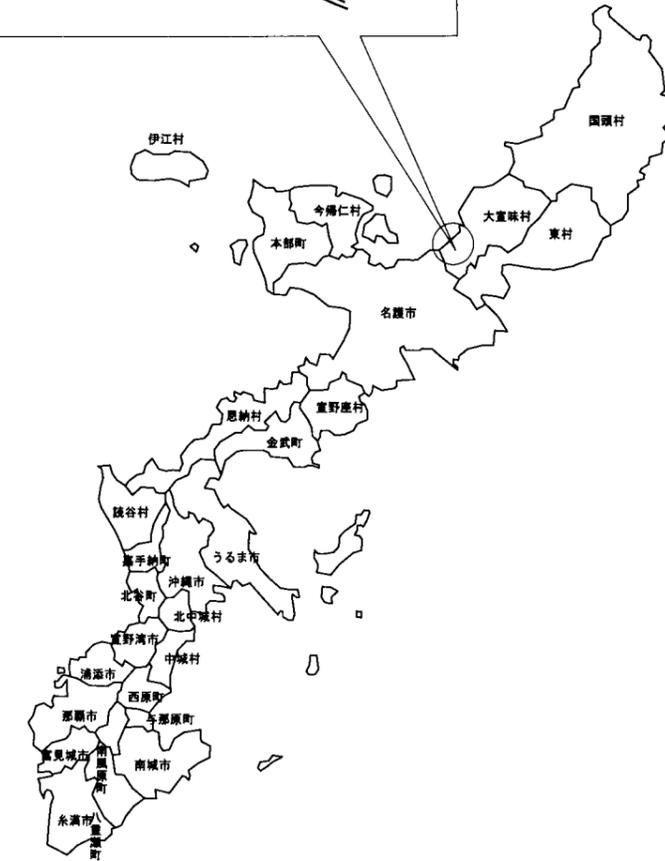
**B. 工事項目**

**1. 給水設備工事**

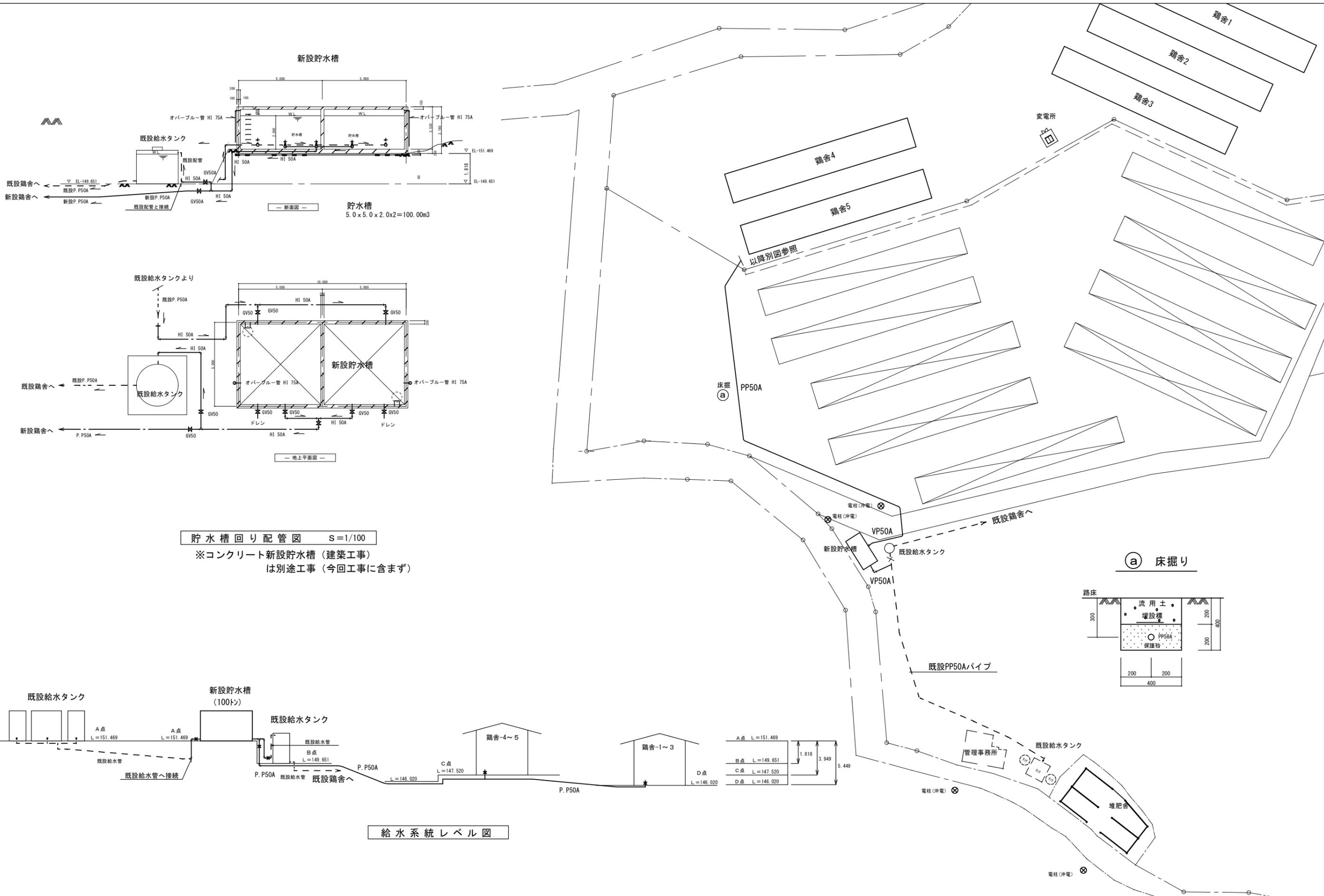
- (1) . 地中埋設、コンクリート内、インペイ部の使用管材は給水用硬質ポリ塩化ビニール管（VP）及び水道用ポリエチレン管1種（P.Pを）使用する
- (2) . 弁類はすべて 5kg/cm<sup>2</sup>を使用する



拡大図

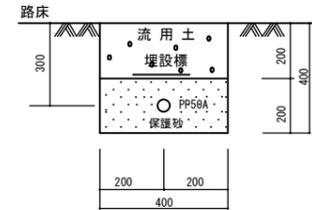


MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成	図面内容 特記仕様書・案内図	図面番号 M-1
					工事場所	年 月 日		

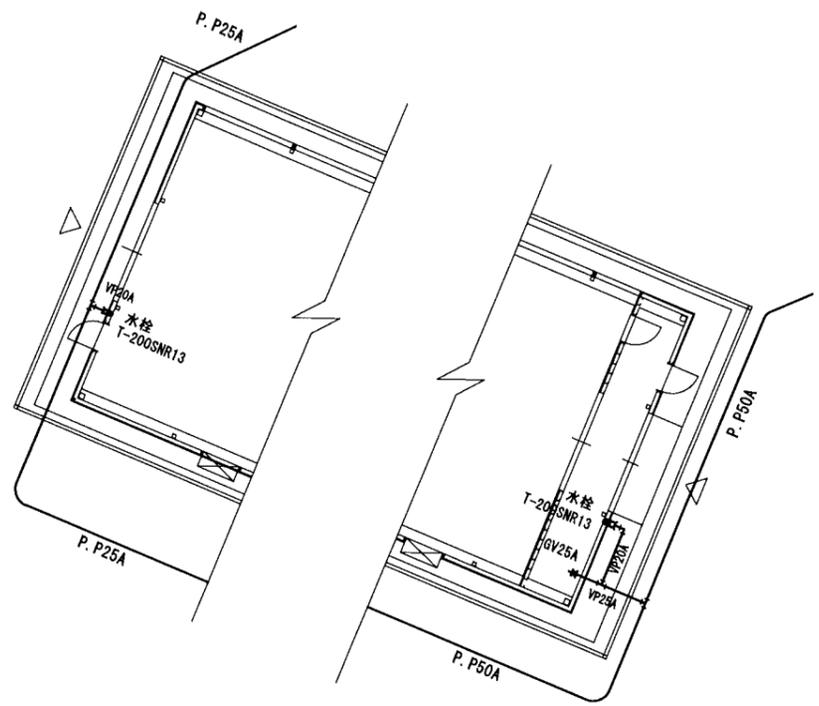


貯水槽回り配管図 S=1/100

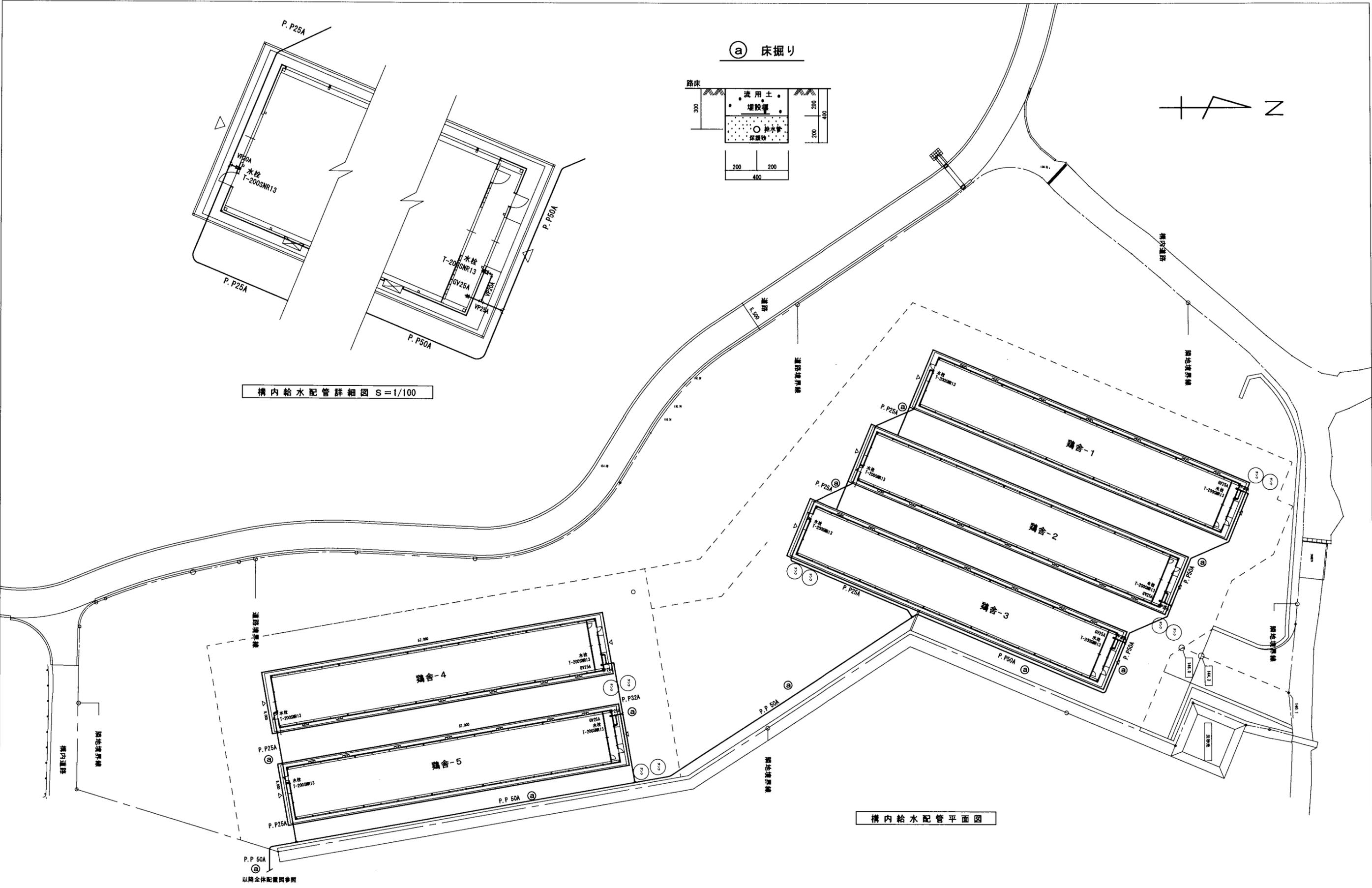
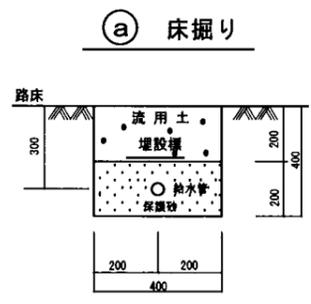
Ⓐ 床掘り



MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称	日付 平成 年 月 日	図面内容 給水管全体配置図 A1: S = 1/500 (A3: S = 1/1,000)	図面番号 M-2
				農生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			



構内給水配管詳細図 S=1/100



構内給水配管平面図

MEMO

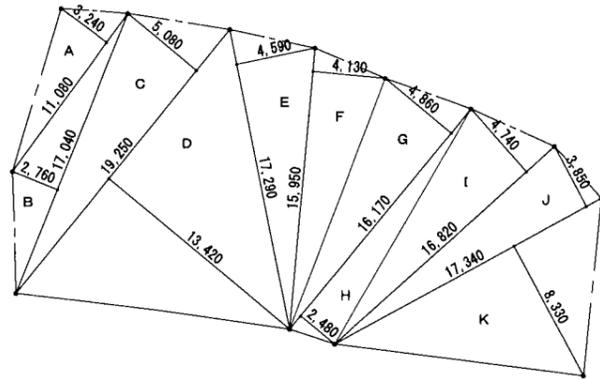
株式会社 翁長設計  
 代表取締役 翁長武範  
 浦添市勢理宮3丁目2番24-201  
 一級建築士事務所 事務所登録 162-192  
 一級建築士 266066 松田健治  
 TEL 877-5609 FAX 878-9429

管理建築士 設計  
 工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事  
 工事場所

日付 平成 年 月 日

図面番号 構内給水配管図  
 A1 : S = 1/300 (A3 : S = 1/600)

図面番号 M-3

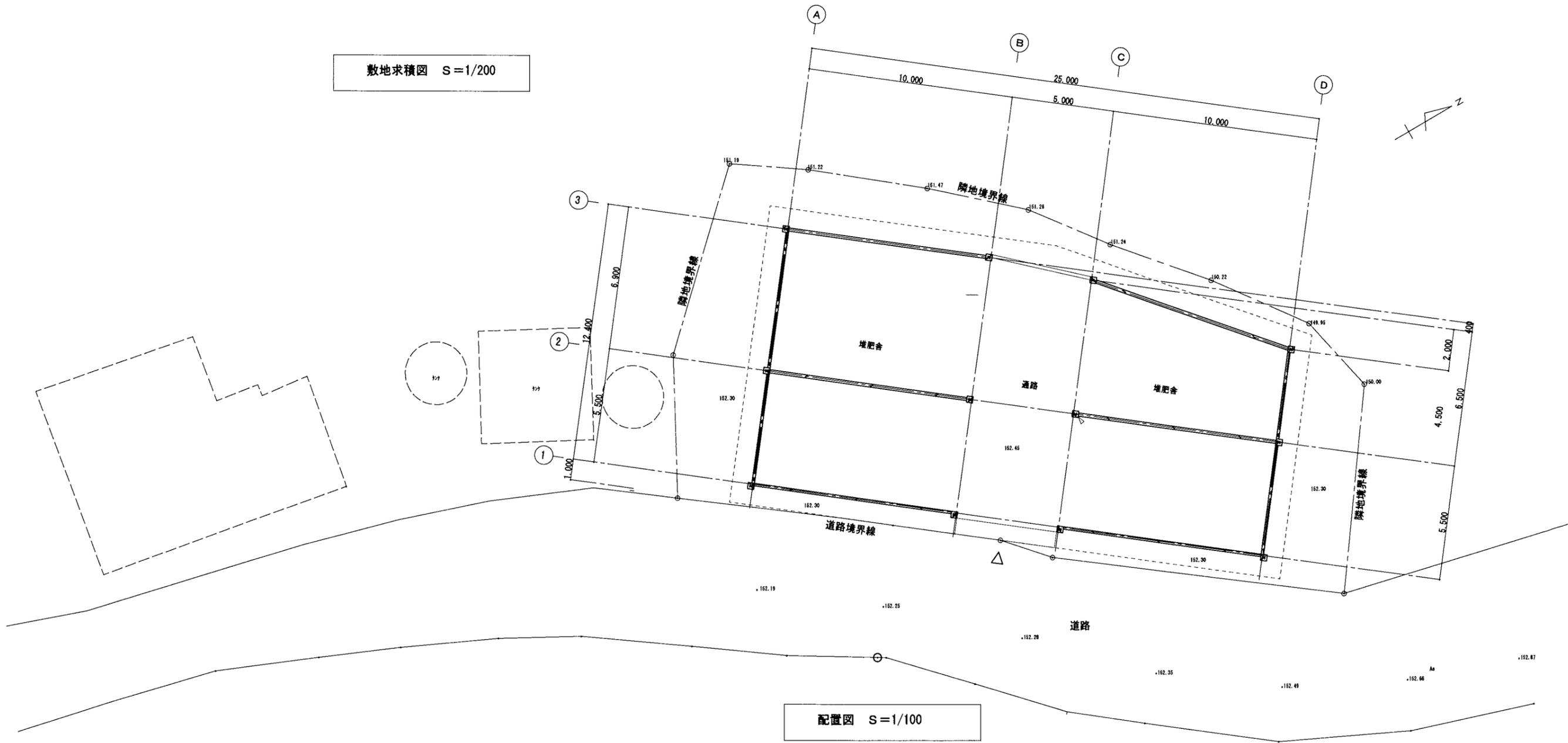


- A 11.08 × 3.24 ÷ 2 = 17.9496
- B 17.04 × 2.76 ÷ 2 = 23.5152
- C 19.25 × 5.08 ÷ 2 = 48.8950
- D 19.25 × 13.42 ÷ 2 = 129.1675
- E 17.29 × 4.59 ÷ 2 = 39.68055
- F 15.95 × 4.13 ÷ 2 = 32.93675
- G 16.17 × 4.86 ÷ 2 = 39.2931
- H 16.17 × 2.48 ÷ 2 = 20.0508
- I 16.82 × 4.74 ÷ 2 = 39.8634
- J 17.34 × 3.85 ÷ 2 = 33.3795
- K 17.34 × 8.33 ÷ 2 = 72.2211

計 = 457.0891

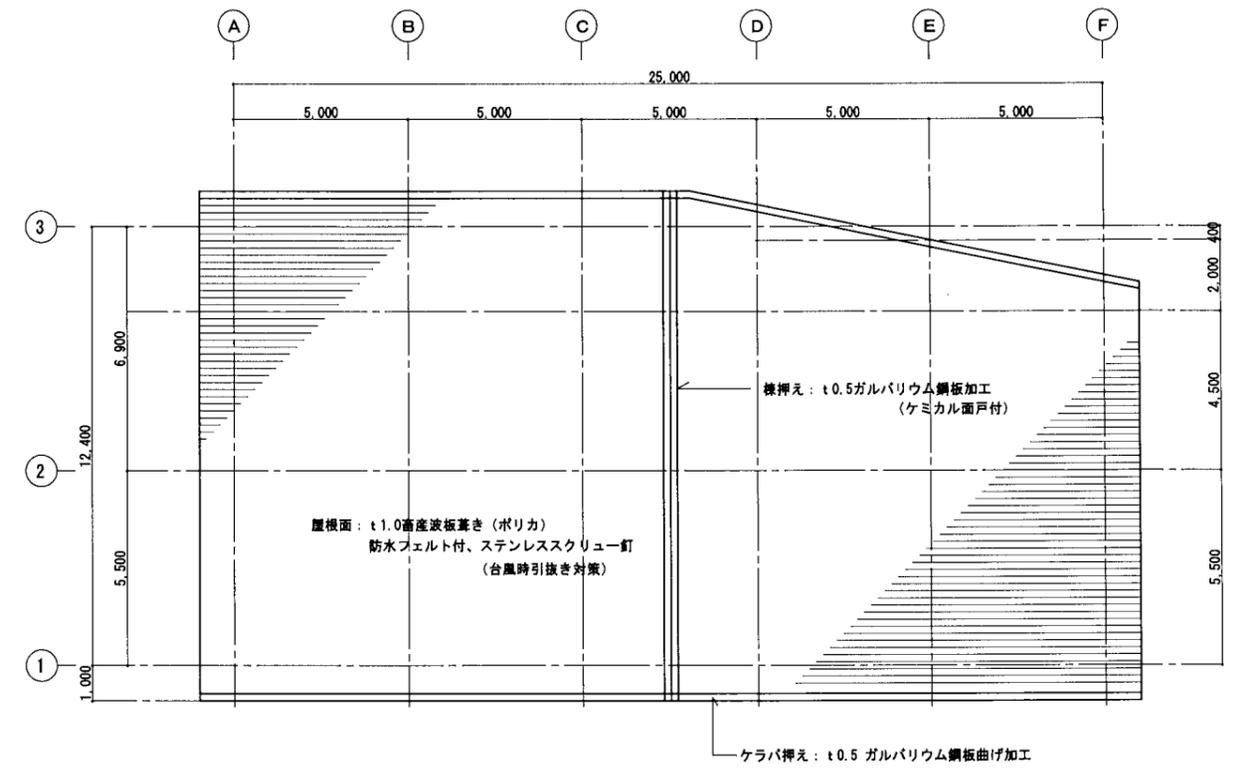
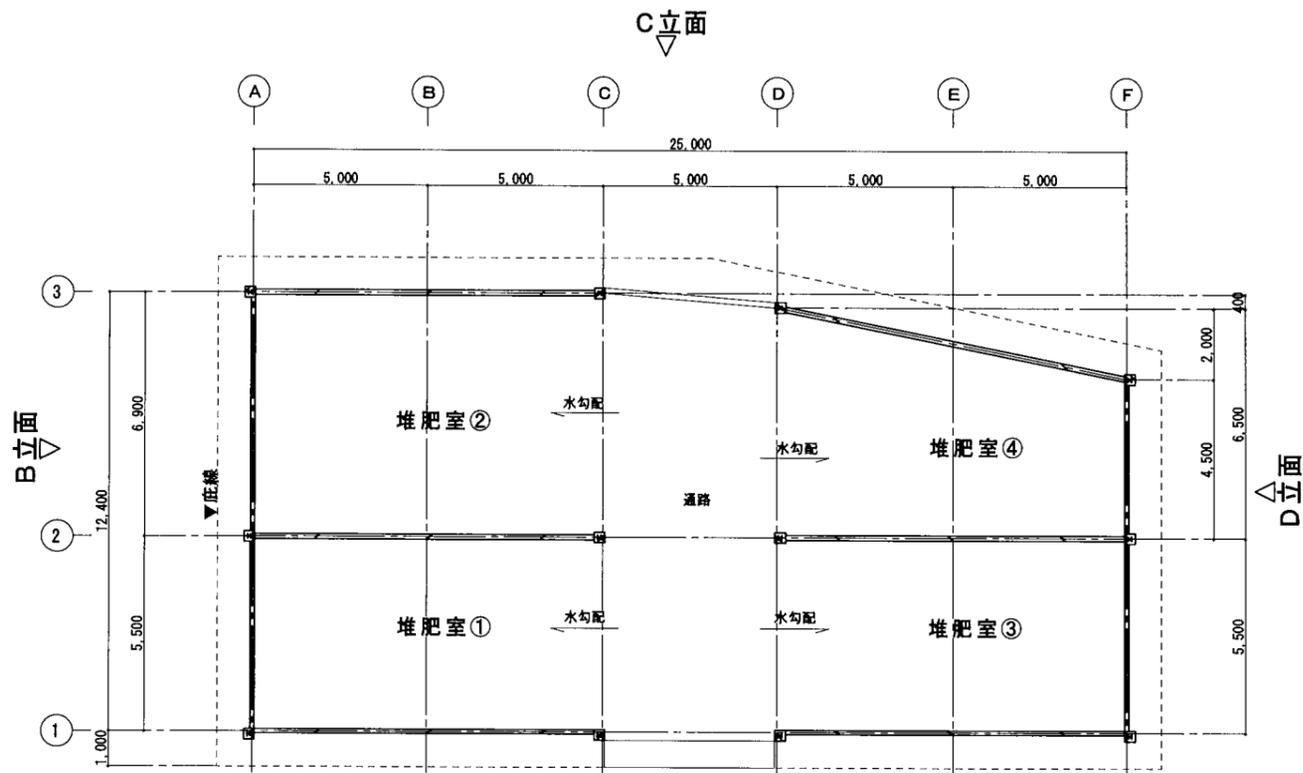
= 457.09 m<sup>2</sup>

敷地求積図 S=1/200



配置図 S=1/100

MEMO	<b>株式会社 翁長設計</b> 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 堆肥舎 配置図 敷地面積求積図 A1 : S = 1/100 (A3 : S = 1/200)	図面番号 T-1
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			



A立面

平面図 S=1:100

(234.00㎡+61.00㎡)

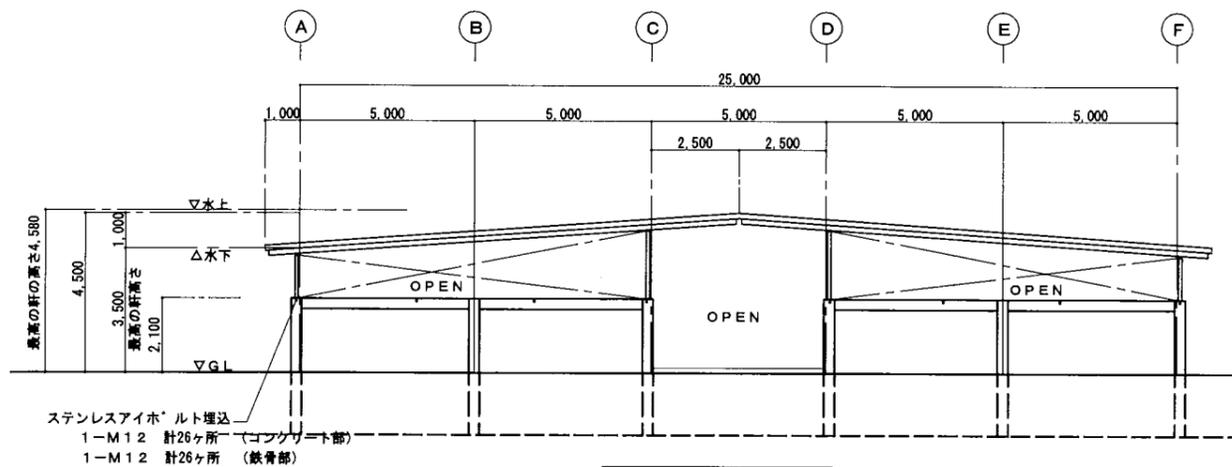
床面積=295.00㎡

堆肥室面積

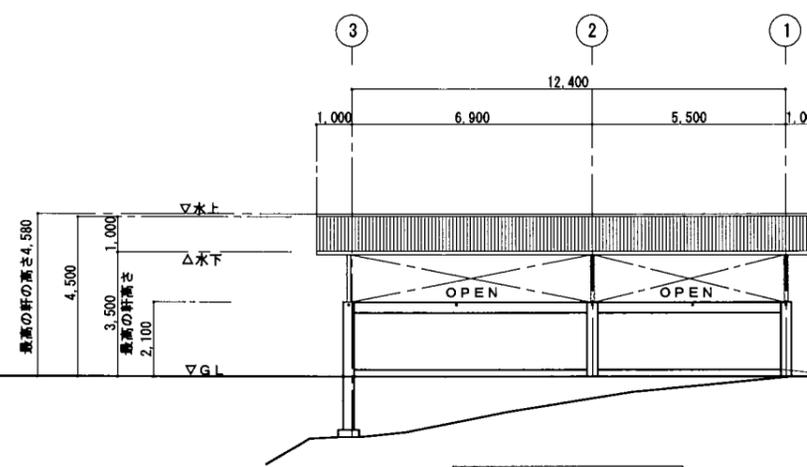
堆肥室①	10.00m × 5.50m = 55.00㎡
堆肥室②	10.00m × 6.90m = 69.00㎡
堆肥室③	10.00m × 5.50m = 55.00㎡
堆肥室④	10.00m × 5.50m = 55.00㎡
計	234.00㎡
通路部分	5.00m × 12.20m = 61.00㎡

屋根伏図 S=1:100

仕上表	
堆肥舎	
床	ア) 100コンクリート打ち直均し
外壁	ア) 120コンクリート打放し
屋根	屋根面: t1.0 畜産波板(ポリカ) 防水フェルト付、ステンレススクリュー釘使用 (台風時引抜き対策)
柱	コンクリート打放し仕上げ
母家	杉材 60×120 @450

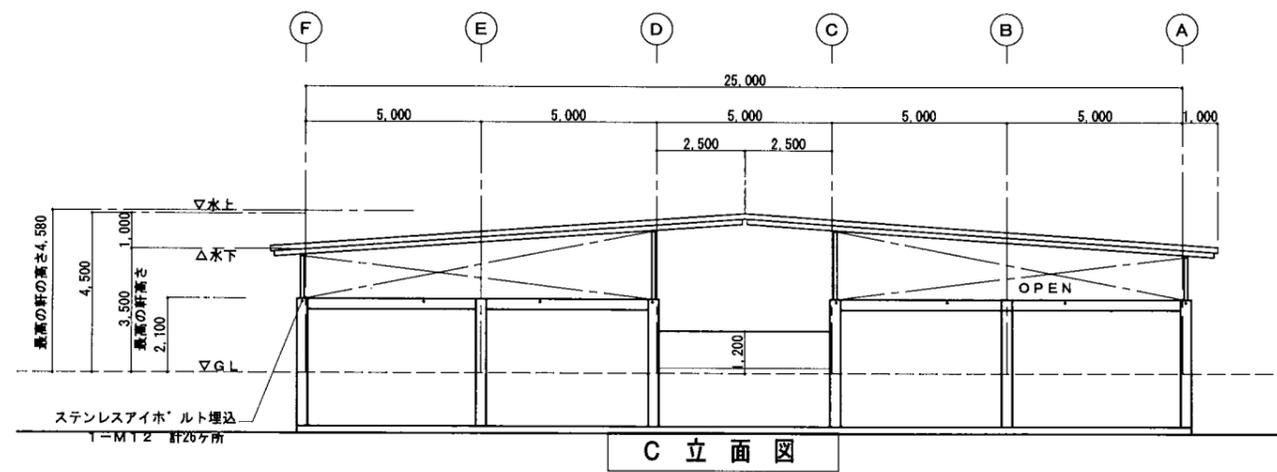


A立面図

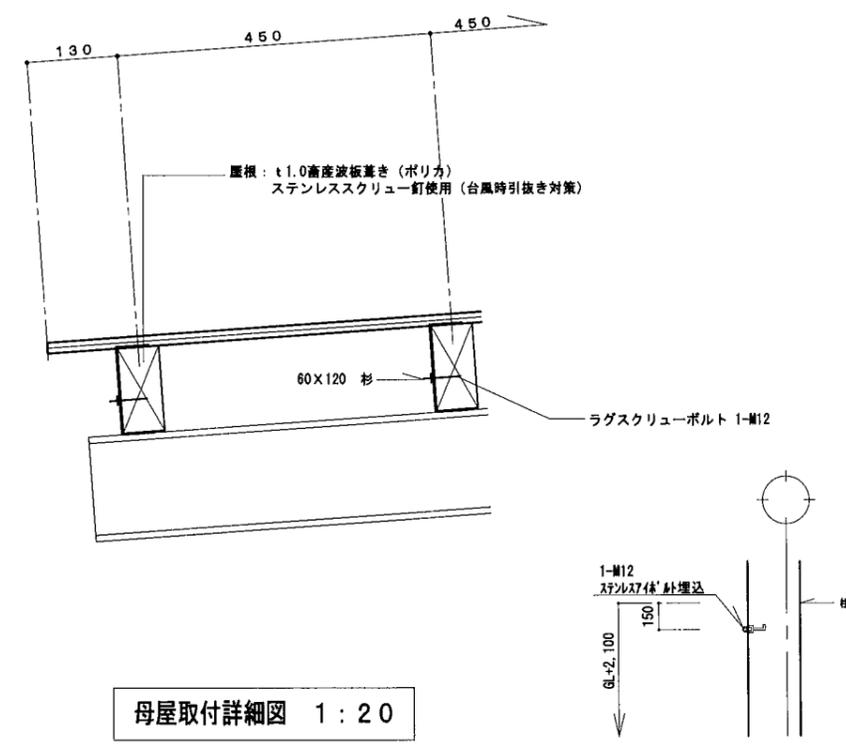


B立面図

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
				農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			
				工事場所	年月日	A1: S=1/100 (A3: S=1/200)	
				大宜見村宇津覇 1971-112			

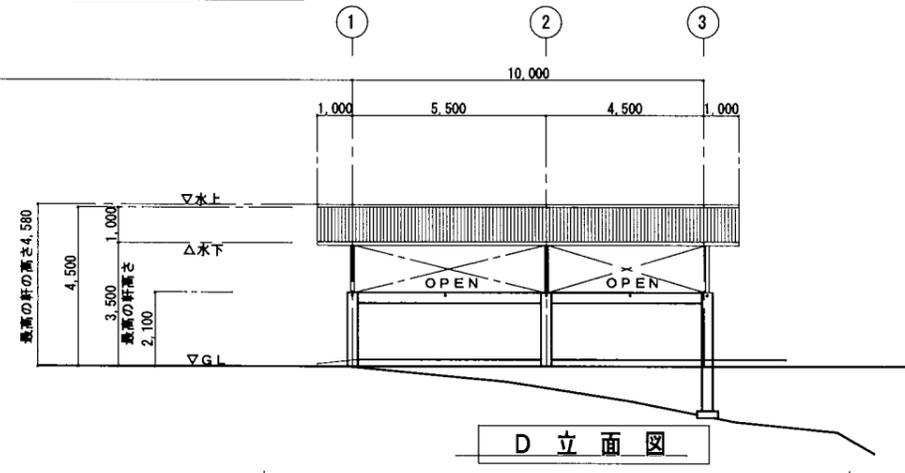


C 立面図

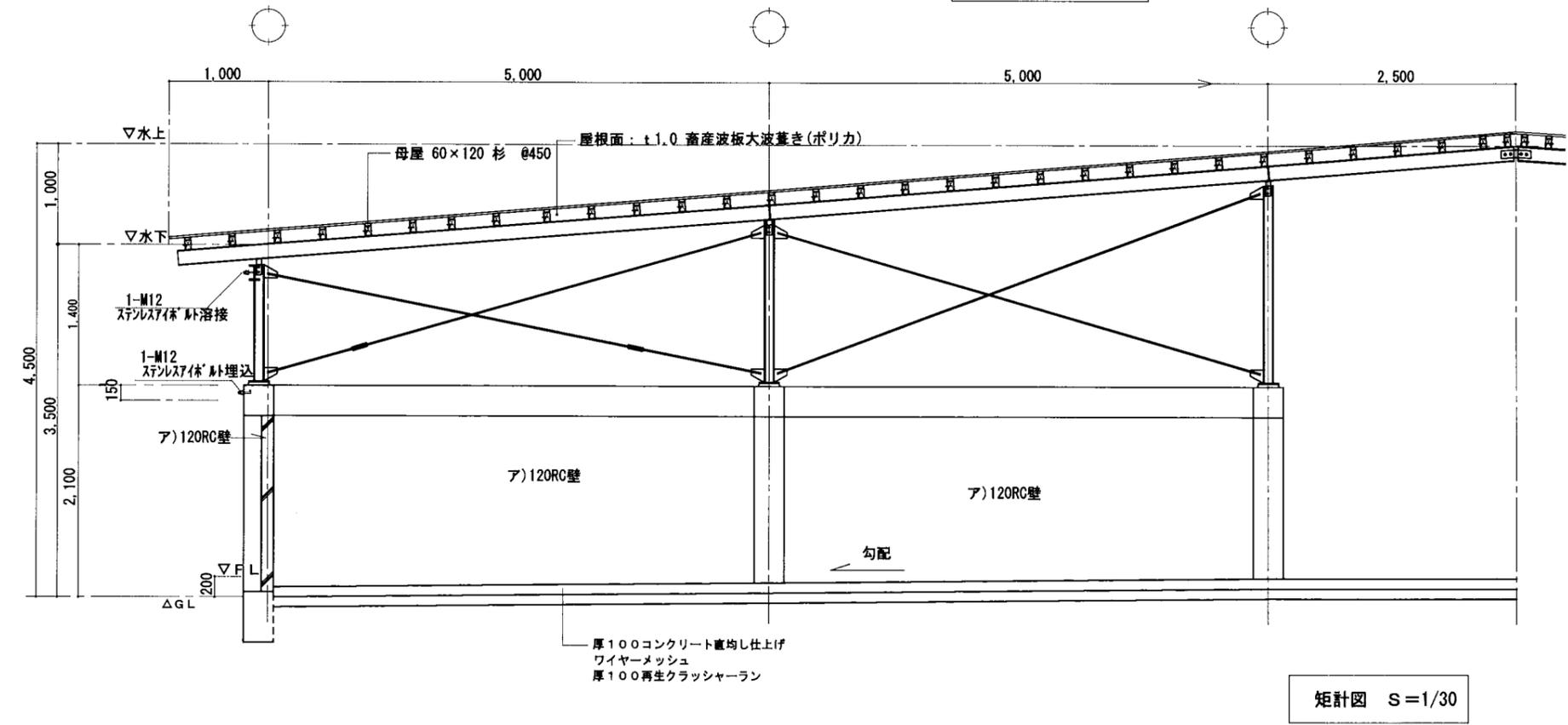


母屋取付詳細図 1:20

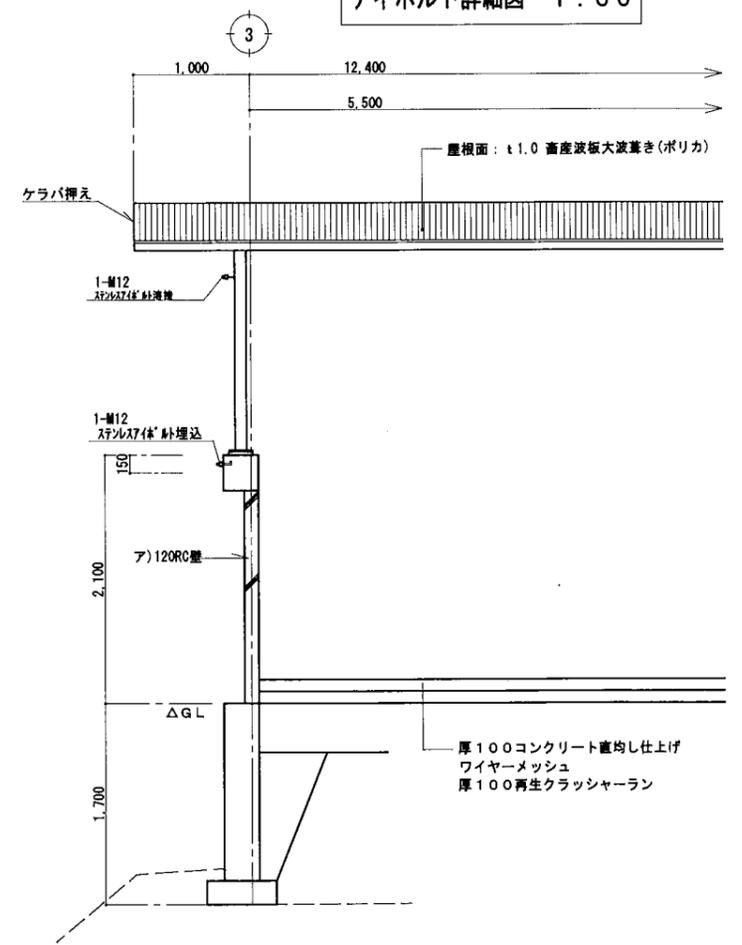
アイボルト詳細図 1:60



D 立面図



矩計図 S=1/30



MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治 TEL 877-5609 FAX 878-9429	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 年 月 日	図面内容 堆肥舎 矩計図・部分詳細図	図面番号 T-3
				工事場所 大宜見村字津覇 1971-112			

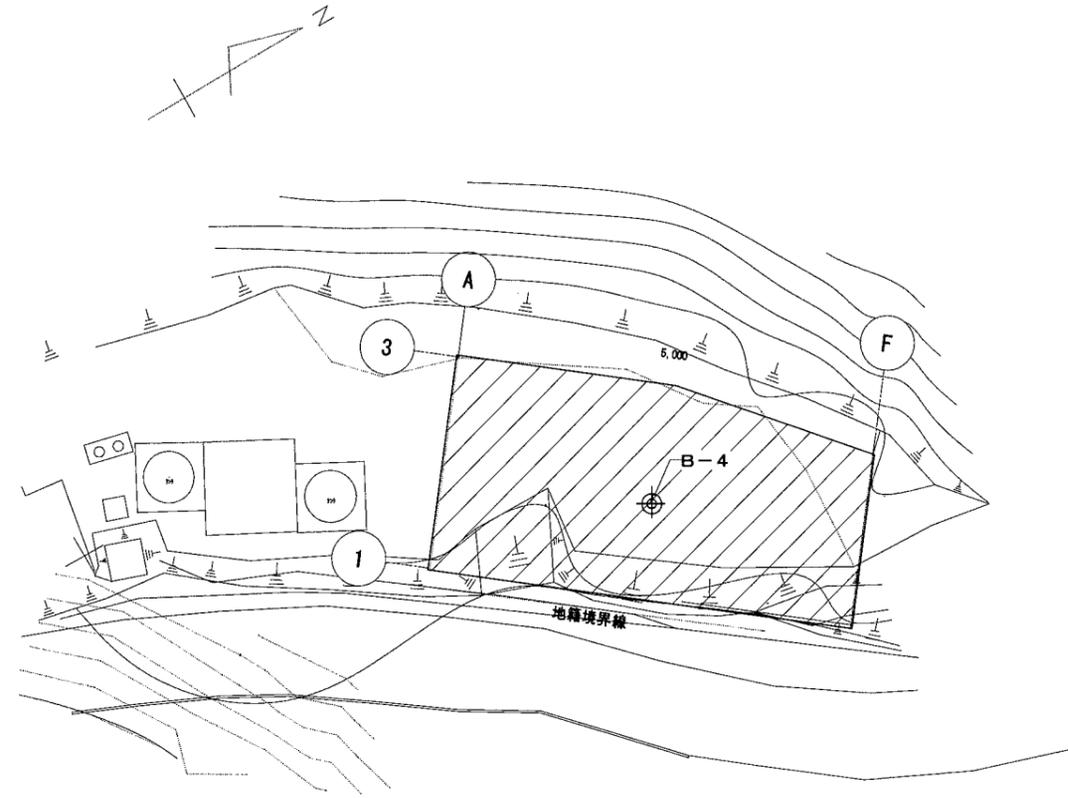
調査名 平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事

事業・工事名

ボーリングNo.   
 シートNo. 4

ボーリング名	B4	調査位置	沖縄県名護市瀬河地内	北緯	°	'	"
発注機関		調査期間	平成29年 7月15日～平成29年 7月16日	東経	°	'	"
調査業者名	株式会社 アステックプランニング 電話 0980-53-0840	管理技術者		担 当 者	口 定 平 間 勝 也	ボーリング 技 術 者	大 城 朝 暉
孔口標高	E.L. 150.46m	角	0°	方	0°	地盤勾配	0°
総掘進長	6.00m	度	0°	向	0°	使用機種	エンジン YANMAR-NFAD8
						試験機	カノウ油圧ボーリング (KR-SH)
						ハンマー	落下用具 半自動型
						ポンプ	可変吐出形ベーンポンプ

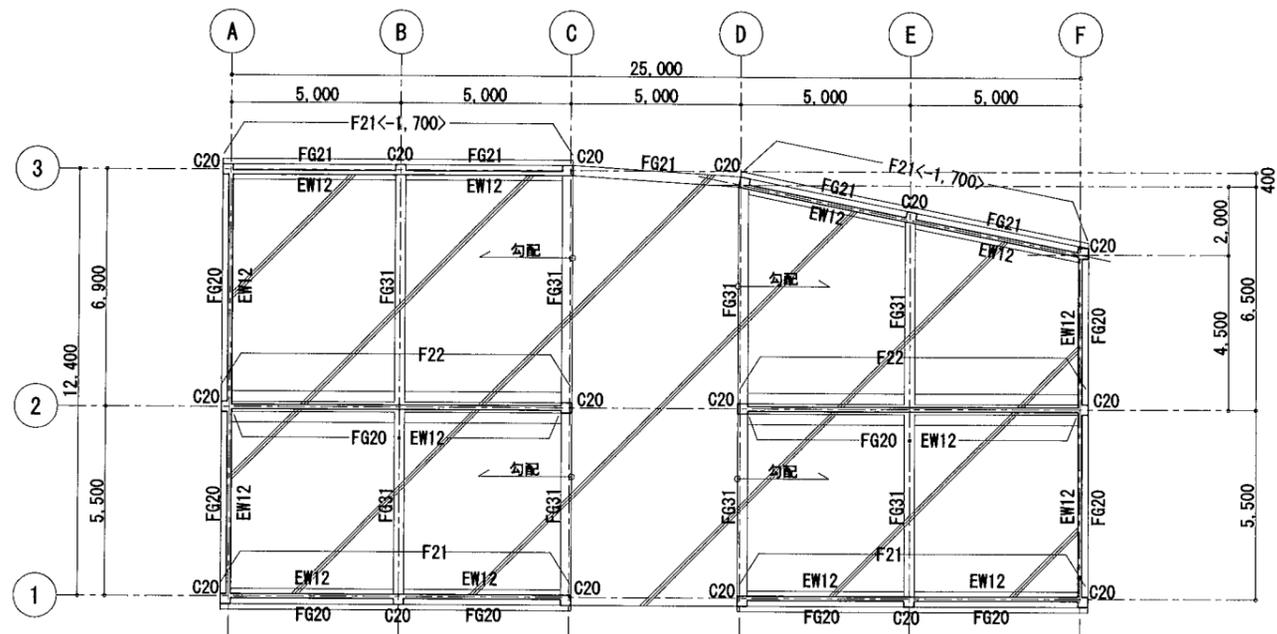
標 尺	層 高	厚 度	柱 状	土 質	色 相	相 対	密 度	記 事	孔内水位/測定月日	標準貫入試験		原位置試験	試験採取	室内
										深 度	打撃回数			
m										0	1020			
										1.15	2	4		
										1.45	2	3		
										2.15	2	3		
										2.45	2	3		
	44.76	3.70	3.70							3.15	2	3		
										3.45	2	3		
										4.15	5	8		
										4.45	7	10		
										5.15	7	10		
										5.45	10	15		
	44.01	2.75	6.45							6.15	10	15		
										6.45				



ボーリング位置図 A1:S=1/200  
A3:S=1/400  
は、申請建物を示す。

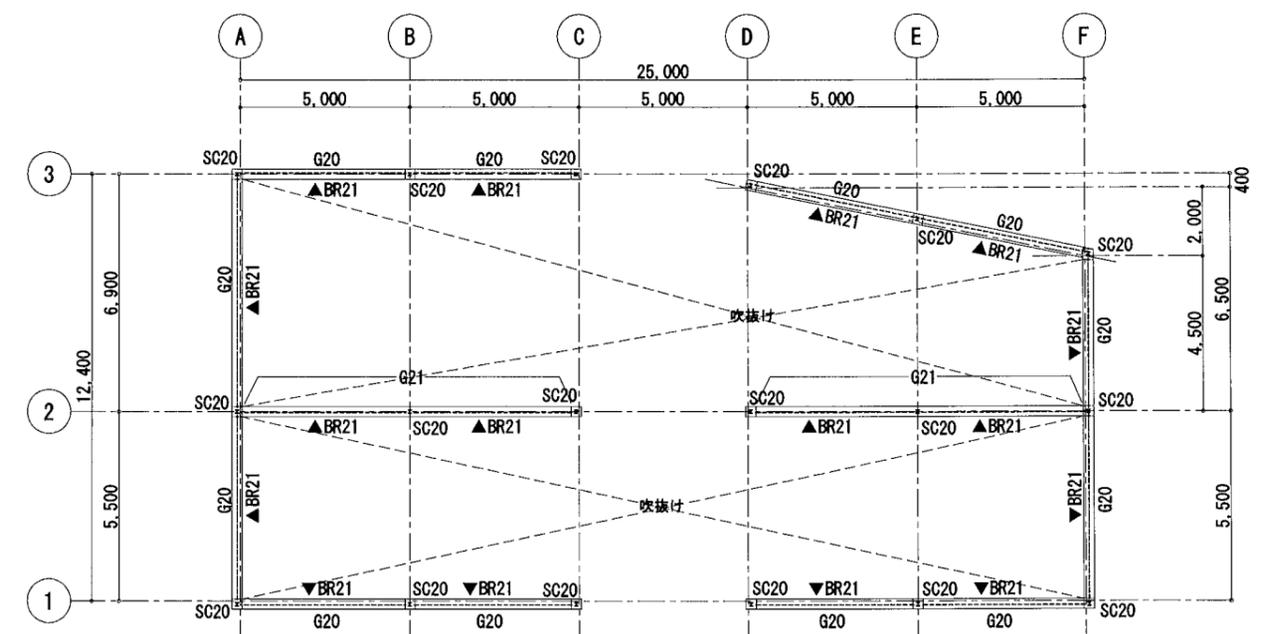
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理宮3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事 工事場所	日付 平成 28 年	図面内容 堆肥舎 ボーリング位置図、土質柱状図 縮 尺 A1:S=1/200 (A3:1/400)	図面番号 TS-1
					月 日		

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典



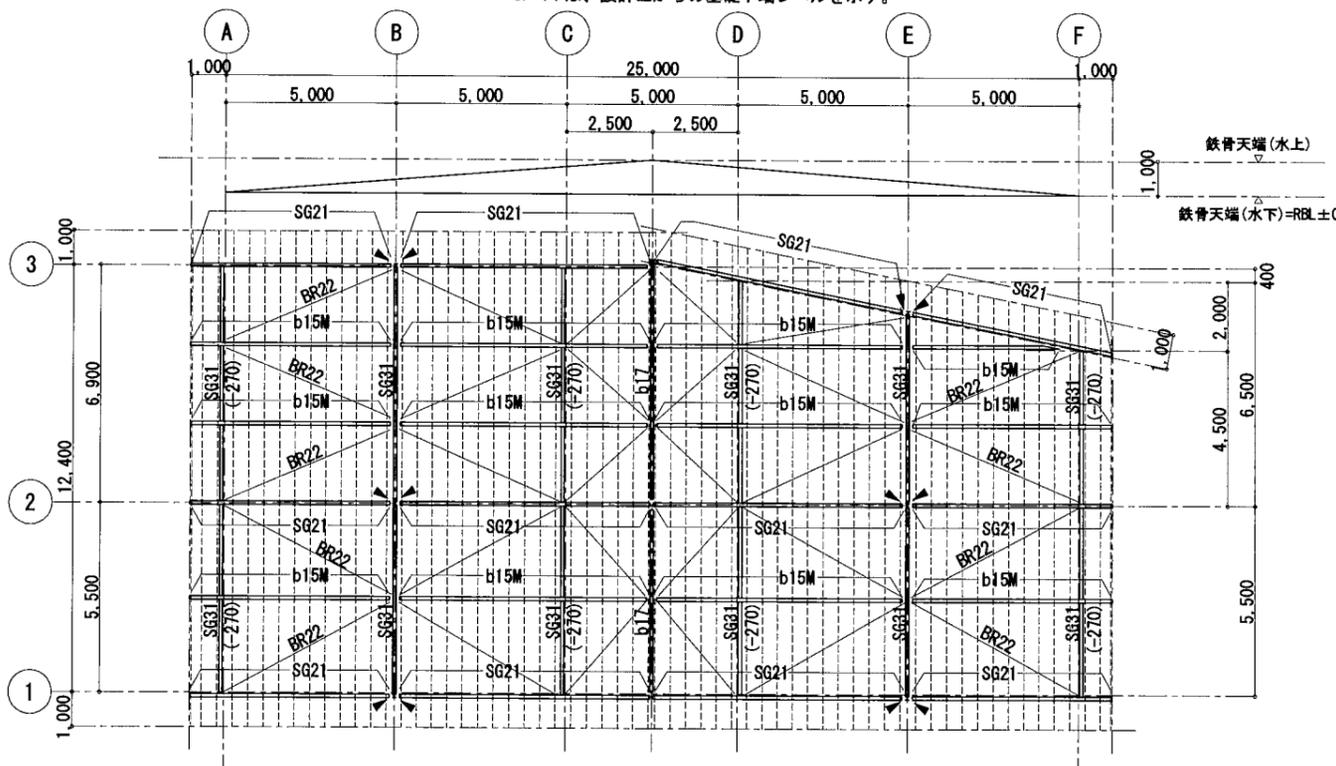
基礎伏図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. は、土間コンクリート (t=100) を示す。
  2. 基礎梁天端レベル=設計1FL-150
  3. 基礎梁天端から土間コンクリートまでを増打ちとする。
  4. 1FL=設計GL+200
  5. 基礎下端=設計GL-400
  6. <>は、設計GLからの基礎下端レベルを示す。



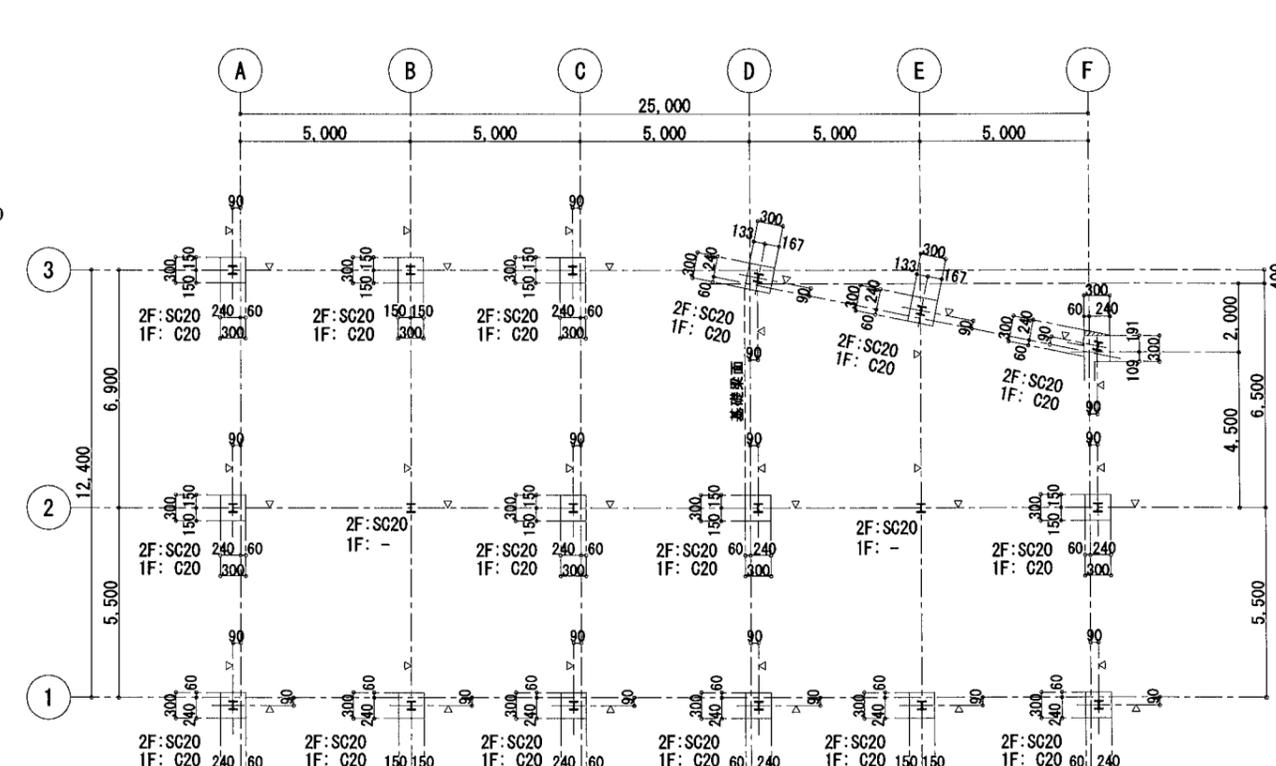
M階 (設計GL+2, 100) 伏図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. 梁天端=設計GL+2, 100
  2. ▼は、筋交いの位置を示す。



R階伏図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
1. プレースは、BR21とする。
  2. 母屋は、杉:60X105(無等級)@450 PL-2.3( [ 形曲げ加工 )
  3. ▲印は、大梁接合を示す。
  4. ( )内は、梁天端レベルを示す。

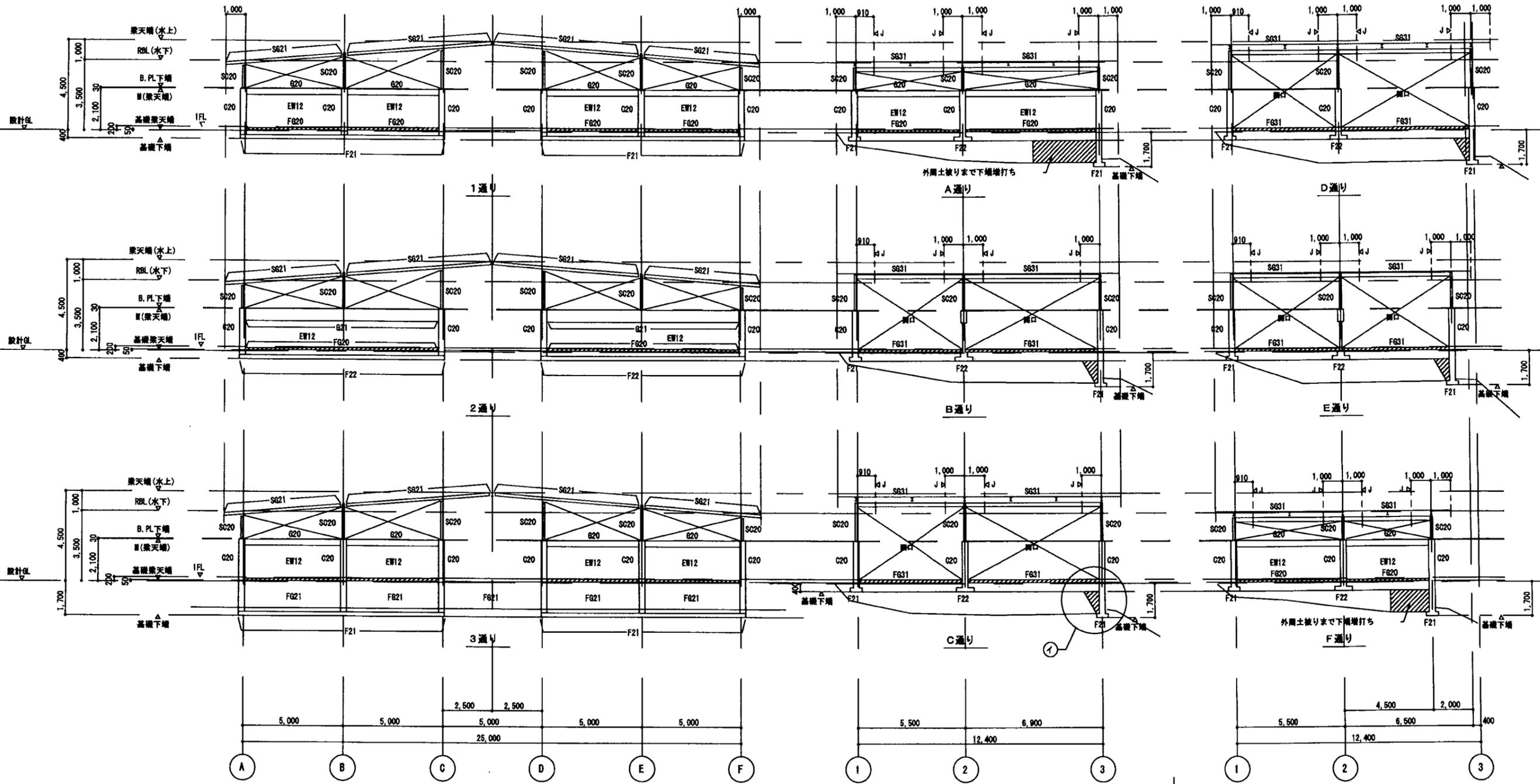


柱芯線図 A1:S=1/40・100  
A3:S=1/80・200

- 特記
1. ▼は、鉄骨柱芯を示す。
  2. は、増打ちを示す。

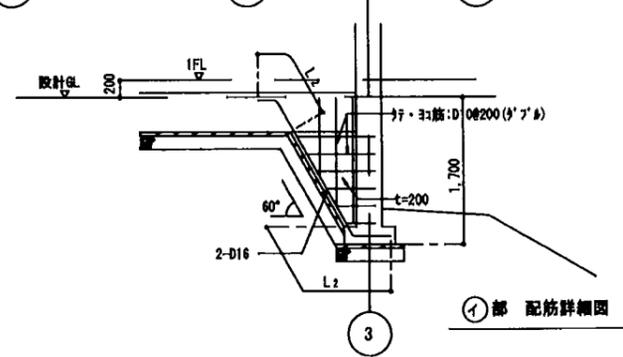
イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192 一級建築士 266066 松田健治	管理建築士 設計	工事名称	日付	図面内容	図面番号
				農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事			
				工事場所	月	縮尺	
					日	A1:S=1/40・100 (A3:1/80・200)	



軸組図 A1:S=1/100  
A3:S=1/200

- 特記
- 筋交いは、BR21(X形)とする。
  - 斜線は、増打ちを示す。



部 配筋詳細図 A1:S=1/40  
A3:S=1/80

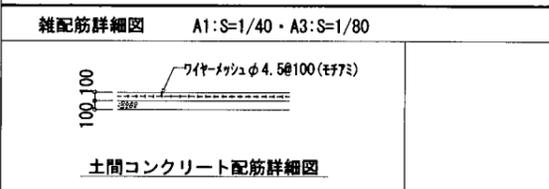
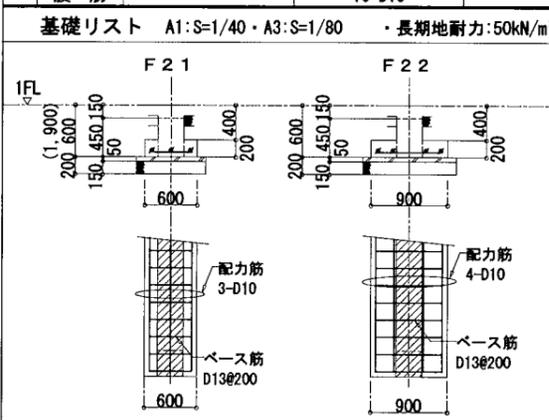
MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武雄 浦添市舞臺客3丁目2番24-201	一級建築士事務所	事務所兼機 182 - 192	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 28 年	図面内容 堆肥舎 軸組図	図面番号 TS-3
		一級建築士	266066 松田龍治			工事場所	月 日	尺 寸 A1:S=1/100 (A3:1/200)	
		TEL 877-5609	FAX 878-9429						

イン・オリジナル一級建築士事務所 (福岡県建築 第1-00869号)  
一級建築士 第292018号・構造設計一級建築士 第7488号 小林弘典

RC柱リスト A1:S=1/40・A3:S=1/80	
符号	C20
仕口フープ	□-D10@100
断面	
主筋	4-D19
フープ	□-D10@100
仕口フープ	□-D10@100

RC梁リスト A1:S=1/40・A3:S=1/80 中止め筋:D10@1,000		
符号	G20	G21
位置	全断面	全断面
IFL+1,900		
断面		
上端筋	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19
スタップ	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	-	2-D10

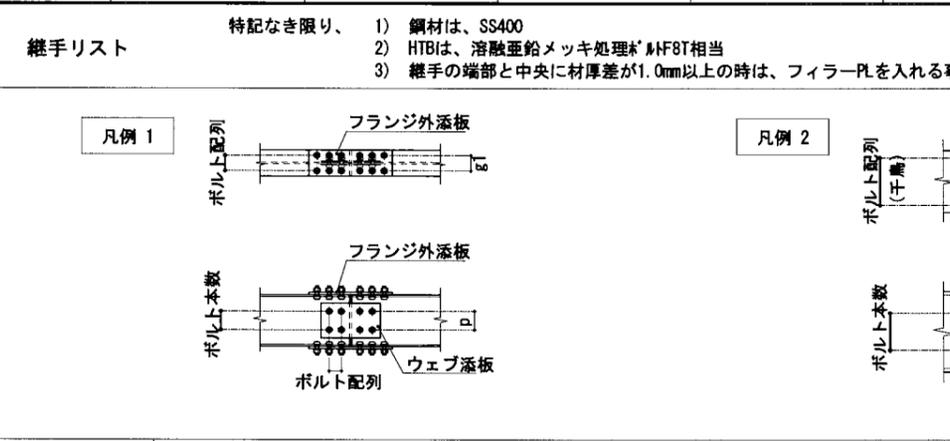
基礎リスト A1:S=1/40・A3:S=1/80 長期地耐力:50kN/m <sup>2</sup>			
符号	FG20	FG21	FG31
位置	全断面	全断面	全断面
IFL			
断面			
上端筋	2-D19	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19	2-D19
スタップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	-	10-D10	-



壁リスト A1:S=1/40・A3:S=1/80 中止め筋:D10@1,000	
符号	EW20 (シングル)
断面 (縦断面図)	
縦筋	D10@200
横筋	D10@200
開口補強	-
備考	-

柱・柱脚リスト 特記なき限り 1)鋼材:SS400、溶融亜鉛メッキ	
符号	SC20
断面	H-100X100X6X8
ベースプレート	BASEPL-19X200X200 A. BOLT: 2-M20, L=500 (ABR400)
アンカーボルト	ダブルナット締め 溶融亜鉛メッキ
無収縮モルタル	⑦50
RC柱形	
主筋	-
HOOP	-
備考	柱頭部仕口は鉄骨詳細図参照

大梁・片持ち梁断面リスト 特記なき限り、1)材種:SS400、溶融亜鉛メッキ 2)HTBは、溶融亜鉛メッキ処理*#F8T相当		
符号	SG21	SG31
R階	H-148X100X6X9	H-200X100X5.5X8
備考		



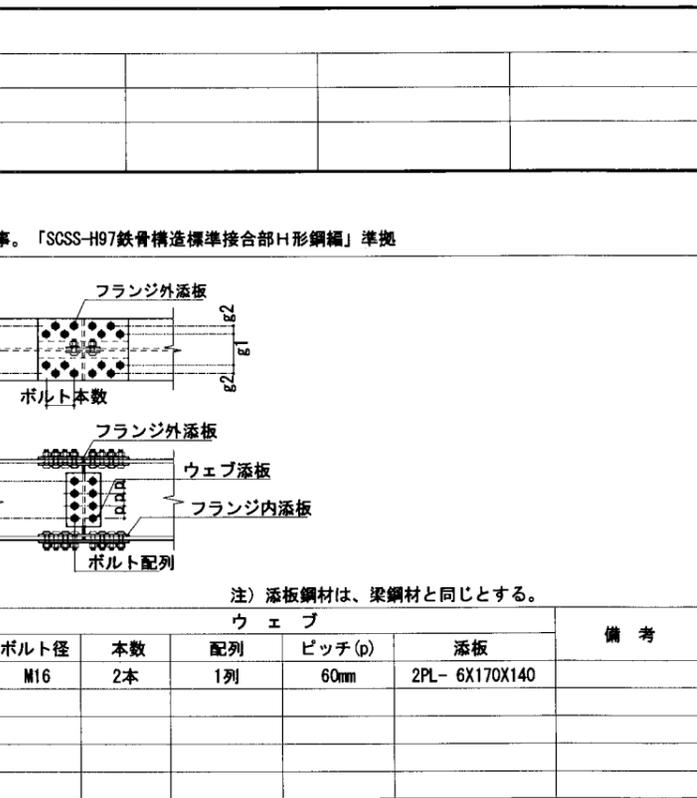
梁サイズ	フランジ				ウェブ				備考			
	ボルト径	本数	配列	ゲージ (g1)	ゲージ (g2)	外添板	内添板	ボルト径		本数	配列	ピッチ (p)
H-200X100X5.5X8	M16	2本	2列	56mm	-	PL-16X290X100	-	M16	2本	1列	60mm	2PL- 6X170X140

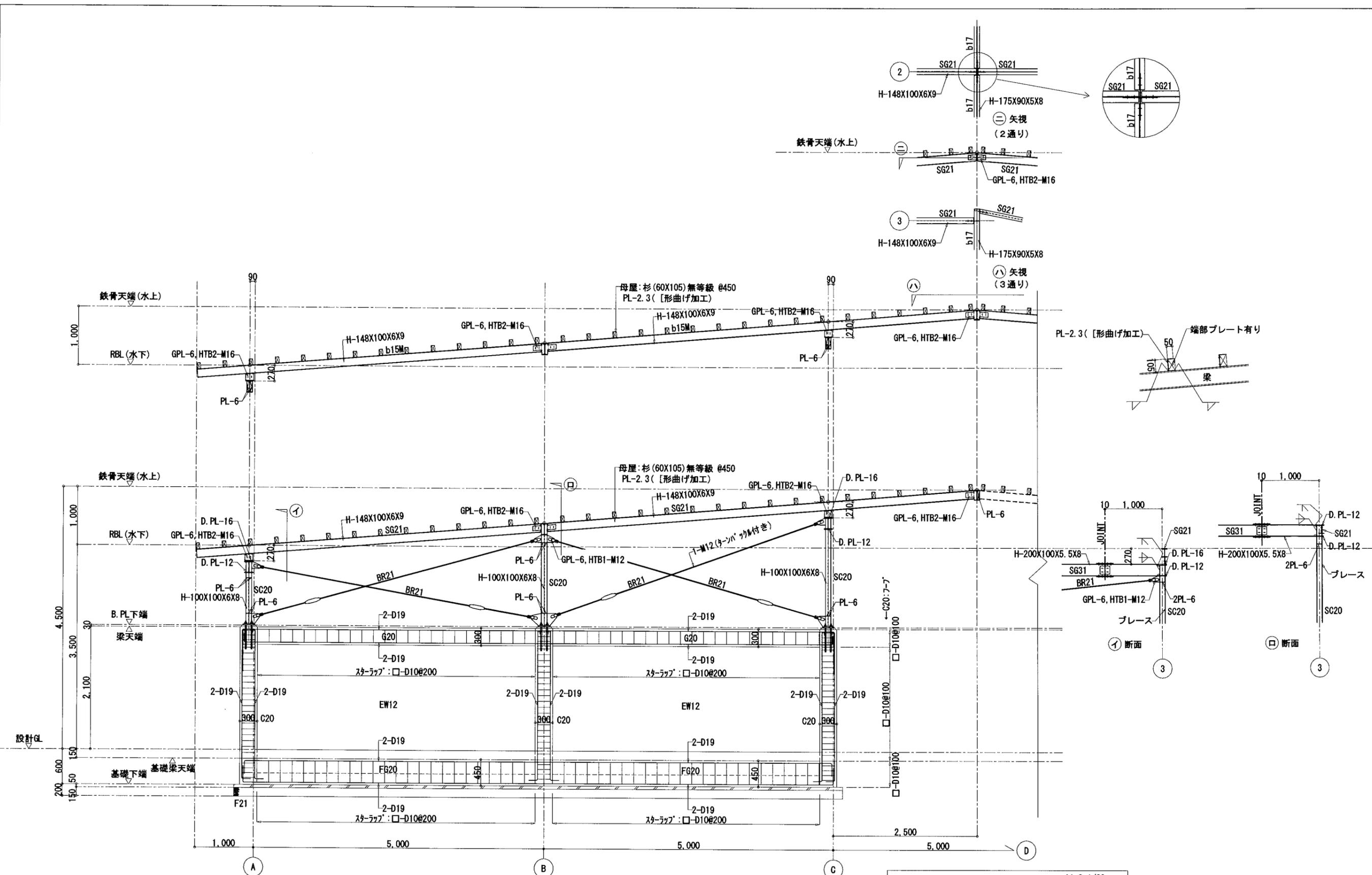
小梁断面リスト 特記なき限り、1) 材種:SS400, STKR400, SSC400、溶融亜鉛メッキ 2) HTBは、溶融亜鉛メッキ処理*#F8T相当 3) リブプレートは、ガセットプレートと同厚・同材質とする。						
符号	H形鋼サイズ	タイプ	ガセットプレート	HTB(本数)	添板	備考
b17	H-175X90X5X8	B	PL-6	2-M16		
b15M, SG21	H-148X100X6X9	A	PL-6	2-M16		
母屋	杉(60X105)無等級 @450	-	PL-2.3(「形曲げ加工)	2Xコ-スレット' φ3.8 (L=51, SUS)		端部プレート分ブレーナ削り

JISターンバックル筋かい 特記なき限り、1)材種:SS400、溶融亜鉛メッキ 2)HTBは、溶融亜鉛メッキ処理*#F8T相当							
符号	部材	引張耐力 (kN)	GPL-txb min	HTB	必要溶接長(L)		
					TYPE① L	TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
BR21	M12	21	6×60	1-M12	60	42	54
BR22	M16	38	9×70	1-M16	80	56	72

共通事項 e=40 t=ガセットプレート厚さ p=60 b=必要幅 Aタイプ Bタイプ M12~M22 M24~M33

タイプ① タイプ② タイプ③  
L ≥ Le L ≥ Le/2+2S L1, L2 ≥ Le/4+2S





3通り鉄骨および配筋詳細図 A1:S=1/30  
A3:S=1/60

注記  
1. 鉄骨は、全て溶融亜鉛メッキとし、  
完全溶込み溶接部は裏はつり溶接とする。

イン・オリジン一級建築士事務所(福岡県知事登録 第1-60659号)  
一級建築士 第280016号・構造設計一級建築士 第7496号 小林弘典

MEMO	株式会社 翁長設計 代表取締役 翁長武範 浦添市勢理客3丁目2番24-201 TEL 877-5609 FAX 878-9429	一級建築士事務所 事務所登録 162-192	管理建築士	設計	工事名称 農業生産法人有限会社平南ファーム鶏舎及び堆肥舎新築工事	日付 平成 28 年	図面内容 堆肥舎 鉄骨詳細図	図面番号 TS-5
		一級建築士 266066 松田健治			工事場所	月 日	縮尺 A1:S=1/30 (A3:1/60)	